

聖学院大学

2024年度

入学試験

過去問題集



Love God and Serve His People

聖学院大学

聖学院大学 2024年度

過去問題集

CONTENTS

Chapter1 2024 年度 入学試験問題		
公募制推薦入学試験	小論文	2
スポーツ推薦入学試験	小論文	3
社会人入学試験・編入学試験	小論文	4
指定校制推薦入学試験	口頭試問課題文	5
課題方式自己表現入学試験	課題テーマ（各学科）	7
一般入学試験 A日程	英語	8
	国語総合	12
	日本史 B（選択科目）	19
	世界史 B（選択科目）	23
	数Ⅰ／数Ⅱ・数A（選択科目）	26
一般入学試験 B日程	英語	29
	国語総合	33
一般入学試験 C日程	英語	41
	国語総合	45
一般入学試験 D日程	英語	53
	国語総合	57

Chapter2 2024 年度 入学試験講評		
公募制推薦入学試験 講評	小論文	64
一般入学試験 講評	英語（A～D日程）	65
	国語総合（A～D日程）	66
	日本史 B（A日程）	68
	世界史 B（A日程）	69
	数Ⅰ／数Ⅱ・数A（A日程）	70

Chapter3 2024 年度 一般入学試験 正答・配点		
一般入学試験 正答・配点	A日程	71
	B日程	73
	C日程	74
	D日程	75

Chapter4 2024 年度 入学試験結果		
2024 年度 入学試験結果		76

※本誌に掲載された、新聞記事、および著作物については、著作権者に許可をいただいたものを掲載しております。

2024 年度 聖学院大学

公募制推薦 入学試験 小論文 問題

問 次の文章を読み、以下の①と②について、合わせて 800 字以内で記述しなさい。

- ① 本文のリモート授業や仮想現実に関する著者の主張をまとめなさい。
- ② 著者の主張を踏まえて、あなたの意見や考え、経験を述べなさい。

「リモートのほうが有効なもの」

仕事や学業が仮想現実で修められるものかと思う方もいるだろう。しかし、2020 年のコロナ禍は、リモートでもこれらがそれなりに機能することを実証した。もちろん、人が実際に集まり、対面することで有効に機能する活動は多い。しかし、そうでないもの、中にはリモートのほうがずっと有益なものもあることが、同時にあぶり出された。

私は正直なところ、コロナ禍での Zoom やグーグルミートを使ったりリモート授業があまり面白くなかった。通常のディスプレイを使ってやっているのに、無理矢理リアルを比喻化した環境になっているのが原因だと考えている。

どうせリモートで授業をするのであれば、授業自体を仮想現実で構成してしまえばよいのである。低廉化されたコンシューマ向け VR 技術でも、みんなで車座になって座ったり、ホワイトボードに書き込んだり、ジェスチャーを交えてディスカッションしたりすることができる。

感染症のリスクなどは今後も社会にあり続けるだろう。また、リモートの教育に効果があることが示された今、体感的に拡大し続ける所得格差や多様な生き方に対応するための教育の処方箋として、リモート授業は有効な選択肢になっていくだろう。リモートでいいならば、仮想現実を使って授業をしたい、授業を受けたいという動きは、必ず出てくる。それはまだ実現していないだけで、約束された未来だと考えていい。

私も、リアルか、リモートのどちらでも授業形態を選んでよく、かつ仮想現実内でのリモート授業を行ってよければ、まず間違いなくそれを選ぶ。というのは、現代の教育現場では顧客満足度が重要な指標だからだ。

それ自体はよいことだと思う。従来の類型化した大学教授像の一部に見られるような、教員の独り言のような授業はいいものではない。

しかし、授業評価アンケートなどが重要度を増してくると、その評価に応じて報酬にも差をつけるといった動きも出てくる。報酬はどうせなら多いほうがいいので、評価がよくなるように策を巡らす。

授業評価アンケートで高評価への寄与が大きい変数はクラスサイズと教員の年齢だ。クラスサイズはともかくとして、仮想現実であれば年齢はごまかしがある。アバターの姿態を若くしておけばいい。私のような老人でも、ちょっとは評価が上がるかもしれない。これは授業だけでなく、高齢化せざるを得ない労働市場にも転用できるだろう。

仕事内容もそうだ。教育と同様に、ディスカッションやプレゼンテーションの多くは、リモート技術で置換可能である。それを望む者はかりではないが、望む者は存在し、その数は確実に増えている。普及が拡大しないのは、単にリモート技術が発展途上で、まだリアルに利便性が感じられるからだ。

今後の技術の高度化により、この懸隔は埋められていくだろう。人々が仮想現実内で過ごす時間を拡大させるならば、リアルでの会社の業務を仮想現実再現するだけでなく、仮想現実内で完結する仕事や仮想現実内でできない仕事も増えていく。

岡嶋裕史「メタバースとは何かーネット上の「もう一つの世界」」, 光文社

2024 年度 聖学院大学

スポーツ推薦入学試験 小論文 問題

問 次の福井新聞の記事を読み、以下の①②について、あわせて 600 字以内で述べなさい。

① この記事が解説する「プール授業が座学でよい理由」と座学にせざるを得ない背景について説明しなさい。

② 現在、全国的に、プールの学校設置の是非が議論されています。今後の公立学校におけるプール設置や水泳授業について、この記事をふまえて、自分の経験なども交えてあなたの考えを述べなさい。

「消える中学プール学習」

県内中学校でプール学習を取りやめる動きが相次いでいる。鯖江市は本年度から、福井市の一部や若狭町は新型コロナウイルス流行を機に 2020 年度からプール授業をなくし、全校で継続するのは 7 市町と半数以下。多額の費用がかかる施設改修を避け、教員の働き方改革も見直しの背景にある。学校の夏の"風物詩"が曲がり角を迎えている。

■体育館で「水泳」

「もし海や川で流されたら、慌てずに『浮いて待て』。よし、やってみよう」。6 月 30 日、鯖江市東陽中の 2 年生を対象にした水泳の授業は体育館で行われた。体育教員が手作りのスライドで水難事故を回避するポイントを伝え、命を守る安全な姿勢を生徒に体験させた。

同市教委^注によると、鯖江、中央、東陽の市内全 3 中学校のプールは築 40～45 年を迎え、試算では 3 施設の改修費は計約 10 億円。各校の協議を踏まえ、コスト削減のため昨年度をもってプール廃止を決めた。中学の学習指導要領は水泳場の確保ができない場合、「事故防止の心得」を取り上げればよいと定めており、3 校は座学を行う。

県内では多くの中学校でプールの改修時期を迎えていて、鯖江市のほか、若狭町の全 2 校や福井市の 6 校、越前町朝日中が 20 年度以降にプール学習を順次取りやめた。計 9 市町が全校で廃止、継続しているのは大野、勝山、池田、美浜、小浜、おおい、高浜の 7 市町と福井市の 4 校。小学校では「事故防止の学習効果が非常に高い」（市町教委）として全市町がプール学習を続けている。

■「時代に合わない」

公営・民営施設を活用する学校も目立つ。勝山市は 19 年度から市内 3 中学校の授業を市営プールに移して実施し、本年度からは指導もインストラクターに委託した。教員の業務負担を軽減し、生徒にとっては専門的な技術指導を受けられる利点もあるという。安全管理のため教員も同行する。

こうした動きに対し教員からは賛同する声が聞かれる。県内の体育教員は「プール学習は命に関わるので特に気を張る。早朝の勤務時間外に行う水質管理や施設の安全チェックの負担も小さくない」。別の教員は「水着になるのを嫌がる生徒が増え、日焼けを懸念する保護者もいる。それでもプールに入れ、というのは今の時代に合わないかもしれない」と話した。

◇プール学習の規定 学習指導要領では、中学校の水泳の授業は 1、2 年が必修、3 年生が器械運動、陸上、ダンスとの選択。水泳授業は実技を伴わない座学でも可とし、授業時間数の規定もない。小学校も同様に実技を必須とする決まりはない。高校は 3 学年とも選択制となり、プール学習の実施校は「ごく一部」（県教委）にとどまる。

「消える中学プール学習 実施市町半数以下に」福井新聞 2023 年 7 月 12 日日刊（3 面）

注）教委とは教育委員会を指す。

2024 年度 聖学院大学

入学試験 小論文 問題

問 次の文章を読み、以下の①と②について、合わせて 800 字以内で記述しなさい。

- ① 本文のリモート授業や仮想現実に関する著者の主張をまとめなさい。
- ② 著者の主張を踏まえて、あなたの意見や考え、経験を述べなさい。

「リモートのほうが有効なもの」

仕事や学業が仮想現実で修められるものかと思う方もいるだろう。しかし、2020 年のコロナ禍は、リモートでもこれらがそれなりに機能することを実証した。もちろん、人が実際に集まり、対面することで有効に機能する活動は多い。しかし、そうでないもの、中にはリモートのほうがずっと有益なものもあることが、同時にあぶり出された。

私は正直なところ、コロナ禍での Zoom やグーグルミートを使ったリモート授業があまり面白くなかった。通常のディスプレイを使ってやっているのに、無理矢理リアルを比喩化した環境になっているのが原因だと考えている。

どうせリモートで授業をするのであれば、授業自体を仮想現実で構成してしまえばよいのである。低廉化されたコンシューマ向け VR 技術でも、みんなで車座になって座ったり、ホワイトボードに書き込んだり、ジェスチャーを交えてディスカッションしたりすることができる。

感染症のリスクなどは今後も社会にあり続けるだろう。また、リモートの教育に効果があることが示された今、体感的に拡大し続ける所得格差や多様な生き方に対応するための教育の処方箋として、リモート授業は有効な選択肢になっていくだろう。リモートでいいならば、仮想現実を使って授業をしたい、授業を受けたいという動きは、必ず出てくる。それはまだ実現していないだけで、約束された未来だと考えていい。

私も、リアルか、リモートのどちらでも授業形態を選んでよく、かつ仮想現実内でのリモート授業を行ってよければ、まず間違いなくそれを選ぶ。というのは、現代の教育現場では顧客満足度が重要な指標だからだ。

それ自体はよいことだと思う。従来 of 類型化した大学教授像の一部に見られるような、教員の独り言のような授業はいいものではない。

しかし、授業評価アンケートなどが重要度を増してくると、その評価に応じて報酬にも差をつけるといった動きも出てくる。報酬はどうせなら多いほうがいいので、評価がよくなるように策を巡らす。

授業評価アンケートで高評価への寄与が大きい変数はクラスサイズと教員の年齢だ。クラスサイズはともかくとして、仮想現実であれば年齢はごまかしようがある。アバターの姿態を若くしておけばいい。私のような老人でも、ちょっとは評価が上がるかもしれない。これは授業だけでなく、高齢化せざるを得ない労働市場にも転用できるだろう。

仕事内容もそうだ。教育と同様に、ディスカッションやプレゼンテーションの多くは、リモート技術で置換可能である。それを望む者ばかりではないが、望む者は存在し、その数は確実に増えている。普及が拡大しないのは、単にリモート技術が発展途上で、まだリアルに利便性が感じられるからだ。

今後の技術の高度化により、この懸隔は埋められていくだろう。人々が仮想現実内で過ごす時間を拡大させるならば、リアルでの会社の業務を仮想現実再現するだけでなく、仮想現実内で完結する仕事や仮想現実内でなければならない仕事も増えていく。

岡嶋裕史, メタバースとは何かーネット上の「もう一つの世界」, 光文社

2024 年度 聖学院大学

学校推薦型選抜 指定校制推薦 1 期入学試験 口頭試問課題文

◇以下の課題文について、簡潔に内容を説明できるようにしておいてください。また、課題文の内容に関して、共感したところ、共感できないところ、気がついたこと、疑問に思ったこと等について質問するので、答えられるようにしておいてください。

学習相談に見る子どもたち

私たちは認知心理学に基づいた学習研究をしていて、その実践活動の一つとして子ども向けの「学習相談室」というのを開いてきました。地域の小・中・高校生に大学に来てもらって、私や学生たちが子どもたちの個別相談や学習指導をします。(中略) 子どもが行動主義のように反復と報酬が大事だという考え方をもっていると、物量主義的な学習観になりがちです。要するに、量をこなす。何時間勉強したか、あるいはきょうは問題を何問解いたというように、量だけを気にかけってしまうことになります。一方、認知心理学的な考え方ですと、学習というのは整合的な知識体系をつくっていくことです。それは、単に量をこなせばいいというものではなくて、意味を理解するとか、知識を関連づけるとか、そういう質的なことに注意を向けようという考え方にもなります。

これは課題にもよるので、一概にどちらが正しいということとは言えないと思うんですね。何回も反復してだんだんにできるようになっていくタイプの学習もあれば、意味を理解するというのが大切な学習もあるでしょう。だから、最終的には学習者が自分自身の考え方というものをもっと自分で納得いくように洗練されたものにして、自分の学習全体を自分でコントロールできるようになってほしいという思いがあるわけです。ただそのためには、これまでの自分のやってきた勉強法だけがいいのではなくて、いろいろな学習のしかたがある。そういうものを経験してみた上で、自分でもいいと思うものは取り入れていって、自分なりの学習スタイルをつくってほしいというのが、私たち研究会のメンバーの共通した考え方です。

(中略)

勉強法についての議論

実は、私たちの研究会で和田[秀樹:引用者注]さんの本がよく話題になりました。昔の『数学は暗記だ!』とか『受験は要領』などの本(いずれも、ごま書房)を取り上げて議論してい

ます。和田さんの推奨する勉強法というのは、初期の本の「数学は解法を暗記してしまえばよい」というように、認知心理学的な考え方からした時に、すごく引っかかるころがあったわけです。「暗記」というと、普通、意味もわからず丸暗記ということを想定してしまうことが多いので、これは和田さんの意図とは実は違っていたのかもしれませんが、とにかくわからなくても覚え込んでしまえばいいというふうに取れるところがある。(中略)ですから私はいつか一度、激論をしたいと思っていたのです。

その機会をいつかと思っていた時に、『受験勉強は子供を救う』(河出書房新社)という非常に刺激的な本を和田さんが出版しました。受験勉強というのがいかに子どもにとっていいものかという話で、実に挑発的なタイトルですよね。

(中略)

誤解されないように先に言っておきますと、私は、受験勉強というのはけっして全面的に悪いものとは思っていません。むしろ受験勉強ということを通じて自分の学習方法を見直すことができるし、学習内容自体も間違ったことを学んでいるわけではないのですから、生かそうと思えば大学でも社会に出てからも生かすことができるものです。受験勉強が問題だとすれば、むしろそこで非常にひずんだ学習観が固着してしまったり、せつかくやったことを後で全然使おうともせずに、遊んでしまうだけの大学生活を送ったり、教養的なものから離れてしまうような社会生活を送ってしまうこと。それは非常にもったいないことです。

(中略)

そこで和田さんと対論をして、(中略)『学力危機-受験と教育をめぐる徹底討論』(河出書房新社)という本にしたわけです。その過程で、実際に話をしてみますと、勉強のしかたについての議論というのはけっこう折り合ってしまったというか、お互いに納得できるころが多く出てきました。

(中略)

学習動機の違い

しかし、どうも話が合わないなという感じになってきたのは、(中略) 学習動機の話です。つまり、どうやったらやる気が出るかという話になった時なんですね。

(中略)

基本的には、和田さんはやはり行動主義的な外的報酬が個人的にも好きなのだと思います。和田さんはたとえば昔の受験本の中でも、「受験はなぜ大切か」と、読者に説得するつもりで書いているところがたくさんあります。和田さんが出す例には、いい大学に行くと、「一生涯の賃金がいかに違うか」とか、「女の子にもてるんだ」という話とか、外的報酬がしきりに出てきます。そういう例を出すというのは、本人も納得できるし、一般の人がそういう例で説得されるだろうと思って出していらっしゃるんだと思います。

(中略)

学校教育での動機づけの話について見てみましょう。和田さんは『パワーアップ論』の中で、世界の教育の流れもむしろ行動主義的になっていると言います。(中略) 要するに子どもはもっと外的な報酬を伴わせて、「勉強すれば得である、勉強しないと損をする」ということを学んだほうがよいということだと思います。「ゆとり」とか「子ども中心」とか言っていると、かえって弊害が出てくるというわけです。

これは和田さんの持論だと思うんですけど、「子どもの頃はきちんとした課題を与えたほうがよい」(p108)とされます。「きちんとした」ということは、何をやるべきかがはっきりしていて、正解、不正解も明確な課題のようです。今学校に導入されようとしている総合的な学習のようなものは、和田さんに言わせると非常にあいまいな課題なのでしょう。興味をもったテーマについて追求して発表するなんていうのは、何が正しいか、間違っているか、はっきりしない。そのような課題はあまり子供の時には与えないほうがよい。きちんとした課題で、努力すればそれなりにできるという課題を与えるほうが教育的である、アメリカがそういう方法をとってから少年犯罪は減っている、自殺率も減っているではないかというわけです。さらに、子どもの場合に限らず、大人も内発的な動機づけばかり強調するのはよくない。少なくとも「内発的な動機づけをもてないのならば、外発的な動機を用意するのが賢明だ」(p. 109)というのが、基本的な論点だと思います。

(中略)

日本では1970年代から80年代にかけて、テスト重視で、受験が非常に加熱した時があったわけですね。和田さんの主張から見れば、これは試験でプレッシャーをかけて競争心をあおり、その勝者には学歴や社会的地位という報酬が与えられるという理想的な時期だったのかもしれませんが。では、その時に日本の学校で何が起きたかという、ご存知のように校内暴力を中心とした学校病理現象です。勉強ができる子は確かにそういうシステムに乗ることができるのですが、内発的動機付けの高い子は、それなりに試験をゲーム感覚で楽しめるものですし、外発的な子どもたちは、成績が良ければいい大学に入れる、就職も良くなるということで勉強したかもしれない。しかし、どちらにも乗れなかった大量の子どもたちが出たわけです。内発的に勉強をおもしろいと思えないし、競争の中では負けてしまう生徒たちは、一斉に「こんなところに来たくない」ということで、校内暴力や不登校という形で荒れが起きてしまった。その時、自殺者は少なかったかもしれないけれども、学習というものに対して疎外感を味わう子どもがものすごくいたと思うんです。日本ではそういう形で現れたという苦い経験がある以上、試験を強化して、外発的なやり方で、もう一度昔のように勉強させようというのは、私はけっして望ましい対応策ではないと思います。

現在の学校の問題は何か

では、私が何が大切だと思っているかと言いますと、けっして純粋な内発だけではないんです。今の学校では内発も外発もうまくいきにくくなっている。つまり、競争心をあおって

とか、いい大学に入れるとか、お小遣いが増えるというプレッシャーがあまり効かなくなっている。(中略) かといって、純粋に内発的に、先生が授業をおもしろくするよう工夫しても、世の中にもっとおもしろいものはたくさんある。30年前だったらテレビゲームもなければ、ビデオもなければ、携帯電話もなかった。その時、学校の勉強とかスポーツとかいうものが、子どもの知的好奇心とかかなり向上心を満たすものになりえた。優秀な子どもたちはそういうものにエネルギーを注げた。ところが、今はほかにも興味をそそるものがたくさんある。先生がせつかく授業をおもしろく工夫しても、なかなか教科の学習のおもしろさが通じないという時代だと思うんですね。

私は、学校は何を考えるべきかという時に、一言で言ってしまうと、もっと実用志向を重視することだと思っているんです。つまり、今やっている学習そのものが自分の将来の仕事にも役立つし、社会で生活していく上にも役立つし、少なくとも何か自分の可能性を広げるものになるはずだと。単にどこかの大学に受かるとか、あるいはお小遣いが増えるとか、親にほめてもらえるとか、そういう意味での報酬ではなくて、その学習内容自体が大切なことなんだという実感を、子ども自身がもてるようなことを取り上げていく必要があるのではないかと。

そういう意味で、今度小・中・高校に導入される「総合的な学習の時間」にも、私は賛成しています。もちろん、教科の学習というのは、やはりこれからも学校教育の学習の中心ではあると思います。しかし、それだけではなくて、自分が大切だと思うテーマを設定してそれを追求していくような学び方というのが、今よりはもっとたくさん入ってきていいだろう。それが生徒の学習意欲を促すことにもなるだろう。ですから受験というプレッシャーではなくて、内容的な必要感を感じて学ぶということが学校の中に入ってきてもいいのではないかと。

市川伸一，学ぶ意欲の心理学，PHP 研究所

学 科	課題テーマ
政治経済学科	持続可能な開発目標（SDGs）における 17 の目標を確認し、関心のある目標を 1 つ取り上げて、その目標を達成するためにどのような取り組みをすればよいか述べてください。（600 ～ 800 字程度） ● SDGs の取り組みを検討するための参考図書です。 村上芽・渡辺珠子『SDGs 入門』日経文庫、日本経済新聞出版、2019 年。 ● SDGs の 17 の目標については、以下のウェブサイトなどを参照してください。 国連広報センター「持続可能な開発目標」 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/sustainable_development_goals/
欧米文化学科	異文化を理解するにあたって、現代の日本でその妨げになっていると思われるものを挙げ、なぜそう思ったか、どのようにすればそれを解決することができると思うか、あなたの考えを書いてください。（600 ～ 800 字）

学 科	課題テーマ
日本文化学科	あなたが日本文化学科の学生であると仮定して、ともに学ぶ留学生に対し、日本の文化の特徴や日本文化を学ぶ意義についてどのように説明するか書いてください。（課題テーマは当日開示）（600 字以上）
子ども教育学科	まず、子ども教育学科のかかげるディプロマ・ポリシーを読んでください。 さらに「子ども教育学科パンフレット」（※ web 参照）を確認してください。 その内容を踏まえた上で、①子どもが暮らしやすい社会の実現のために何をしたいか、②聖学院大学子ども教育学科でこれからどんなことを学びたいか、の 2 点について 600 字以上で記述してください。 
心理福祉学科	あなたが考える、共生社会の実現における今日的課題と、あなたが果たしうる役割はなにか（600 ～ 800 字以内）

I. 次の英文を読み、設問に答えなさい。

Harland Sanders had a life full of bad luck. Looking back at his younger years, middle age, and the last years of his working life, we might think that Harland was a failure.

When Harland was growing up, he was often asked this question: “What do you want to be when you grow up?” Harland, who had no answer for this question, seemed to be an (1) boy. Harland’s work career confirmed this. Harland began working as a farmer after he dropped out of school. He didn’t like that, so he became a streetcar conductor, collecting tickets and money from passengers. This did not interest him, either, so he joined the army. Not long after that, he quit.

Middle age was no better for Harland. In (2), it was worse, as he had a wife and child to support. He got a job as a *blacksmith. He hoped to open his own shop, (ア). Instead, he joined a railroad company. He liked this job, but the Great Depression came, and Harland was released.

Harland finally found his career path. In his 40s, he took a job as a cook and dishwasher at a restaurant. However, the government built a new highway in Harland’s town, and it ran (3) the restaurant. Again, he lost his job. He found another job at a different restaurant and cooked there. His friends told him to stop working, as he was already getting old.

At the age of 65, Harland started receiving (4) checks from the government. He carefully saved much from each check. Then one day he told his wife that he was going to open his own restaurant. His wife laughed and called him a (5).

Harland had one final piece of bad luck. In 1985, he was thrown into the Dotonbori River in Osaka. The fans were excited after winning the championship. Many say, however, that Harland was (イ)in the wrong place at the wrong time. He ended up in the river mainly because he looked like Tigers’ slugger Randy Bass. 24 years later, he finally (6) out of the water.

Harland had already died by 1985, however. His statue had been thrown into the river, a plastic statue standing in front of his popular restaurant. Just after Harland opened his first restaurant, his bad luck ran out. People loved his one recipe: Fried chicken. In his late 60s, Harland, who was the founder and owner of KFC, Kentucky Fried Chicken, (ウ).

*blacksmith：鍛冶工

Robert Juppe, 馬場幸雄, Premium Reader Pre-intermediate, 金星堂

問1. 空所(1)～(6)に入れるのに最も適切な語を1つずつ選びなさい。

- (1) a. aimless b. emotional c. enthusiastic d. organized
- (2) a. addition b. contract c. fact d. particular
- (3) a. after b. off c. through d. up
- (4) a. body b. health c. pension d. traveler’s
- (5) a. chef b. dreamer c. genius d. planner
- (6) a. dropped b. got c. kept d. ran

問2. 空所(ア)に入れるのに最も適切なものを1つ選びなさい。

- a. and that was the best decision he had ever made
- b. but he gave up this idea
- c. for he was interested in the job
- d. so he tried to find another job

問3. 下線部(イ)の意味として最も近いものを1つ選びなさい。

- a. a dangerous place at night
- b. no map, no watch
- c. right on schedule
- d. unlucky

問4. 空所(ウ)に入れるのに最も適切なものを1つ選びなさい。

- a. had failed in business again
- b. had finally found good luck
- c. had fulfilled his childhood dream
- d. had suddenly become a millionaire

問5. 本文の内容と一致するものをa～hより3つ選びなさい。

- a. Harland started working after finishing school.
- b. Harland didn’t like being a streetcar conductor or a farmer.
- c. Harland liked the job in the army and worked for a long time.
- d. If he could, Harland wanted to stay with the railroad company.
- e. Harland’s wife always believed in him.
- f. In 1985, Harland visited Japan, where he had an unfortunate accident.
- g. As he got older, Harland’s life got better.
- h. Harland worked not only in restaurants but also in other workplaces.

II. 次の対話において、(1)～(8)の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

1. A : I'm going to go to the convenience store.
 B : Can you pick me up a sandwich?
 A : Sure. [(1)]

a. They don't have sandwiches.	b. You're not going to the store.
c. It's a tasty sandwich.	d. What kind do you want?

2. A : It's really hot out. I need a cold drink.
 B : There's some water in the fridge.
 A : [(2)]

a. The fridge has some water.	b. The fridge is cold.
c. Is there any ice?	d. I don't know.

3. A : It's raining out. Don't forget your umbrella.
 B : Thanks. [(3)]

a. I almost forgot.	b. I will.
c. It's still raining.	d. I can't remember.

4. A : Did you finish your homework?
 B : [(4)] I didn't do my math homework yet.
 A : Well, you'd better hurry.

a. I'm not sure.	b. Not yet.
c. It's not my homework.	d. It's great.

5. A : How did you sleep last night?

B : Not great. [(5)]

A : Maybe you need a new pillow.

a. I feel well rested.	b. It's too early.
c. I slept a long time.	d. My neck hurts.

6. A : What's for breakfast?

B : Cereal or toast. [(6)]

A : I'll have some toast.

a. It's time for lunch.	b. Your choice.
c. You can't choose.	d. It's time to get up.

7. A : Do you want to go get some lunch?

B : [(7)]

A : Okay. Maybe next time.

a. I brought mine today.	b. Let's have lunch.
c. Do you like spaghetti?	d. I'm really hungry.

8. A : Are you going to the gym today?

B : Yes. [(8)]

A : I can meet you there around six.

a. I have to work.	b. I already went this morning.
c. I'm going for an hour after work.	d. It's today.

Ⅲ. 次の幸運のお守りについての説明を読み、その内容と合っているものを a～j より 3 つ選びなさい。

1. Hamsa Hand



The Hamsa Hand is a universal symbol of protection and good fortune. It is also known as the Hand of Fatima. This palm-shaped design has distinct characteristics: an open hand with three extended fingers in the middle and two shorter fingers positioned on each side. In the center of the palm, there is often a design known as the evil eye. The Hamsa Hand is crafted from various materials making it a visually striking lucky charm.

2. Dala Horse



The Dala Horse is a wooden object from Sweden. Traditionally carved in the shape of a horse with pointed ears, it features colorful patterns in shades of blue, red, and white. Its friendly expression is often characterized by a curved mouth. The legs are typically short and sturdy, supporting the object's body. Displayed in homes, the Dala Horse carries with it a sense of Swedish heritage and well-being in the lives of those who possess it.

3. Four-Leaf Clover



A four-leaf clover is a floral treasure known for its positive significance. Its physical characteristics include four heart-shaped leaves sprouting from a single stem. The leaves are green and have a smooth texture. Each leaf is thought to represent four blessings: hope, faith, love, and luck. In terms of size, these clovers are small and can easily fit in your hand. When discovered, it is often pressed in a book. Keeping it safe is a reminder of good fortune.

4. Maneki-Neko



The *Maneki-Neko*, also known as the "lucky cat," is a beloved Japanese object with a unique charm. Typically made of plastic or a ceramic, it is a cat with one paw raised in a waving gesture. The other paw is holding a gold coin modeled after the *ryo*, an older form of Japanese currency. The different colors of the cat represent different fortunes—white means prosperity, gold means wealth, and black wards off evil.

- a. The Hamsa Hand is crafted from one specific material making it a striking lucky charm.
- b. The Hand of Fatima features an open hand with two fingers in the middle and three on each side.
- c. The Dala Horse gives a feeling of well-being among those who own it.
- d. The Dala Horse is displayed as decorative items in businesses for good luck.
- e. Each leaf of the four-leaf clover represents three blessings such as hope, faith, and luck.
- f. A four-leaf clover is a reminder of good fortune.
- g. The *Maneki-Neko* is made of metal and holds a gold coin in one paw.
- h. The lucky cat is holding a new form of Japanese currency.
- i. Three out of the four lucky charms look like animals.
- j. All four items above are symbols of good luck.

IV. 各文の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

- (1) The student promised () late for the class again.
a. not be b. not being c. not to be d. not was
- (2) He shared his opinions () the latest AI advancements on his tech blog.
a. at b. in c. on d. with
- (3) Emma and Sophia () each other since they were children.
a. has known b. have known c. know d. knows
- (4) I can't reach the top shelf. I'm not ().
a. enough tall b. most tall c. tall enough d. taller enough
- (5) The novel wasn't () I thought it would be.
a. as interesting as b. most interesting of
c. so interesting than d. too interesting that
- (6) The lady () wallet was stolen called the police.
a. when b. where c. whom d. whose
- (7) After the festival, everyone helped to () the trash.
a. break over b. get on c. look around d. pick up
- (8) The movie was so () that I fell asleep halfway through.
a. bore b. bored c. boredom d. boring
- (9) I have () money left in my bank account, so I can't buy anything.
a. lot b. many c. no d. such
- (10) We had to () our plans because of the typhoon.
a. burn down b. call off c. take off d. turn up

V. 次の各文の [] の中の単語を並べ換えて日本語の意味に相当する英文を完成させるとき、[] 内で3番目と5番目にくるものを、それぞれ選びなさい。

- (1) あなたはこの薬を1日3回飲まなければいけない。
You [a. a b. medicine c. must d. take e. this
f. three g. times] day.
- (2) 生涯1度もパリには行ったことがない。
I [a. been b. have c. in d. my e. never
f. Paris g. to] life.
- (3) 自宅から学校までどれくらいの距離ですか。
How [a. far b. from c. house d. is e. it f. to
g. your] school?
- (4) 毎日英語を勉強し続けるのは難しい。
It [a. difficult b. English c. every d. is e. keep
f. studying g. to] day.
- (5) 彼女は数学の試験で満点をとった。
She [a. a b. got c. her d. math e. on
f. perfect g. score] test.

【問題一】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

1920年代も終わりに近づいた昭和の初期に、日本の聴衆の前で初めて歌われたシャンソンという音楽は、太平洋戦争による足踏みはあったものの順調に発展し、約30年後の昭和30年代に入る頃にはブーム期が訪れ、日本のポピュラー音楽を牽引する音楽のひとつになった。しかしその後は種々の競合する音楽とのせめぎ合いもあり、そのブームも徐々にチン静化していった。

日本経済がまだバブル景気のピークで絶好調だった1990(平成2)年、日本のシャンソン・ファンから、聖地のよう^{ホリ}に崇められていた東京・銀座のシャンソン喫茶「銀巴里」^{ギンパリ}が、惜しまれつつ半世紀近くの歴史にピリオドを打った。それは日本のシャンソンの退潮を象徴する出来事だった。今は銀座7丁目に、「元 銀巴里跡」の石碑が寂しく残る。

シャンソンはどこへ行ってしまったのだろうか。これからも日本に戻ってくることはないのだろうか。我々日本人のシャンソンとの付き合い方に何か問題があったのだろうか。そのところを少し考えてみたい。

長らく表舞台に出ることがなかった日本のシャンソンに、久しぶりに晴れの舞台が訪れた。2021(令和3)年8月8日、東京オリンピックの閉会式でのことだ。そこでシャンソンの名曲、「愛の讃歌」が歌われた。歌ったのは東京出身の日本人歌手Milet(ミレイ)だった。彼女はエディット・ピアフが作詞したオリジナルのフランス語の歌詞と、岩谷時子^{イハタトコ}が訳詞して越路吹雪^{エチロフユキ}が歌った日本語の歌詞の両方で歌った。この年、東京で新型コロナウイルスの蔓延^{まんえん}のなかでカン行されたオリンピックが、次回2024年の開催地パリでは、平穩^{へいへん}に開催されることへの祈りを込めて歌われたのである。

この歌が歌われるシーンは世界中の人々がテレビで視聴したが(残念ながら閉会式は無観客で行われたので)、感動を覚えた人も少なかったことだろう。生前の越路吹雪を知る日本のシニアの人々には、若き日に耳にした越路の名唱がよみがえり、当時に立ち帰る思いを持った人も少なかったはずだ。シャンソンもいいなと思った若い人もいたかもしれない。

しかし長くシャンソンを聴いてきたシャンソン・ファンにとっては、何とも物足りない「愛の讃歌」であった。どんなに短くても3分半はかかるこの曲が、約2分に短縮された。前半のAメロ提示部は一部省略、後半のBメロ(サビの部分)は全部省略という有様だった。ショー全体での時間の制約があるにせよ、それはいいよ」とつぶやいたシャンソン・ファンもいたことだろう。

もうひとつ気になったことは、フランス語と日本語のどちらも理解できる人は、このときに歌われた前半と後半の歌詞のトーンの違いに違和感を覚えたのではないか。前半の岩谷時子の日本語訳詞は純粋で甘い愛の歌だが、後半のフランス語の原詩ではそれが深刻で激しい愛の歌になっている。それをひとりの歌手がひとつの歌として歌ったのだから。

だからといって、この歌唱が東京からパリへと引き継がれるオリンピックの閉会式にふさわしくなかったと言うつもりはない。久しぶりに訪れたシャン

ソンの名曲の晴れ舞台を素直に喜ぶべきだろう。

このような大舞台で、日本のシャンソンの絶頂期の歌ともいえる「愛の讃歌」を歌ったのが若いシンガー・ソングライターだったことは、日本のシャンソンの現状を反映しているといえるだろう。

日本でのこの歌の創唱者ともいえる越路吹雪もすでに亡く、深緑夏代、中原美紗緒、岸洋子らのベテラン歌手たちも皆この世を去った。しかし残念ながらシャンソン専門の若い歌手は育っていない。そのためこのような役割は、シャンソンのスペシャリストではなく、今回のように幅広い分野の歌に挑戦している歌手のなかから、シャンソンを歌える歌手が選ばれることになったのだろう。

このようなことは昨今のシャンソンのコンサートでは起りがちなことである。毎年恒例の日本のシャンソンの祭典、「パリ祭」でもこれにルイ^{ルイ}似ることが見られる。

このところ「パリ祭」のコンサートメインの出演者となっているのは、美川憲一、前田美波里、鳳蘭、高畑淳子、ROLLYなどの顔ぶれで、普段からシャンソン歌手と呼ばれている人々ではない。これらの歌手が、「パリ祭」ではシャンソンを歌っている。2021(令和3)年の「パリ祭」でゲスト歌手として出演し、「ドミノ」と「パラ色の人生」を歌って評判がよかった藤あや子も、演歌歌手ではあるがシャンソンも歌う、レパートリーの広い歌手だ。

今や日本でも数少なくなったシャンソンの祭典Ⅱ「パリ祭」のステージに、シャンソンのスペシャリストの歌手がほとんどいない。それは現在のシャンソンの不振を如実に示しているのではない。この「パリ祭」の主催者は毎年若手のシャンソンの新人歌手を発掘するためのコンテストも行っている。その他にも同様のコンテストが行われている。しかし、残念ながらそこからも現歌手が出てこないのが現状だ。もうシャンソンのスペシャリストは育たないのだろうか。

シャンソンを歌うことの難しさについて、美輪明宏は自著『紫の履歴書』のなかでつぎのように指摘する。

シャンソンは、c中のc。フランス歌曲の発声に、発音、囁き、語り、絶叫、メロディックな唱法、また、リズムも、ワルツ、タンゴ、

ツ・ビート、フォー・ビート、その他ラテンリズム、それらの全てが含まれている。さまざまなジャンルがあり、全くの化け物だ。一人前のシャンソン歌手になるにはこれらを乗り越えなければならない。新人歌手にとっては容易なことではない。「パリ祭」のイベントに大勢の歌手が出演するのも、それぞれが自分の得意な曲を、数曲歌えばよいということが許されるからかもしれない。ましてひとり歌うワンマン・コンサートやリサイタルで、シャンソンだけを20曲以上も歌うことは大変なことだ。なかなか本格的なシャンソン歌手が生まれないのも、わかるような気がする。

日本のシャンソン歌手にとって、フランス語でシャンソンを歌うためにフランス語を正しく発音し発声するのは、必要不可欠なことだ。今もシャンソン歌手を目指すならば誰もが、フランス語を習得する努力を続けていることだろう。そのためにフランスに留学する者も少なくないはずだ。

しかしそのような努力があっても、残念ながら日本人がネイティブのフランス人のレベルまでのフランス語を習得することは容易ではない。それはフランス語を習得しようとするものなら誰もが感じているはずだ。

さらにもし日本人歌手が完璧なフランス語でシャンソンを歌ったとしても、それを日本の聴衆、日本のシャンソン・ファンが、受け止めることができるかどうかという問題もある。それは歌手がフランス語でシャンソンを歌うことよりも、さらに難しいことだろう。

このようなことも日本人歌手がシャンソンを歌う場合に、日本語に訳して歌われることが多くなった大きな要因⁽⁴⁾ではないだろうか。それは日本で初めてシャンソンがステージで歌われた、昭和初期の宝塚少女歌劇団の公演から早くも始まった。日本語で歌われるシャンソンはストリートに日本人の心に訴えかけてくる。

それからの日本のシャンソンは、フランス生まれの魅力あふれるメロディに、同じくフランス生まれの心を打つ原詩をもとにして作られた日本語の歌詞を載せた、日本独自のスタイルのシャンソンとなり、発展していくことになった。それは、なかにし礼が、喫茶店「ジロー」で初めて日本人歌手の歌うシャンソンを聴いたときには、すでに始まっていた。

もちろん日本におけるシャンソンは、日本人歌手による日本語のシャンソンだけが発展したわけではない。フランスの歌手によるフランス語のオリジナルのシャンソンを聴くファンも早い時期からいたことは確かである。それはフランスからの輸入レコード、あるいは輸入原盤の日本プレスによるレコード、つまり日本のレコード会社が発売する『洋楽』レコードで楽しむ、あるいはそれがラジオで流れるのを楽しむという、コアなシャンソン・ファンである。またフランスからのアーティストの来日コンサートには、本場のフランス語のシャンソンを聴くために、普段は日本語のシャンソンを聴くファンが詰めかけたことも確かである。

だが戦後になって日本のシャンソン・ブームが訪れたときには、その中心にあったのは、やはり日本人が歌う日本語のシャンソンであった。日本のシャンソンは日本語のシャンソンを愛する人々によって支えられていた。彼らはフランス語ではなく日本語のシャンソンを楽しんだ。

ところで日本語で歌われるシャンソンは、本当にオリジナルのフランスのシャンソンの歌詞を忠実に日本語に置き換えたものなのだろうか。それは必ずしもそうとは言いいれない。確かに初期の作品では歌詞は忠実に『翻訳』されていた。しかし日本のシャンソンが成熟するにつれて、『訳詞』や『意訳』あるいは『作詞』までされるケースも多くなった。岩谷時子訳詞の『愛の讃歌』はそのような『作詞』に近い、『訳詞』の例である。

このような日本語の歌をシャンソンと呼んでよかったのだろうか。それらはフランス製のシャンソンのメロディを使って、そこに日本の作詞家が日本語の歌詞を書き、それを日本の歌手が歌うという、シャンソンとは似て非なるポピュラー・ソングではないのだろうか。

日本語で歌われるようになったシャンソンが、日本でブームと呼ばれるような状態にまで発展していくにつれて、日本の歌謡曲がシャンソンに影響されるという傾向が起り始めた。そのためにいつのまにかシャンソンと日本の歌謡曲の、音楽としての境界線がはつきりなくなるという現象が起った。

このようなシャンソンと日本の歌謡曲のユウ合傾向は、じつは日本でまだシャンソンが元氣だった頃から、すでに見られたことである。その時代、すなわちテレビの初期の時代の音楽番組のなかに、それがよくわかる番組がある。

1961(昭和36)年4月にNHKテレビの音楽バラエティ「夢であいましょう」がスタートした。この番組では中村八大(作曲)と永六輔(作詞)による作品が、今月の歌として毎月発表され、その多くがヒットしたが、ほとんどの曲は日本製のシャンソンともいえる曲だった。シャンソンに限りなく近い歌謡曲だったといってもよいかもしれない。中村八大はジャズだけではなく、シャンソンにも並々ならぬ興味を持ち、銀座の「銀巴里」の常連としても通いつめ、シャンソンを深く愛する作曲家だった。

彼は番組のテーマ曲の「夢であいましょう」(歌・坂本スミ子)をはじめ、「遠くへ行きたい」(歌・ジェリー・藤尾)、「おさななじみ」(歌・デューク・エイセス)、「故郷のように」(歌・西田佐知子)、「こんなにちは赤ちゃん」(歌・梓みちよ)などのヒット曲を次々に世に送り出したが、それらはどれもシャンソンのエスプリに満ちていた。

このなかの、「遠くへ行きたい」「こんなにちは赤ちゃん」は、シャンソンとしてフランスでもレコードが発売された。番組テーマ曲の「夢であいましょう」はミューゼットとして、フランス人歌手によりアコーディオンの伴奏で録音されている。

「夢であいましょう」のようなテレビ番組が生まれたのは、日本の歌謡曲が発展を始めた時期である。この時期にはシャンソンだけではなく、アメリカン・ポップス、ブリティッシュ・ロック、フォーク、ジャズ、ラテン音楽など海外のポピュラー音楽が日本の歌謡曲にも盛んに取り入れられて、和製ポップスと呼ばれる音楽が生まれ、もてはやされるようになっていた。

さらに時代が進むと、ニューミュージック、シティポップ、J-POPなどの新たな音楽の流れも起こったが、これらの流れのなかでも、シャンソンは他の欧米の国々の音楽と並んで、強い影響力を持つようになっていた。

しかしそのように日本の歌謡曲に影響を与えるいっぽうで、シャンソンという音楽そのものは、歌われること、聴かれることが、徐々に少なくなっていくた。それは日本の歌謡曲がシャンソンの影響を受けるといって受け身の状態ではなく、逆にシャンソンを飲み込んで、自らの音楽に取り入れるようになったからではないか。結果としてシャンソン・ファンもそれに気がつき、歌謡曲に惹きつけられるようになって、シャンソン離れが起ったのではないかと、ということだ。言い換えれば、それはシャンソン・ファンが日本の歌謡曲に、シャンソンの匂い^Eを強く感じるようになったということでもある。「夢であいましょう」を聴いた多くのシャンソン・ファンも、そのことを意識していたか無意識だったかは別にして、感じ取っていたのではないか。

原語で歌うか日本語で歌うか、あるいは原語で聴くのか日本語で聴くのか、という問題は、シャンソンに限らず、外国で生まれた歌を、日本人歌手が歌うとき、あるいは日本の音楽ファンがそれを聴くとき、どうしても選択しなければならないことである。どちらを選ぶかはなかなか難しい。^d それでよかったのだろうか。

生明俊雄、シャンソンと日本人、集英社

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) チン静 | ① 珍妙 | ② 駄賃 | ③ 陳腐 | ④ 消沈 |
| (2) カン行 | ① 果敢 | ② 觀察 | ③ 所感 | ④ 発汗 |
| (3) ルイ似 | ① 係累 | ② 親類 | ③ 落涙 | ④ 本塁 |
| (4) 要イン | ① 因縁 | ② 陰湿 | ③ 隠居 | ④ 韻律 |
| (5) ユウ合 | ① 有休 | ② 猶予 | ③ 憂愁 | ④ 融点 |

問二 傍線部A「日本のシャンソンの退潮を象徴する出来事」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① シャンソンという音楽の人氣が、日本のポピュラー音楽の人氣に取って代わられてしまったこと。
- ② 東京の銀座にあった老舗のシャンソン喫茶が、客足が鈍ったことにより閉店してしまったこと。
- ③ 日本経済におけるバブル景気が破綻し、人々にシャンソンという音楽を聴く余裕がなくなってしまったこと。
- ④ 太平洋戦争への反省から、人々がシャンソンという音楽を積極的に受容することを控えてしまったこと。

問三 傍線部B「平穩に開催されることへの祈り」を説明したものととして**不適切なもの**を次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 二〇二〇年開催予定だった東京オリンピックが翌年に延期された背景となった、新型コロナウイルスの世界的な蔓延による人々に対する行動制限のような不測の事態がパリオリンピックで発生しないことを願うこと。
- ② パリでのオリンピックが、計画通りの日程でつつがなく実施され、開会式、競技、閉会式等、関連する行事のすべてが、観客を会場に入れて、東京オリンピックよりも前のような形で行われることを願うこと。
- ③ オリピックの会場に集う競技者や観客が、パリオリンピックを狙って企図されるテロや不慮の事故等に巻き込まれて、大きな怪我をしたり、命を失ったりするような事態が起きないことを願うこと。
- ④ パリオリンピックの期間中には、現在、世界の中で起きている国家間の紛争や対立する問題を一時的に停止してもらって、国際的な平和の祭典としてそれぞれの国々が団結して参加することを願うこと。

問四 傍線部C「日本のシャンソンの現状を反映している」を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 日本のシャンソンを支えてきたベテランに変わる新たな若手のシャンソン歌手が育たず、シャンソン以外を専門として、幅広い分野の歌に挑戦している歌手が、シャンソンを歌える歌手としてシャンソンを歌うことが現在では既成事実となってしまうこと。
- ② 日本のシャンソンは、これまでシャンソンを歌うことを専門とする先駆者やベテランらによって、その命脈を保ってきたが、本来フランス語で歌われるシャンソンの世代を超えた継承は難しく、歌手の中で歌唱力の高い歌い手たちが仕方がなく歌ってしまっているということ。
- ③ 先駆者やベテランといわれた日本のシャンソン歌手は、フランス語で流暢にシャンソンを歌うことができたため、本物のシャンソン歌手として日本の愛好家たちからは受け入れられていたが、今のシャンソン歌手は語学の点で他領域の歌手たちに遅れをとってしまっていること。
- ④ 先駆者やベテランと言われる歌手たちがフランスの歌謡界への否定的な評価からシャンソンを歌わなくなり、若手のシャンソン歌手もそれに追随してしまったために、シャンソンを歌える他領域の歌手が日本のシャンソンを支えなければならなくなってしまっていること。

問五 空欄 a 〃 c に当てはまる最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|------|----------|-----------|-----------|---------|
| 空欄 a | ① 物語っている | ② 神がかっている | ③ あざ笑っている | ④ 司っている |
| 空欄 b | ① 蝸牛 | ② 頭角 | ③ 牛頭 | ④ 鋭角 |
| 空欄 c | ① 世話物 | ② 生物 | ③ 季節物 | ④ 難物 |

問六 傍線部D「日本の聴衆、日本のシャンソン・ファンが、受け止めることができるかどうか」という問題」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① フランス語を日本人がネイティブのレベルまで習得することは困難であり、フランス人のようにには歌えないという問題。
- ② 多くの日本人は日本語が世界で一番優れた言語であるという自負を持っており、他の言語には興味を示さないという問題。
- ③ 日本人は外国語を理解するのが苦手なため、フランス語で歌われるシャンソンを積極的には聞きたがらないという問題。
- ④ 母国語の日本語で歌われていないため、その歌自体が日本人の心に素直に訴えかけてくるかわからないという問題。

問七 傍線部E「シャンソンの匂い」の「匂い」と置き換えられる言葉として最も適切なものを①～④から一つ選び、番号をマークしなさい。

- ① 風潮 ② 特徴 ③ 熱成 ④ 超克

問八 空欄 d に当てはまる最も適切な一文を①～④から一つ選び、番号をマークしなさい。

- ① 多くの日本人はシャンソンをフランス語で歌い、そして聴くことを選択した。
② 多くの日本人はシャンソンをフランス語で歌い、そして日本語で聴くことを選択した。
③ 多くの日本人はシャンソンを日本語で歌い、そして聴くことを選択した。
④ 多くの日本人はシャンソンを日本語で歌い、そしてフランス語で聴くことを選択した。

問九 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

イ 二〇二一年に開催された東京オリンピックの閉会式では、シャンソンの名曲「愛の賛歌」が、日本の若手のミュージシャンによって日本語とフランス語の両方の歌詞で歌われたため、バブル景気の崩壊以降のシャンソン不遇の時代に終止符が打たれたことが広く知れ渡ることになった。

ロ 日本のシャンソンの祭典と呼ばれている「パリ祭」において、以前はシャンソンを専門とする歌手がステージに上がって歌を披露していたが、昨今の同祭においては、演歌やロック等を専門とする歌手たちが、自らの専門領域を超えて歌うことが慣例化してしまっている。

ハ 美輪明宏はその歌手活動の中で、日本語でシャンソンを自然に歌うことの難しさについて悟り、日本人にはフランス人のように母国語のシャンソンを歌うことができないという理由で、自らのコンサートでシャンソンを歌うことをやめ、演歌歌手としてステージに立っている。

ニ 多くのヒット曲を生み出した作曲家の中村八大は、シャンソン喫茶の常連で、シャンソンに深い愛着と造詣を持ち、彼が生み出した「遠くへ行きたい」、「こんにちば赤ちゃん」といった歌謡曲は、シャンソンとしてシャンソンの祖国であるフランスでもレコードが発売された。

【問題二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

現代の私たちの社会が「異常」なものに対して向けていている関心の強さは、それ自体すでに十分、異常な現象というにあたっている。さまざまな異常な現象が今日のように赤裸々に報道され、過大に取り扱われて、センセーショナルな好奇心をあおった時代は、過去には例を見ないのではあるまいか。天候の異変、地震や津波、^A悪シツの流行、政治的・経済的な激動などのように、直接に私たち一人一人の生命や生活に影響を及ぼす異常事態に対して大きな関心が向けられることは、さして不思議なことではない。しかし、遠い外国の奇妙な風俗や習慣、テレビの「びっくりショウ」のたぐいに出てくる例外的な能力の持主、印刷ミスで番号の抜けた紙幣など、私たちの実生活には直接なんのかかわりもない「異常」のかずかずが、私たちにとってたいへんに大きな好奇心のまとなっている。スポーツの新記録や政治家の汚職が大きく報道されることは当然としても、連続何時間キスを続けた記録とか有名女優の私生活上のスキヤンダルとかがマスコミの恰好のタイトルになっている現象は、^Aまさに現代的である。

もちろん、このような現象の裏には、いわゆる「情報過剰」というこれまたすぐれて現代的な徴候が、その原因の一つとして作用しているだろう。しかし、情報を求める要求の存在しないところでは、情報はなんの価値をも持ちえない。この「情報過剰」という現象それ自体が、考えかたによっては、異常なもの、例外的なもの、珍奇なものに対する現代社会の過大な好奇心の産物とみなしうるかもしれないのである。

満腹しきっているときには、私たちは食物に対してあまり関心を示さない。欲求は欠乏の函数である。現代の社会が異常な現象に対してこれほどまでに強い関心を示すということは、私たちがなんらかの意味で異常に飢えていることを意味しているのではなからうか。「現代は異常の時代だ」といういい方が一般になされているようであるし、確かにそうに違いないのはあるけれども、その反面において、逆に現代の社会は「正常すぎる」ために異常を求めているのかもしれないのである。現代の社会というのは、正常さによって身動きがとれなくなつて、窒息しかかっている社会なのではないだろうか。ある意味では異常が少なすぎるために、その反作用で異常を求める傾向が過度に表面化して、「異常の時代」という外観を呈しているのだという見方でもできるかもしれないのである。

異常なできごととは、すべて規則性、法則性からの逸脱であり、プロバビリティ（ありそうなきことが起こる可能性）あるいは予測可能性からはずれた偶然ないし稀事とみることができる。ある偶然の生じうる可能性が低ければ低いほど、つまりその偶然を排除するプロバビリティが高ければ高いほど、それだけその偶然の異常度は増加する。その意味で、現代の私たちの社会は規則性をはずれた例外的な事態がだんだん起こりにくくなるような傾向をもった、つまり極めて高いプロバビリティによって支配された社会だといえることができる。

社会におけるプロバビリティの増大は、科学的知識の増加に比例する。科学技術の進歩によって、現実が起こってくるあらゆる事柄についてその規則性が精密に確定され、それに基づいて今後起こりうべき事態のプロバビリティが正確に予測されるようになると、その予想どおりに起こってきた事態は、い

かにそれが頻度の上からは稀なことであろうとも、もはや異常とはいわれえなくなる。その一例が日蝕である。かつてはこの上なく異常で不気味な現象として、おそらくは大きな呪術的な意味を帯びていたであろうところの日蝕も、現在では原理上は無限の未来にまでもわたって正確に予知可能となり、小学生の教材として利用されるまでにその異常さを失ってしまったという。また、最近大きな関心を集めている「バイオリズム」の説によれば、人生において遭遇するいつさいのことが、その人の出生に関する種々のデータから高い精度で算出できるといふ。

このようにして、科学に対する信仰あつき現代においては、一見偶然と思われるできごとすべて、科学の進歩が、だそこまでは及んでいないためにそう見えるだけであって、科学がもつと進歩した a にはもはや偶然とはいえなくなるに相違ないというように考えられている。科学の進歩は原理上無限と考えられるから、真の偶然というようなものは原理上存在しえないということになる。こうして「異常」のはいり込む余地がますますせばまってきている現代だからこそ、現代の社会は、いわば異常に対する飢えから、異常な現象に対しても貪欲な関心を示すのではあるまいか。

しかし、異常な事態に対して私たちが示す大きな関心は、単にこのような異常への欲求だけから説明しつくされるものではないだろう。単なる欲求から生じるものは直接的な行動であって、多少なりとも意識化された関心ではない。意識化された関心が成立しうるための条件は、欲求がみずからと反対の方向性を持つ一つの傾向とぶつかって、そのために行動化が抑止されるということである。しかもこの傾向というのは、単純に行動を阻止する反対力や、行動を増強することによって突破できるような外的な抵抗のようなものであってはならない。欲求と出遭うことによってそこに意識化された関心を生み出しうるような反対傾向とは、あくまでこの欲求自身と同一レベルにあつて、欲求の「こまこまにおいてこれと拮抗しうるような内的な抵抗でなくてはならない。つまりそれは、欲求が行動に移されてはじめてそこで遭遇する障害物ではなくて、欲求が欲求として働きつつあるそのあらゆる瞬間に——換言すれば欲求が欲求として働くというまさにその働き自体において——欲求にさからうものでなくてはならないのである。

私たちの社会が異常な事態に対して示す大きな欲求に、内的に拮抗している反対力とは、要するに異常に対する不安である。異常への欲求は、それが欲求として発生するその最初の瞬間に、すでにそれ自身の内部において、異常への不安という逆の力に出会うことになる。その結果、この異常への欲求は「怖いもの見たさ」という屈折した性質を帯びてくる。私たちの心の中にある異常への関心は、例外なくこの「怖いもの見たさ」という性格を有しているといえそうである。

この不安は、科学的に確定される規則性とこれに対する信頼に基礎を置いた合理性とによってその機能を保障されている現代の社会にとつては、さしたつては自己自身の存立にとつての脅威であるような例外性と非合理性とに向けられた不安という形をとって現われてくる。たしかに、一個の例外を許容するということはその規則性の秩序全体の存立を危くするだけの意味をもつ。もちろん、精密な物理学の実験のような場合にも、例外的な結果の生じることはあるだろう。しかし、この例外がそれ自体、たとえば十分に事情の解明されうる操作上のミスによるものというような形で、再び規則性と合理性との中につつま込まれるような場合には、そこになんらの不安も生じない。これに反して、感⁽²⁾コウするはずのない印画紙になにかの形が写つていたりして、

その原因がどうしても解明できないような場合には、そこに大きな不安が起る。

要するに、異常で例外的な事態が不安をひきおこすのは、安らかに正常性の地位に君臨しているはずの規則性と合理性とが、この例外的事態を十分に自己の支配下におさめえないような場合が生じたときである。つまりその例外が、合理性とは原理的に相容れない、合理化への道がアブリオリに閉ざされた非合理的の姿で現われる場合である。このような原理的・本質的な、アブリオリな非合理が——つまり、合理化の未完成ではなくて合理化が絶対的に不可能であるような非合理が——いやしくも存在するということは、その合理性が完全な意味での合理性ではなく、それ自体合理性に反するような欠陥を含んでいるということの意味する。この致命的な欠陥が私たちに不安にするのである。

そこで、現代という時代が科学の名のもとに絶対的な信仰を捧げている合理性が、はたしてそのような欠陥を含まぬ完全な合理性でありうるのかということが、あらためて問いなおされなくてはならないことになろう。科学とは、私たち人間が自然を支配しようとする意志から生まれてきたものである。それはいわば、自分自身もとをたどれば自然の一部にすぎなかったはずの私たちが、みずからを自然からひき離し、自然の頭上に舞い上つてこれをはるか上方から支配し、操作しようとする傲慢な意志の産物であった。そして、この支配を合法化し、これに絶対的な権限を与えるために、私たちの頭脳が作り上げた非常大権ともいふべき律法が、ほかならぬ合理性なのである。

ここで、自然そのものには、すくなくともそれが人間の野心によって征服される以前においては、いわゆる「合理性」のひとつかけらすら備わっていないかったのだということを、いくら強調しても強調しすぎることはいだらう。自然が今のように合理的・法則的な外観を呈しているのは、それが人間の支配のもとに屈服しているかぎりでのことなのである。合理性という名の律法による圧政のもとにおかれた自然は、それ自身合理的にふるまうよりほかなかったのである。

その際に人間の頭脳のとつた巧妙な支配技術は特筆するに値する。人間はまず、自然それ自身が外見上示している周期性に眼をつけた。太陽はほぼ一定の周期をもつて運行するし、動物も植物も、そして人間自身も、この周期とかなり一致した関係を保ちながらきままつた状態を反復する。自然をさらに微細に観察しても、やはり同じような周期性と反復性がすみずみまで行きわたつてるように思われる。これらの周期性と反復性を一定の体系の枠の中に拾い集めて編み出したもの、それが「合理性」といわれる組織にはかならない。自然は、みずからの姿にあわせて人間が仕立ててくれたこの囚衣をこばむはずがなかった。自然は人間の巧妙な權^カにかなったのである。この身にびつたりと合う囚衣を着せられて、自然は無邪気に満足し、この合理性の着衣を誇りにすら思うようになった。自然は人間に対して忠誠を誓い、人間に対して喜々としてその合理性の姿を示し、ついには人間も自然もともに、自然とは合理性の別名であるかのような錯覚におちいつてしまった。

ところが、自然自身すらとうの昔に忘れ去ってしまったかに見える自然の本性は、実は合理性とはなんのかかわりもないもの、むしろ非合理そのものなのだった。第一、自然が存在するということ自体が非合理以外のなものでもない。自然は、あるいはこの宇宙は、存在する必要もなしに存在しているに

すぎない。太陽の運行は確かに規則的である。しかし、太陽が存在するということが、それが運行しているということ、さらには人間を支えているこの地球が存在し、太陽との規則的關係において運行しているということ、地球上にそもそも生命なるものが存在するということが、これらはすべていつさいの規則性を超越した大いなる偶然である。そして、それは偶然である限りにおいて、合理性とは真正面から対立するものである。

この大いなる偶然性・非合理性こそは自然の真相であり、その本性である。それが人間の眼に見せている規則性や合理性は単なる表面的な仮構にすぎない。真の自然とはどこまでも奥深いものである。自然の真の秘密は私たちの頭脳でははかり知ることができない。そのような自然を人間は科学の手によって支配しようと企てたのである。そして、自然の上に合理性の網の目をはりめぐらせて、一応の安心感を抱いて、その上に文明という虚構を築きあげたのである。

現代の科学信仰をささえている「自然の合法則性」^Fがこのような虚構にすぎないとしたら、その上に基礎をおくいつさいの合理性はみごと**b** ^G ^H ^I ^J ^K ^L ^M ^N ^O ^P ^Q ^R ^S ^T ^U ^V ^W ^X ^Y ^Z ^{AA} ^{AB} ^{AC} ^{AD} ^{AE} ^{AF} ^{AG} ^{AH} ^{AI} ^{AJ} ^{AK} ^{AL} ^{AM} ^{AN} ^{AO} ^{AP} ^{AQ} ^{AR} ^{AS} ^{AT} ^{AU} ^{AV} ^{AW} ^{AX} ^{AY} ^{AZ} ^{BA} ^{BB} ^{BC} ^{BD} ^{BE} ^{BF} ^{BG} ^{BH} ^{BI} ^{BJ} ^{BK} ^{BL} ^{BM} ^{BN} ^{BO} ^{BP} ^{BQ} ^{BR} ^{BS} ^{BT} ^{BU} ^{BV} ^{BW} ^{BX} ^{BY} ^{BZ} ^{CA} ^{CB} ^{CC} ^{CD} ^{CE} ^{CF} ^{CG} ^{CH} ^{CI} ^{CJ} ^{CK} ^{CL} ^{CM} ^{CN} ^{CO} ^{CP} ^{CQ} ^{CR} ^{CS} ^{CT} ^{CU} ^{CV} ^{CW} ^{CX} ^{CY} ^{CZ} ^{DA} ^{DB} ^{DC} ^{DD} ^{DE} ^{DF} ^{DG} ^{DH} ^{DI} ^{DJ} ^{DK} ^{DL} ^{DM} ^{DN} ^{DO} ^{DP} ^{DQ} ^{DR} ^{DS} ^{DT} ^{DU} ^{DV} ^{DW} ^{DX} ^{DY} ^{DZ} ^{EA} ^{EB} ^{EC} ^{ED} ^{EE} ^{EF} ^{EG} ^{EH} ^{EI} ^{EJ} ^{EK} ^{EL} ^{EM} ^{EN} ^{EO} ^{EP} ^{EQ} ^{ER} ^{ES} ^{ET} ^{EU} ^{EV} ^{EW} ^{EX} ^{EY} ^{EZ} ^{FA} ^{FB} ^{FC} ^{FD} ^{FE} ^{FF} ^{FG} ^{FH} ^{FI} ^{FJ} ^{FK} ^{FL} ^{FM} ^{FN} ^{FO} ^{FP} ^{FQ} ^{FR} ^{FS} ^{FT} ^{FU} ^{FV} ^{FW} ^{FX} ^{FY} ^{FZ} ^{GA} ^{GB} ^{GC} ^{GD} ^{GE} ^{GF} ^{GG} ^{GH} ^{GI} ^{GJ} ^{GK} ^{GL} ^{GM} ^{GN} ^{GO} ^{GP} ^{GQ} ^{GR} ^{GS} ^{GT} ^{GU} ^{GV} ^{GW} ^{GX} ^{GY} ^{GZ} ^{HA} ^{HB} ^{HC} ^{HD} ^{HE} ^{HF} ^{HG} ^{HH} ^{HI} ^{HJ} ^{HK} ^{HL} ^{HM} ^{HN} ^{HO} ^{HP} ^{HQ} ^{HR} ^{HS} ^{HT} ^{HU} ^{HV} ^{HW} ^{HX} ^{HY} ^{HZ} ^{IA} ^{IB} ^{IC} ^{ID} ^{IE} ^{IF} ^{IG} ^{IH} ^{II} ^{IJ} ^{IK} ^{IL} ^{IM} ^{IN} ^{IO} ^{IP} ^{IQ} ^{IR} ^{IS} ^{IT} ^{IU} ^{IV} ^{IW} ^{IX} ^{IY} ^{IZ} ^{JA} ^{JB} ^{JC} ^{JD} ^{JE} ^{JF} ^{JG} ^{JH} ^{JI} ^{JJ} ^{JK} ^{JL} ^{JM} ^{JN} ^{JO} ^{JP} ^{jq} ^{JR} ^{JS} ^{JT} ^{JU} ^{JV} ^{JW} ^{JX} ^{JY} ^{JZ} ^{KA} ^{KB} ^{KC} ^{KD} ^{KE} ^{KF} ^{KG} ^{KH} ^{KI} ^{KJ} ^{KK} ^{KL} ^{KM} ^{KN} ^{KO} ^{KP} ^{KQ} ^{KR} ^{KS} ^{KT} ^{KU} ^{KV} ^{KW} ^{KX} ^{KY} ^{KZ} ^{LA} ^{LB} ^{LC} ^{LD} ^{LE} ^{LF} ^{LG} ^{LH} ^{LI} ^{LJ} ^{LK} ^{LL} ^{LM} ^{LN} ^{LO} ^{LP} ^{LQ} ^{LR} ^{LS} ^{LT} ^{LU} ^{LV} ^{LW} ^{LX} ^{LY} ^{LZ} ^{MA} ^{MB} ^{MC} ^{MD} ^{ME} ^{MF} ^{MG} ^{MH} ^{MI} ^{MJ} ^{MK} ^{ML} ^{MM} ^{MN} ^{MO} ^{MP} ^{MQ} ^{MR} ^{MS} ^{MT} ^{MU} ^{MV} ^{MW} ^{MX} ^{MY} ^{MZ} ^{NA} ^{NB} ^{NC} ND ^{NE} ^{NF} ^{NG} ^{NH} ^{NI} ^{NJ} ^{NK} ^{NL} ^{NM} ^{NN} ^{NO} ^{NP} ^{NQ} ^{NR} ^{NS} ^{NT} ^{NU} ^{NV} ^{NW} ^{NX} ^{NY} ^{NZ} ^{OA} ^{OB} ^{OC} ^{OD} ^{OE} ^{OF} ^{OG} ^{OH} ^{OI} ^{OJ} ^{OK} ^{OL} ^{OM} ^{ON} ^{OO} ^{OP} ^{OQ} ^{OR} ^{OS} ^{OT} ^{OU} ^{OV} ^{OW} ^{OX} ^{OY} ^{OZ} ^{PA} ^{PB} ^{PC} ^{PD} ^{PE} ^{PF} ^{PG} ^{PH} ^{PI} ^{PJ} ^{PK} ^{PL} ^{PM} ^{PN} ^{PO} ^{PP} ^{PQ} ^{PR} ^{PS} ^{PT} ^{PU} ^{PV} ^{PW} ^{PX} ^{PY} ^{PZ} ^{QA} ^{QB} ^{QC} ^{QD} ^{QE} ^{QF} ^{QG} ^{QH} ^{QI} ^{QJ} ^{QK} ^{QL} ^{QM} ^{QN} ^{QO} ^{QP} ^{QQ} ^{QR} ^{QS} ^{QT} ^{QU} ^{QV} ^{QW} ^{QX} ^{QY} ^{QZ} ^{RA} ^{RB} ^{RC} RD ^{RE} ^{RF} ^{RG} ^{RH} ^{RI} ^{RJ} ^{RK} ^{RL} ^{RM} ^{RN} ^{RO} ^{RP} ^{RQ} ^{RR} ^{RS} ^{RT} ^{RU} ^{RV} ^{RW} ^{RX} ^{RY} ^{RZ} ^{SA} ^{SB} ^{SC} ^{SD} ^{SE} ^{SF} ^{SG} ^{SH} ^{SI} ^{SJ} ^{SK} ^{SL} SM ^{SN} ^{SO} ^{SP} ^{sq} ^{SR} ^{SS} ST ^{SU} ^{SV} ^{SW} ^{SX} ^{SY} ^{SZ} ^{TA} ^{TB} ^{TC} ^{TD} ^{TE} ^{TF} ^{TG} TH ^{TI} ^{TJ} ^{TK} ^{TL} TM ^{TN} ^{TO} ^{TP} ^{TQ} ^{TR} ^{TS} ^{TT} ^{TU} ^{TV} ^{TW} ^{TX} ^{TY} ^{TZ} ^{UA} ^{UB} ^{UC} ^{UD} ^{UE} ^{UF} ^{UG} ^{UH} ^{UI} ^{UJ} ^{UK} ^{UL} ^{UM} ^{UN} ^{UO} ^{UP} ^{UQ} ^{UR} ^{US} ^{UT} ^{UU} ^{UV} ^{UW} ^{UX} ^{UY} ^{UZ} ^{VA} ^{VB} ^{VC} ^{VD} ^{VE} ^{VF} ^{VG} ^{VH} ^{VI} ^{VJ} ^{VK} ^{VL} ^{VM} ^{VN} ^{VO} ^{VP} ^{VQ} ^{VR} ^{VS} ^{VT} ^{VU} ^{VV} ^{VW} ^{VX} ^{VY} ^{VZ} ^{WA} ^{WB} ^{WC} ^{WD} ^{WE} ^{WF} ^{WG} ^{WH} ^{WI} ^{WJ} ^{WK} ^{WL} ^{WM} ^{WN} ^{WO} ^{WP} ^{WQ} ^{WR} ^{WS} ^{WT} ^{WU} ^{WV} ^{WW} ^{WX} ^{WY} ^{WZ} ^{XA} ^{XB} ^{XC} ^{XD} ^{XE} ^{XF} ^{YG} ^{YH} ^{YI} ^{YJ} ^{YK} ^{YL} ^{YM} ^{YN} ^{YO} ^{YP} ^{YQ} ^{YR} ^{YS} ^{YT} ^{YU} ^{YV} ^{YW} ^{YX} ^{YY} ^{YZ} ^{ZA} ^{ZB} ^{ZC} ^{ZD} ^{ZE} ^{ZF} ^{ZG} ^{ZH} ^{ZI} ^{ZJ} ^{ZK} ^{ZL} ^{ZM} ^{ZN} ^{ZO} ^{ZP} ^{ZQ} ^{ZR} ^{ZS} ^{ZT} ^{ZU} ^{ZV} ^{ZW} ^{ZX} ^{ZY} ^{ZZ} ^{AA} ^{AB} ^{AC} ^{AD} ^{AE} ^{AF} ^{AG} ^{AH} ^{AI} ^{AJ} ^{AK} ^{AL} ^{AM} ^{AN} ^{AO} ^{AP} ^{AQ} ^{AR} ^{AS} ^{AT} ^{AU} ^{AV} ^{AW} ^{AX} ^{AY} ^{AZ} ^{BA} ^{BB} ^{BC} ^{BD} ^{BE} ^{BF} ^{BG} ^{BH} ^{BI} ^{BJ} ^{BK} ^{BL} ^{BM} ^{BN} ^{BO} ^{BP} ^{BQ} ^{BR} ^{BS} ^{BT} ^{BU} ^{BV} ^{BW} ^{BX} ^{BY} ^{BZ} ^{CA} ^{CB} ^{CC} ^{CD} ^{CE} ^{CF} ^{CG} ^{CH} ^{CI} ^{CJ} ^{CK} ^{CL} ^{CM} ^{CN} ^{CO} ^{CP} ^{CQ} ^{CR} ^{CS} ^{CT} ^{CU} ^{CV} ^{CW} ^{CX} ^{CY} ^{CZ} ^{DA} ^{DB} ^{DC} ^{DD} ^{DE} ^{DF} ^{DG} ^{DH} ^{DI} ^{DJ} ^{DK} ^{DL} ^{DM} ^{DN} ^{DO} ^{DP} ^{DQ} ^{DR} ^{DS} ^{DT} ^{DU} ^{DV} ^{DW} ^{DX} ^{DY} ^{DZ} ^{EA} ^{EB} ^{EC} ^{ED} ^{EE} ^{EF} ^{EG} ^{EH} ^{EI} ^{EJ} ^{EK} ^{EL} ^{EM} ^{EN} ^{EO} ^{EP} ^{EQ} ^{ER} ^{ES} ^{ET} ^{EU} ^{EV} ^{EW} ^{EX} ^{EY} ^{EZ} ^{FA} ^{FB} ^{FC} ^{FD} ^{FE} ^{FF} ^{FG} ^{FH} ^{FI} ^{FJ} ^{FK} ^{FL} ^{FM} ^{FN} ^{FO} ^{FP} ^{FQ} ^{FR} ^{FS} ^{FT} ^{FU} ^{FV} ^{FW} ^{FX} ^{FY} ^{FZ} ^{GA} ^{GB} ^{GC} ^{GD} ^{GE} ^{GF} ^{GG} ^{GH} ^{GI} ^{GJ} ^{GK} ^{GL} ^{GM} ^{GN} ^{GO} ^{GP} ^{GQ} ^{GR} ^{GS} ^{GT} ^{GU} ^{GV} ^{GW} ^{GX} ^{GY} ^{GZ} ^{HA} ^{HB} ^{HC} ^{HD} ^{HE} ^{HF} ^{HG} ^{HH} ^{HI} ^{HJ} ^{HK} ^{HL} ^{HM} ^{HN} ^{HO} ^{HP} ^{HQ} ^{HR} ^{HS} ^{HT} ^{HU} ^{HV} ^{HW} ^{HX} ^{HY} ^{HZ} ^{IA} ^{IB} ^{IC} ^{ID} ^{IE} ^{IF} ^{IG} ^{IH} ^{II} ^{IJ} ^{IK} ^{IL} ^{IM} ^{IN} ^{IO} ^{IP} ^{IQ} ^{IR} ^{IS} ^{IT} ^{IU} ^{IV} ^{IW} ^{IX} ^{IY} ^{IZ} ^{JA} ^{JB} ^{JC} ^{JD} ^{JE} ^{JF} ^{JG} ^{JH} ^{JI} ^{JJ} ^{JK} ^{JL} ^{JM} ^{JN} ^{JO} ^{JP} ^{jq} ^{JR} ^{JS} ^{JT} ^{JU} ^{JV} ^{JW} ^{JX} ^{JY} ^{JZ} ^{KA} ^{KB} ^{KC} ^{KD} ^{KE} ^{KF} ^{KG} ^{KH} ^{KI} ^{KJ} ^{KK} ^{KL} ^{KM} ^{KN} ^{KO} ^{KP} ^{KQ} ^{KR} ^{KS} ^{KT} ^{KU} ^{KV} ^{KW} ^{KX} ^{KY} ^{KZ} ^{LA} ^{LB} ^{LC} ^{LD} ^{LE} ^{LF} ^{LG} ^{LH} ^{LI} ^{LJ} ^{LK} ^{LM} ^{LN} ^{LO} ^{LP} ^{LQ} ^{LR} ^{LS} ^{LT} ^{LU} ^{LV} ^{LW} ^{LX} ^{LY} ^{LZ} ^{MA} ^{MB} ^{MC} ^{MD} ^{ME} ^{MF} ^{MG} ^{MH} ^{MI} ^{MJ} ^{MK} ^{ML} ^{MM} ^{MN} ^{MO} ^{MP} ^{MQ} ^{MR} ^{MS} ^{MT} ^{MU} ^{MV} ^{MW} ^{MX} ^{MY} ^{MZ} ^{NA} ^{NB} ^{NC} ND ^{NE} ^{NF} ^{NG} ^{NH} ^{NI} ^{NJ} ^{NK} ^{NL} ^{NM} ^{NN} ^{NO} ^{NP} ^{NQ} ^{NR} ^{NS} ^{NT} ^{NU} ^{NV} ^{NW} ^{NX} ^{NY} ^{NZ} ^{OA} ^{OB} ^{OC} ^{OD} ^{OE} ^{OF} ^{OG} ^{OH} ^{OI} ^{OJ} ^{OK} ^{OL} ^{OM} ^{ON} ^{OO} ^{OP} ^{OQ} ^{OR} ^{OS} ^{OT} ^{OU} ^{OV} ^{OW} ^{OX} ^{OY} ^{OZ} ^{PA} ^{PB} ^{PC} ^{PD} ^{PE} ^{PF} ^{PG} ^{PH} ^{PI} ^{PJ} ^{PK} ^{PL} ^{PM} ^{PN} ^{PO} ^{PP} ^{PQ} ^{PR} ^{PS} ^{PT} ^{PU} ^{PV} ^{PW} ^{PX} ^{PY} ^{PZ} ^{QA} ^{QB} ^{QC} ^{QD} ^{QE} ^{QF} ^{QG} ^{QH} ^{QI} ^{QJ} ^{QK} ^{QL} ^{QM} ^{QN} ^{QO} ^{QP} ^{QQ} ^{QR} ^{QS} ^{QT} ^{QU} ^{QV} ^{QW} ^{QX} ^{QY} ^{QZ} ^{RA} ^{RB} ^{RC} RD ^{RE} ^{RF} ^{RG} ^{RH} ^{RI} ^{RJ} ^{RK} ^{RL} ^{RM} ^{RN} ^{RO} ^{RP} ^{RQ} ^{RR} ^{RS} ^{RT} ^{RU} ^{RV} ^{RW} ^{RX} ^{RY} ^{RZ} ^{SA} ^{SB} ^{SC} ^{SD} ^{SE} ^{SF} ^{SG} ^{SH} ^{SI} ^{SJ} ^{SK} ^{SL} SM ^{SN} ^{SO} ^{SP} ^{sq} ^{SR} ^{SS} ST ^{SU} ^{SV} ^{SW} ^{SX} ^{SY} ^{SZ} ^{TA} ^{TB} ^{TC} ^{TD} ^{TE} ^{TF} ^{TG} TH ^{TI} ^{TJ} ^{TK} ^{TL} TM ^{TN} ^{TO} ^{TP} ^{TQ} ^{TR} ^{TS} ^{TT} ^{TU} ^{TV} ^{TW} ^{TX} ^{TY} ^{TZ} ^{UA} ^{UB} ^{UC} ^{UD} ^{UE} ^{UF} ^{UG} ^{UH} ^{UI} ^{UJ} ^{UK} ^{UL} ^{UM} ^{UN} ^{UO} ^{UP} ^{UQ} ^{UR} ^{US} ^{UT} ^{UU} ^{UV} ^{UW} ^{UX} ^{UY} ^{UZ} ^{VA} ^{VB} ^{VC} ^{VD} ^{VE} ^{VF} ^{VG} ^{VH} ^{VI} ^{VJ} ^{VK} ^{VL} ^{VM} ^{VN} ^{VO} ^{VP} ^{VQ} ^{VR} ^{VS} ^{VT} ^{VU} ^{VV} ^{VW} ^{VX} ^{VY} ^{VZ} ^{WA} ^{WB} ^{WC} ^{WD} ^{WE} ^{WF} ^{WG} ^{WH} ^{WI} ^{WJ} ^{WK} ^{WL} ^{WM} ^{WN} ^{WO} ^{WP} ^{WQ} ^{WR} ^{WS} ^{WT} ^{WU} ^{WV} ^{WW} ^{WX} ^{WY} ^{WZ} ^{XA} ^{XB} ^{XC} ^{XD} ^{XE} ^{XF} ^{YG} ^{YH} ^{YI} ^{YJ} ^{YK} ^{YL} ^{YM} ^{YN} ^{YO} ^{YP} ^{YQ} ^{YR} ^{YS} ^{YT} ^{YU} ^{YV} ^{YW} ^{YX} ^{YY} ^{YZ} ^{ZA} ^{ZB} ^{ZC} ^{ZD} ^{ZE} ^{ZF} ^{ZG} ^{ZH} ^{ZI} ^{ZJ} ^{ZK} ^{ZL} ^{ZM} ^{ZN} ^{ZO} ^{ZP} ^{ZQ} ^{ZR} ^{ZS} ^{ZT} ^{ZU} ^{ZV} ^{ZW} ^{ZX} ^{ZY} ^{ZZ}

さまざまな異常の中でも、現代の社会がことに大きな関心と不安を向けているのは「精神の異常」^Gに對してである。「精神の異常」は、けつしてある個人ひとりの中での、その人ひとりにとつての異常としては出現しない。それはつねに、その人その他の人びととの間の關係の異常として、つまり社会的対人關係の異常として現れてくる。ある人の「氣が違った」ということは、さしあたっては、その人が特定のあるいは不特定の他人に對して示す行動がふつうではなくなったということである。だれにも迷惑をかけることなく、自分ひとりの孤独な世界の中へ閉じこもってしまうような種類の「異常者」もいるだろうけれども、そのような人でも、彼がいれば通常の意味での対人關係から欠落し、あるいはいけば一つの不在として対人關係の中に登場するという限りにおいて、關係の異常であることに変りはない。

このような場合には、自然現象の異常や政治經濟の異常とはちがって、私たち「一般人」とともに私たちの社会を構成している人間が、その社会構成行為それ自体において異常性を示すのであるから、こういった異常が私たちに与える脅威と不安はそれだけ大きなものとならざるをえない。社会は、いわば自己の内面構造の安否にかかわる危機を感じるようになる。

木村敏、異常の構造、講談社

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) 悪シツ | ① 人質 | ② 過失 | ③ 執念 | ④ 疾走 |
| (2) 感コウ | ① 光速 | ② 拘泥 | ③ 思考 | ④ 精巧 |
| (3) ケン固 | ① 先賢 | ② 露頭 | ③ 堅持 | ④ 檢拳 |
| (4) 報フク | ① 起伏 | ② 反復 | ③ 副業 | ④ 複雎 |
| (5) コ塗 | ① 模糊 | ② 頑固 | ③ 故意 | ④ 枯渴 |

問二 傍線部A「まさに現代的である」の理由を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 現代の社会では、センセイショナルな事態が一人一人の生命や生活に影響を及ぼす異常事態をひきおこすことになるから。
- ② 遠い外国の奇妙な風習や習慣、テレビの「びつくりショウ」のたぐいに出てくる「異常」が日常となっているから。
- ③ 実生活とは直接なんのかわりもない「異常」に對して、大きな関心が向けられている異常な現象がまさに現代を象徴しているから。
- ④ 「異常」なものと對する私たちの関心が、「情報過剰」という現象として理解される現代社会の異常事態を惹起してしまったから。

問三 傍線部B「極めて高いプロバビリティによって支配された社会」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 予測可能性からはずれた偶然ないし椿事が多発する、異常な出来事が頻発するような社会、ということ。
- ② 偶然の生じる可能性を保証し、容認することで、異常な出来事を異常として捉えることのない社会、ということ。
- ③ 「異常の時代」としての現代社会は、「正常すぎる」社会という一面のある、「異常」に飢えている社会、ということ。
- ④ 規則性、法則性から逸脱する事態が起こりにくくなる、すなわち異常なできごとが起こりにくくなるような社会、ということ。

問四 空欄 a・b に当てはまる最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

空欄 a	① あかつき	② 青天の霹靂	③ 大団円	④ 最果て
空欄 b	① 屋上屋を架す	② 羊頭狗肉	③ 登龍門	④ 砂上の楼閣

問五 傍線部C「単なる欲求から生じるものは直接的な行動であって、多少なりとも意識化された関心ではない」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 科学的知識の増加に比例して、社会のプロパビリティが増加することによって人々の「偶然」による異常を求める要求が高まることで、偶然の異常度が増加することになるが、これは実際の異常を過大評価した欺瞞の「関心」に過ぎない、ということ。
- ② 真の偶然というものが原理上存在しない現代社会において、異常で不気味な現象に対して私たちが取りうる態度は、その異常を好奇心の産物として捉えることであって、それ以外では科学的な規則性や法則性からの逸脱ということになってしまふ、ということ。
- ③ 異常な事態に対して私たちは貪欲な関心を示すが、この場合の「関心」は「異常」への欲求によって生じた「行動」に過ぎず、その異常に対する不安という内面的抵抗によってその「行動」が抑止されるような意識化された「関心」とは異なる、ということ。
- ④ 異常への欲求という私たちの「関心」の在り方を分析すると、好奇心からの欲求としての「行動」が、その好奇心と同一レベルの外的抵抗と内的抵抗の関与によって抑止されることで、異常への「関心」として意識化される構造になっている、ということ。

問六 傍線部D「アブリオリ」を言いかえる言葉として適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 形而上 ② 先験的 ③ 後天的 ④ 演繹的

問七 傍線部E「この致命的な欠陥が私たちに不安にする」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 科学的に確定される規則性に対する信頼を基礎に置く合理性によってその機能を保証されている現代の社会において、一つの例外を許容してしまふと、その規則性の秩序全体の存立を危うくしてしまうという致命的な欠陥があるという事実が「不安」をひきおこす、ということ。
- ② 正常性を保証している規則性と合理性に対して、それらとは原理的に相容れない、それ自身が合理性に反するような非合理的姿で現れることで、合理性が完全な意味での合理性ではないという致命的な欠陥によって、異常で例外的な事態が「不安」をひきおこす、ということ。
- ③ そこに写るはずのない何かが写されてしまったことを事実として認めてしまふと、写るはずがないという合理的な判断が否定されることとなり、写ることもあると合理的に認めざるを得なくなるため、「異常」を合理的に認めるという「不安」をひきおこす、ということ。
- ④ 現代という時代が科学の名のもとに絶対的な信仰を捧げている合理性は、理論的にその合理性を完全に備えるために「非合理性」を内包しなければならぬが、この構造は私たちの合理性の致命的な欠陥であると認識されることで「不安」をひきおこす、ということ。

問八 傍線部F「自然の合法則性」の内容を説明したものとして不適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「自然」の本性は、実は合理性とはなんのかわりもないものであって、むしろ非合理そのものである、ということ。
- ② 「自然」の存在は、その運行がいかに規則的であっても、その規則性を超越した「偶然」である限りにおいて非合理である、ということ。
- ③ 「自然」の真相は、大いなる偶然性・非合理性にあり、人間はそのような自然に対して科学で規則性や合理性を仮構したにすぎない、ということ。
- ④ 「自然」の非合理性は、現時点の科学の水準で説明することに限界があるため、表面的に手を加えて科学信仰をささげている、ということ。

問九 傍線部G「精神の異常」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① つねにその人その他の人びととの間の「関係の異常」として現れてくるもの、ということ。
- ② つねにある個人ひとりの中で、その人ひとりにとっての「異常」として出現するもの、ということ。
- ③ 通常の意味での対人関係を維持しながら、自分ひとりの孤独な世界の中へ閉じこもってしまうような「異常」、ということ。
- ④ その人が他者との関係性とは無関係に、自己の精神的な内面において強い「不安」とらわれるような「異常」、ということ。

問一〇 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

- イ 現代の社会を、「異常」なものと対して「異常」な関心をもつ、まさに「異常の時代」だとする指摘はすでに有効ではない。
- ロ かつて「日蝕」は異常で不気味な現象として、呪術的な意味を帯びていたが、現在ではその異常さを失ってしまったといえる。
- ハ 異常で例外的な事態は人々に「不安」を惹起するが、それはその例外的事態を規則性と合理性とでおさめることができない場合が生じたからであり、それは合理化が未完成であるからではなく、合理化が不可能な非合理が存在するということを意味している。
- ニ 現代社会は科学知識の増加によって極めて高いプロパビリティに支配された社会であるため、頻度の稀な中でも「異常」とはいわれなくなってしまうが、「怖いもの見たさ」という人間の根源的で貪欲な関心によってむしろ「異常への欲求」は高まっているといえる。

I. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

わが国の国力の充実と国家意識の高まりを背景に、国史編纂事業が開始された。6世紀に編纂されたとされる『帝紀』や『旧辞』をもとに天武天皇が臣下によりならわせた内容を、元明朝に〔A〕が筆録し、712年に『古事記』が完成した。『古事記』には、神代から推古天皇までの天皇の系譜や、天皇家の伝承が記された。また、元正朝には国家の正史とされる『日本書紀』も編纂された。『日本書紀』は、舍人親王らによって編纂され、神代から持統天皇に至る歴史を、中国の歴史書の体裁にならい、漢文の編年体で書かれていることに特徴がある。『日本書紀』をはじめとする正史の編纂は、最後の班田を実施したといわれている〔B〕天皇の時代まで続けられ、これをまとめて六国史と称した。六国史の記録はのちに遣唐使に任命される菅原道真の『類聚国史』によって分類・再整理されたことでも知られている。『類聚国史』は892年に成立した。

六国史の最後となる『日本三代実録』の編纂以降、朝廷による歴史書編纂事業は中絶したが、以後歴史書は主として民間で編纂されるようになった。院政期には、藤原道長の栄華を中心に叙述した『〔C〕』が著された。『〔C〕』は、四鏡の一つとされ、四鏡は平安時代末期から室町時代初期にかけてまとめられた。鎌倉時代に幕府によって著された『吾妻鏡』には、1221年におこった〔D〕の際に、尼將軍と称された北条政子が御家人らの結束を促す演説を行った場面が収録されている。室町時代には、建武の新政で当時の天皇を支えた北畠親房が著した『神皇正統記』によって、南北朝の動乱期における南朝の正統性が示された。北畠親房は、義良親王が長官を務める〔E〕の補佐役であった北畠顕家の父であり、吉野や常陸小田城などで作戦を指揮し、南朝勢力の保持・拡充に努めたことで知られている。

問1 文中〔A〕～〔E〕にあてはまる言葉もしくは人名をそれぞれ選択肢から一つずつ選びなさい。
解答番号は〔1〕～〔5〕。

- A ① 刑部親王 ② 藤原不比等 ③ 太安万侶 ④ 稗田阿礼
- B ① 醍醐 ② 宇多 ③ 村上 ④ 朱雀
- C ① 今鏡 ② 増鏡 ③ 大鏡 ④ 水鏡
- D ① 壬申の乱 ② 宝治合戦 ③ 平治の乱 ④ 承久の乱
- E ① 鎮西奉行 ② 陸奥將軍府 ③ 鎌倉府 ④ 鎌倉將軍府

問2 下線部（ア）に関連して、6世紀の出来事に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔6〕。

- ① 新羅の聖明王によって、欽明天皇に仏教が伝えられた。
- ② 崇峻天皇を暗殺した大臣の蘇我馬子が、政権を掌握した。
- ③ 中国南朝に朝貢した倭王武が、安東大將軍の称号を賜った。
- ④ 個人の才能や功績に応じて、冠位を与える制度が整備された。

問3 下線部（イ）に関連して、天武天皇の時代に鑄造された錢貨の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔7〕。

- ① 乾元大宝 ② 和同開珎 ③ 富本錢 ④ 開元通宝

問4 下線部（ウ）に関連して、口分田に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔8〕。

- ① 口分田は売買できず、死者の口分田は死後すぐに収公された。
- ② 租税を課すため、口分田は戸を単位として班給された。
- ③ 戸籍にもとづいて、口分田は班給された。
- ④ 口分田は、6歳以上の男女に一定額が支給された。

問5 下線部（エ）に関連して、唐に渡った遣唐留学生のうち、唐の玄宗皇帝に仕えて高官にのぼり、その後その地で客死した人物として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔9〕。

- ① 円仁 ② 阿倍仲麻呂 ③ 吉備真備 ④ 空海

問6 下線部（オ）に関連して、白河天皇によって建立された寺院の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔10〕。

- ① 法勝寺 ② 法成寺 ③ 法興寺 ④ 法隆寺

問7 下線部（カ）に関連して、北条氏に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔11〕。

- ① 北条義時は、有力御家人安達泰盛を滅ぼした。
- ② 北条泰時は、評定衆のもとに引付をおいた。
- ③ 北条時頼は、蘭溪道隆をまねいて建長寺を建立した。
- ④ 北条高時は、内管領として竹崎季長を重用した。

問8 下線部（キ）に関連して、南北朝の動乱期に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は〔12〕。

- ① 朝鮮半島、中国大陆および南方諸地域の沿岸や内陸で、海賊集団の倭寇が活動した。
- ② 中国では朱元璋が元の支配を排して、漢民族の王朝である明を建国した。
- ③ 嫡子がすべての所領を相続して、庶子が嫡子に従属する単独相続が一般化した。
- ④ 荘園や公領の領主が年貢徴収を地頭に請け負わせる、地頭請が盛んにみられた。

II. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、1603年に征夷大將軍に就任し、全大名に対する指揮権の正統性を得て江戸幕府を開いた。⁽⁷⁾1615年には豊臣氏を滅⁽⁷⁾ぼし、同年、大名統制法である武家諸法度元和令、朝廷統制法である禁中並公家諸法度を発令した。⁽⁴⁾

江戸幕府の職制は3代將軍徳川家光の頃までに整備されたといわれている。また、家光の時代にはいわゆる鎖国が完成したり、本百姓体制の整備がなされたりするなど、江戸幕府の体制の基礎が整った。⁽⁵⁾

家光の時代までは武断的な政治を行ってきた幕府であったが、家光の死を契機に兵学者由井正雪らを中心とした「A」がおこると、幕府は末期養子の禁止を緩めて、牢人の増加を防ぐ方針をとった。また、殉死の禁止を命じ、主人の死後は殉死することなく、跡継ぎの新しい主人に奉公することを義務付けるなど、4代將軍徳川家綱の時代には、儒学にもとづく文治主義的な政策がとられた。この政治方針は、以降も継続されていく。

5代將軍徳川綱吉は、林羅山が江戸上野忍ヶ岡に設けた孔子廟と家塾を湯島に移し、学問所として整備した。⁽⁹⁾この学問所の初代大学頭には、林鳳岡（信篤）が就任した。綱吉は、1685年以降、約20年にわたり生類憐みの令を出して生類のすべての殺生を禁じたり、服忌令を出して近親者に死者があった時に喪に服する日数を定めたりするなど、死や血を忌み嫌う風潮をつくり出した。6代將軍「B」、7代將軍徳川家継の治世に政治を主導した新井白石も文治主義的な政策を継続させたことで知られる。新井白石は木下順庵の門下で、大義名分論を重視した朱子学者として知られる。新井白石の治世には、幕府によって新たな官家が設置されたり、家継と2歳の皇女との婚約がまとめられたりするなど、天皇家との融和がはかられた。⁽⁴⁾⁽⁹⁾

問1 下線部（ア）に関連して、この年に出された法令に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「13」。

- ① 金銭貸借訴訟の不受理を規定した、相対済し令が出された。
- ② 宣教師の国外退去を命じる、パテレン追放令が出された。
- ③ 大名の居城を一つに限る、一国一城令が出された。
- ④ 蔵宿に貸金の放棄を命じる、棄捐令が出された。

問2 下線部（イ）に関連して、武家諸法度や禁中並公家諸法度に関する以下の説明として正しくないものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「14」。

- ① 武家諸法度は、原則として將軍の代替わりごとに出された。
- ② 武家諸法度寛永令では、参勤交代の制度化が義務付けられた。
- ③ 禁中並公家諸法度は、金地院の崇伝によって起草された。
- ④ 禁中並公家諸法度に反して、後陽成天皇が紫衣着用を勅許した。

問3 下線部（ウ）に関連して、江戸幕府の職制のうち、旗本・御家人の監察を担った職の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「15」。

- ① 京都所司代 ② 目付 ③ 武家伝奏 ④ 勘定奉行

問4 下線部（エ）に関連して、鎖国完成までの過程や鎖国完成後の対外関係に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「16」。

- ① 禁教令によって、高山右近らがマニラに追放された。
- ② 島原の乱がおこったあと、イスパニア船の来航が禁止された。
- ③ 清国は、鎖国後も長崎の出島への来航と居住が許された。
- ④ 琉球王国からは、鎖国後も將軍の代替わりごとに謝恩使が派遣された。

問5 下線部（オ）に関連して、家光の時代に出された、本百姓体制を維持するための法令の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「17」。

- ① 旧里帰農令 ② 分地制限令 ③ 田畑永代売買の禁止令 ④ 人返しの法

問6 文中「A」にあてはまる言葉を選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「18」。

- ① 慶安の変 ② 嘉吉の変 ③ 天文法華の乱 ④ 天狗党の乱

問7 下線部（カ）に関連して、5代將軍徳川綱吉時に発達した元禄文化に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「19」。

- ① 西山宗因に学んで談林俳諧で注目をあつめた井原西鶴は、御伽草子を創始した。
- ② 上方では勇壮な演技である和事を得意とした坂田藤十郎が、歌舞伎で活躍した。
- ③ 京都の土御門家に入門した渋川春海が、日本独自の暦である授時暦をつくった。
- ④ 尾形光琳が、俵屋宗達の装飾的な画法を取り入れて琳派を大成した。

問8 文中「B」にあてはまる人名を選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「20」。

- ① 徳川家治 ② 徳川家宣 ③ 徳川家慶 ④ 徳川家斉

問9 下線部（キ）に関連して、新井白石に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は「21」。

- ① 新井白石は、自身の生い立ちをまとめた『宇下人言』を著した。
- ② 新井白石は、元禄判判の質を下げた正徳判判を鑄造させた。
- ③ 新井白石は、海舶互市新例を出して長崎貿易を制限した。
- ④ 新井白石の治世には、浅間山の噴火などを背景に飢饉が深刻化した。

問10 下線部（ク）に関連して、江戸時代の儒学と儒学者に関する以下の説明として正しくないものを、
選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① 知行合一の立場をとった朱子学は、現実を批判してその矛盾を改めようと試みた。
- ② 孔子や孟子の古典に直接立ち返ることを重視した古学派からは、山鹿素行が出た。
- ③ 朱子学者の山崎闇斎は、神道を儒教流に解釈して垂加神道を創始した。
- ④ 陽明学者の熊沢蕃山は、『大学或問』などで武士土着論を説いて幕政を批判した。

問11 下線部（ケ）の宮家の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 23。

① 閑院宮家 ② 有栖川宮家 ③ 伏見宮家 ④ 京極宮家

Ⅲ. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

1871 年、金本位制を建前とする新貨条例が定められ、新硬貨が発行された。しかし、実際には開港場では銀貨が、国内では紙幣が用いられ、紙幣に関しては太政官札など不換紙幣が主であった。そこで明治政府は旧幕臣の A を中心として国立銀行条例を定めたが、直ちに兌換制度を確立することは困難であった。

兌換制度が確立するのは、1881 年から実施された松方財政時のこととなる。B 藩出身の松方正義大蔵卿（のち大蔵大臣）は、増税によって歳入の増加をはかりつつ、緊縮財政をとった。歳入の余剰で生じた不換紙幣を処分しながら正貨の蓄積をすすめ、銀貨と紙幣価値の差がほぼなくなった 1885 年から銀兌換の銀行券を発行し、翌年には銀本位制を整備した。銀本位制にともなう金本位制国への輸出の増加は、産業革命を迎える下地となった。

1897 年、貨幣法が制定され、C の賠償金の一部を準備金として欧米諸国に模倣した金本位制が採用された。金本位制の採用は、貨幣価値の安定と貿易の振興を促したが、第一次世界大戦のさなか欧米諸国が金本位制を停止するなか、日本も 1917 年に金本位制を停止した。その後、度重なる恐慌を経て、浜口雄幸内閣の蔵相 D は、1930 年に旧平価による金輸出解禁を断行し、外国為替相場の安定と経済界の産業合理化をはかったが、解禁による不況と前年の 1929 年から発生していた世界恐慌のおおりにうけて、日本はさらに深刻な不況に陥った。

1931 年、日本の深刻な不況を打開するため、E を与党とした犬養毅内閣の蔵相高橋是清は、直ちに金輸出再禁止を断行し、金本位制を離脱して管理通貨制度に移行した。蔵相高橋是清が円の為替相場を意図的に低下させ、円安を利用して輸出の増加をはかったことなどを背景に、日本は他の資本主義国に先がけて、1933 年頃に世界恐慌以前の生産水準を取り戻した。このように、日本の景気回復に尽力した蔵相高橋是清であったが、陸軍皇道派がおこした F によって、1936 年に命を落とした。

問 1 文中 A ～ F にあてはまる言葉もしくは人名をそれぞれ選択肢から一つずつ選びなさい。
解答番号は 24 ～ 29。

- | | | | | |
|---|----------|----------|----------|----------|
| A | ① 五代友厚 | ② 岩崎弥太郎 | ③ 渋沢栄一 | ④ 由利公正 |
| B | ① 薩摩 | ② 長州 | ③ 土佐 | ④ 肥前 |
| C | ① 甲申事変 | ② 北清事変 | ③ 日露戦争 | ④ 日清戦争 |
| D | ① 牧野伸顕 | ② 井上準之助 | ③ 団琢磨 | ④ 斎藤実 |
| E | ① 革新倶楽部 | ② 立憲国民党 | ③ 立憲政友会 | ④ 立憲改進党 |
| F | ① 二・二六事件 | ② 三・一五事件 | ③ 四・一六事件 | ④ 五・一五事件 |

問2 下線部（ア）に関連して、松方正義は2度組閣したことで知られる。これらに関する以下の説明として正しくないものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 第1次松方正義内閣時に行われた第二議會では、初めて衆議院の解散が行われた。
- ② 第1次松方正義内閣時に露見した内相の選挙干渉を背景に、同内閣は退陣に追い込まれた。
- ③ 第2次松方正義内閣は、自由党と進歩党が合同して結成された憲政党と提携した。
- ④ 第2次松方正義内閣は、外相として大隈重信を入閣させ、軍備拡張を実施した。

問3 下線部（イ）に関連して、産業革命が進展するなか、1887年に特殊銀行となった銀行が貿易の金融にあたった。この銀行の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 日本勸業銀行 ② 日本興業銀行 ③ 台湾銀行 ④ 横浜正金銀行

問4 下線部（ウ）に関連して、1917年に出版された河上肇の著書の名称として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 『貧乏物語』 ② 『善の研究』 ③ 『赤い鳥』 ④ 『羅生門』

問5 下線部（エ）に関連して、1920年代の恐慌に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 輸入超過のなか、株式市場の暴落を口火に欧米に先んじて戦後恐慌が始まった。
- ② 関東大震災で生じた震災手形を処理するため、国立銀行が特別融資を行った。
- ③ 若槻礼次郎首相の失言を背景に取付け騒ぎが全国化する、金融恐慌がおこった。
- ④ 金融恐慌を鎮静化するため、田中義一内閣時には重要産業統制法が出された。

問6 下線部（オ）に関連して、浜口雄幸内閣時には海軍に関わる国際会議が開かれた。この会議の内容とその影響に関する以下の説明として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 太平洋問題に関する四カ国条約が締結され、日英同盟協約の廃棄が同意された。
- ② 軍縮条約が締結され、主力艦の保有量比率と主力艦の建造禁止期間が定められた。
- ③ 会議の全権として、海相加藤友三郎や駐米公使幣原喜重郎が参加した。
- ④ 会議で締結された条約を背景に統帥権干犯問題がおこったが、同条約は批准された。

問7 下線部（カ）に関連して、『日本改造法案大綱』の著者で、陸軍皇道派に影響を与えた人物として正しいものを、選択肢から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 美濃部達吉 ② 吉野作造 ③ 北一輝 ④ 大川周明

I. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

1814年にオーストリア外相の〔A〕の提唱で開催されたウィーン会議により、ヨーロッパ各地に広まった自由主義はおさえられ、〔A〕らの保守主義が優位になった。一方で、ウィーン会議以後、ヨーロッパでは列強の協議によって勢力均衡と平和を維持する列強体制が定着し、その柱となったのは、圧倒的な経済力と海軍力を誇るイギリスと、強大な陸軍を誇るロシアであった。ロシア皇帝の〔B〕はウィーン体制の強化をねらい、ヨーロッパのほとんどの君主が参加する神聖同盟を結成し、イギリスなどとは四国同盟も結んだ。しかし、ロシアとイギリスが常に協力体制にあったわけではない。

1853年にロシアが南下政策の一環として、〔C〕の保護を理由にオスマン帝国を攻撃しクリミア戦争が勃発すると、イギリスはフランスとともに参戦し、オスマン帝国を支援してロシアを敗退させた。ロシアはこの敗退で近代化改革の必要性を痛感し、1861年に〔D〕を発布するなど改革を推進した。

一方、イギリスとロシアの対立により列強体制が緩み、各国が自由に行動できる余地が生まれたことが一因となり、イタリアやドイツでは統一を目指す運動が活性化した。

イタリアでは、1848年にフランスで起きた二月革命の混乱の隙をついて、〔E〕がローマ共和国を建国するもフランス軍により打倒されるなど、民衆による統一は挫折した。しかし、サルデーニャ王国の国王であるヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世が、〔F〕より両シチリア王国を献上されたことで1861年にイタリア王国を建国し、イタリア半島の大部分を統一した。その後、1866年にヴェネツィアを併合し、1870年にはローマ教皇領も占領した。

一方ドイツも、イタリアと同時期に統一を達成している。鉄血政策を掲げる〔G〕が首相としてプロイセン国王〔H〕を補佐し、1866年にはプロイセン＝オーストリア戦争（普墺戦争）で勝利を収めて北ドイツ連邦を形成した。その後、1870年にはスペイン王位継承問題などで対立していたナポレオン3世と戦い、彼を捕虜にした。こうして軍事力で他国を圧倒したプロイセンは、1871年に〔H〕を皇帝とするドイツ帝国を樹立した。

統一後のドイツでは、〔G〕が政教分離に批判的なカトリック教徒を、文化闘争と称して抑圧し、さらに、政府に反発する社会主義者を弾圧するなど、強権的な政治で国内の安定をはかった。また、〔G〕は外交面では、敵対するフランスの孤立化を目指し、オーストリアとロシアとの間で三帝同盟を締結した一方で、ロシア＝トルコ戦争（露土戦争）の戦後処理をめぐるイギリスとロシアの対立を調停するためにベルリン会議を開催するなど、国際政治におけるドイツの発言力を強めていった。こうして従来のイギリスやロシアを中心とした列強体制は、イタリアやドイツの統一を経て、大きく様変わりしたのである。

問1 文中〔A〕から〔H〕までの空欄について、それぞれ最も適当なものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔1〕～〔8〕。

- A ① メッテルニヒ ② ウィクリフ ③ タレーラン ④ ロベスピエール
- B ① ビョートル1世 ② エカチェリーナ2世
- ③ アレクサンドル1世 ④ ニコライ1世
- C ① カトリック教徒 ② ギリシア正教徒
- ③ イスラーム教徒 ④ ユダヤ教徒
- D ① 航海法 ② 農奴解放令 ③ 工場法 ④ 大陸封鎖令
- E ① マッツィーニ ② マザラン ③ マッキンリー ④ マルクス
- F ① カルヴァン ② ガリバルディ ③ エラスムス ④ グラッドストン
- G ① カヴール ② ジンナー ③ ビスマルク ④ ケレンスキー
- H ① フリードリヒ1世 ② フリードリヒ2世
- ③ ヴィルヘルム1世 ④ ヴィルヘルム2世

問2 下線部（ア）について、四国同盟に参加した国を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔9〕。

- ① スペイン ② プロイセン ③ オランダ ④ ポルトガル

問3 下線部（イ）について、クリミア戦争についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔10〕。

- ① セヴァストポリル要塞をめぐる激しい戦いが行われた。
- ② 講和条約として、パリ条約が締結された。
- ③ この戦争を理由にミドハト憲法が廃止された。
- ④ この戦争の結果、黒海の中立化が定められた。

問4 下線部（ウ）について、この革命で失脚したフランス王を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔11〕。

- ① ルイ16世 ② ルイ18世 ③ ルイ＝フィリップ ④ ルイ＝ブラン

問5 下線部（エ）について、ナポレオン3世についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔12〕。

- ① メキシコ遠征に失敗した。
- ② パリ万国博覧会を開催した。
- ③ ナポレオン1世の孫であった。
- ④ インドシナ出兵を実施した。

II. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

古来より地中海は、交易の場として栄えてきた。しかしそれは同時に、交易をめぐる対立も引き起こすこととなった。

前12世紀頃、Aが地中海貿易の中心であった。当初彼らは、地中海東岸を中心に活動していたが、北アフリカ、具体的には現在のチュニジアにあたる地域にBが建設されたことで、西地中海方面までもがAの交易範囲となった。

前6世紀になると、Aは、オリエントを統一したアケメネス朝の保護下に入った。アケメネス朝は、Aを中心に地中海貿易を本格化させたが、南フランスのマッサリアなどを拠点に地中海貿易を行っていたギリシア人と対立し、前5世紀、ミレトスを中心としたギリシア人の対アケメネス朝反乱を契機とし、ベルシア戦争が勃発した。

アケメネス朝は、サラミスの海戦ではCが指揮するギリシア連合軍に敗北し、プラタイアの戦いでも敗北を喫して撤退に追いやられた。こうしてベルシア戦争はアケメネス朝の敗北に終わり、前4世紀にDの東方遠征軍に滅ばされることとなる。

アケメネス朝の滅亡後、東地中海ではE朝エジプトなどが交易を行っており、比較的平和であった。しかし、西地中海ではローマとBが覇権をめぐる対立し、前3世紀、ポエニ戦争が勃発した。当初、シチリア島を属州とするなどローマが優勢に立ったが、BのF将軍にカンネーの戦いで敗北すると、イタリア半島全体が戦場となり国土が荒廃した。最終的にBを滅ぼしローマが西地中海の覇権を握ったが、国土の荒廃が一因となり「内乱の1世紀」と呼ばれる混乱の時代を迎えるなど、その代償は大きかった。

前1世紀後半、ローマのGがE朝エジプトを滅ぼし、地中海世界を統一した。その後、地中海は交易の場として栄え、ローマも「バクスのローマ」と呼ばれる最盛期を迎えるなど栄えたが、五賢帝時代を経て、3世紀半ば頃からローマが混乱期を迎えると、地中海も不安定化した。

その後ローマは3世紀末に即位したHのもと、再び安定を取り戻した。しかし、四帝分治制を実施したHは、自らは小アジアを治め、そしてコンスタンティヌス帝がコンスタンティノープルに遷都したことで、ローマ帝国の経済の中心は小アジアなど東方へと移動し、地中海は徐々に交易の場としての価値を失っていった。そして、4世紀後半のゲルマン人の移動とそれに起因するローマ帝国の東西分裂により、西ヨーロッパが政治的安定を失ったことで、地中海は交易の場に加え、戦乱の場としての顔をもつようになった。

問1 文中AからHまでの空欄について、それぞれ最も適当なものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は13～20。

- | | | | | |
|---|------------|---------------|-----------------------|------------|
| A | ① イオニア人 | ② フェニキア人 | ③ アラム人 | ④ エトルリア人 |
| B | ① シドン | ② カルタゴ | ③ ダマスクス | ④ シラクサ |
| C | ① テミストクレス | ② ポンペイウス | ③ パリクレス | ④ レビドゥス |
| D | ① ダレイオス1世 | ② ダレイオス3世 | ③ アレクサンドロス大王 | ④ フィリッポス2世 |
| E | ① セレウコス | ② プトレマイオス | ③ アンティゴノス | ④ ヘレニズム |
| F | ① スキピオ | ② ハンニバル | ③ グラックス | ④ スラ |
| G | ① オクタウィアヌス | ② アントニウス | ③ カエサル | ④ クラッス |
| H | ① トラヤヌス帝 | ② デイオクレティアヌス帝 | ③ マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝 | ④ カラカラ帝 |

問2 下線部（ア）について、アケメネス朝についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は21。

- ① キュロス2世が建国した。
- ② バビロン捕囚からユダヤ人を解放した。
- ③ メディアを滅ぼした。
- ④ ソロモン王の時代に最盛期を迎えた。

問3 下線部（イ）について、ギリシア人が形成したポリスとして適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は22。

- ① アテネ
- ② テーベ
- ③ スパルタ
- ④ イエルサレム

問4 下線部（ウ）について、ベルシア戦争がアテネにもたらした影響として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は23。

- ① 無産市民が参政権を獲得した。
- ② 女性が参政権を獲得した。
- ③ 民主政が完成した。
- ④ デロス同盟を用いて勢力を拡大した。

問5 下線部（エ）について、ゲルマン人国家であるフランク王国の王を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は24。

- ① アッティラ
- ② オドアケル
- ③ クローヴィス
- ④ テオドリック

Ⅲ. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

前 2600 年頃に成立したインダス文明は、〔A〕などの遺跡が優れた都市計画に基づき建設されていることから、高度な文明であったと判断できるが、どのように滅亡したかは明らかにされていない。

インダス文明の滅亡後、前 1500 年頃にアーリヤ人がカイバル峠を通してインドに進出し、インド西北部のパンジャブ地方に定住した。前 1000 年頃にはガンジス川流域にも進出し、農耕社会を形成した。またその過程で、人を司祭や武士、それに〔B〕と呼ばれる農民や商人などの庶民に区分する、ヴァルナ制度と呼ばれる身分制度が形成された。その後、アーリヤ人はマガダ国などの都市国家を形成していくが、都市国家同士の戦争が頻発する中で、仏教やジャイナ教など新たな宗教が生まれた。

前 4 世紀にはナンダ朝を打倒し、インド初の統一国家である〔C〕がチャンドラグプタ王により建国された。〔C〕はパタリプトラを都とし、前 3 世紀の〔D〕の時代に最盛期を迎えたが、〔D〕の死後は、官僚組織や軍隊の維持費が財政を圧迫し衰退していった。

〔C〕の滅亡後、1 世紀に建国された〔E〕は、東西交易の要衝である中央アジアも支配していたため、シルクロードを用いたローマとの交易で栄え、ローマからもたらされた大量の金を用いて金貨が発行された。また、〔E〕と同時期に南インドを支配していたサータヴァーハナ朝も、ローマとの間で行われた季節風貿易によって栄えた。

このようにローマとの貿易で栄えたインドであったが、ゲルマン人の大移動やローマ帝国の東西分裂で地中海世界が混乱すると、中国との交流が活性化した。7 世紀には唐の僧侶であった〔F〕がインドを訪れ、ヴァルダナ朝の保護のもと、ナーランダー僧院で仏教を学び、帰国後には『大唐西域記』を著した。当時のインドではヒンドゥー教が普及していたが、仏教などほかの宗教も王の保護を受けるなど、宗教に寛容な土壌があったのである。

13 世紀にはインド初のイスラーム王朝である奴隸王朝が建国された。この奴隸王朝からはじまる 5 つの王朝を、デリー＝スルタン朝と呼び、ヒンドゥー教とイスラーム教の文化が融合した壮大な都市が建設されている。また、サンスクリット語の文学がペルシア語に翻訳されるなど、文化の融合が進んだ。

このように文化面では寛容な土壌が形成されていたインドであったが、16 世紀にティムールの子孫によって基礎が築かれたムガル帝国の時代に、その土壌が失われ、イギリスなど西欧諸国の侵略を招くこととなる。

17 世紀に即位した〔G〕は、ヒンドゥー教の寺院を破壊し、さらに 16 世紀に異教徒の税負担軽減のために廃止されていた人头税を復活させるなど、ヒンドゥー教を抑圧した。これに反発したヒンドゥー教徒を中心に、各地でムガル帝国への反乱が続発し、インドは分裂状態となった。そしてそれが、外敵の侵略を誘発し、1757 年のブラッシーの戦いでフランスを打倒したことを契機に、以後、20 世紀半ばまで、イギリスがインドを植民地として支配していくこととなるのである。

問 1 文中〔A〕から〔G〕までの空欄について、それぞれ最も適当なものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔25〕～〔31〕。

- | | | | | | | | |
|-----|----------|---|----------|---|--------|---|---------|
| A ① | ボロブドゥール | ② | アジャンター | | | | |
| ③ | ガンダーラ | ④ | モエンジョ＝ダロ | | | | |
| B ① | パラモン | ② | ヴァイシャ | ③ | クシャトリヤ | ④ | シュードラ |
| C ① | サーマーン朝 | ② | マウリヤ朝 | ③ | グプタ朝 | ④ | ファーティマ朝 |
| D ① | ダヴィデ王 | ② | アショーカ王 | ③ | ハルシャ王 | ④ | カニシカ王 |
| E ① | クシャーナ朝 | ② | カラハン朝 | ③ | ムラービト朝 | ④ | チョーラ朝 |
| F ① | 義浄 | ② | 玄奘 | ③ | 法顕 | ④ | 寇謙之 |
| G ① | アクバル | ② | バーブル | | | | |
| ③ | アウラングゼーブ | ④ | カスティリオーネ | | | | |

問 2 下線部（ア）について、インダス文明についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔32〕。

- ① 鉄器を用いず、代わりに青銅器を用いていた。
- ② インダス文字は、19 世紀末に解読された。
- ③ 印章や、ろくろでつくられた彩文土器が発掘された。
- ④ ヒンドゥー教の主神であるシヴァ神の原型が発掘された。

問 3 下線部（イ）について、ジャイナ教の創始者を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔33〕。

- | | | | |
|---|-------------|---|----------|
| ① | ガウタマ＝シッダールタ | ② | ナーナク |
| ③ | ヴァルダマナ | ④ | ナーガールジュナ |

問 4 下線部（ウ）について、奴隸王朝の建国者を、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔34〕。

- | | | | | | | | |
|---|----------|---|--------|---|------|---|-------|
| ① | トゥグリル＝ベク | ② | ムアーウィヤ | ③ | アイバク | ④ | サラディン |
|---|----------|---|--------|---|------|---|-------|

問 5 下線部（エ）について、ブラッシーの戦いから続くイギリスのインド支配についての記述として適切でないものを、以下の中から一つ選んでマークしなさい。解答番号は〔35〕。

- ① ブラッシーの戦いと同時期に、フレンチ＝インディアン戦争が行われていた。
- ② ブラッシーの戦いと同時期に、スペイン継承戦争が行われていた。
- ③ イギリスは、農民に土地所有権を与えるライヤットワーリー制を実施した。
- ④ 1877 年には、イギリスのヴィクトリア女王を初代皇帝とするインド帝国が成立した。

2024年度

聖学院大学 入学試験問題

(A日程)

選 択 科 目

数学Ⅰ／数学Ⅰ・数学A（60分）

【解答上の注意】

1. 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。
2. 問題の文中の ア， イウ などには、特に指示がないかぎり、符号(－)又は数字(0～9)が入ります。
ア， イ， ウ， …の一つ一つは、これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙の ア， イ， ウ， …で示された解答欄にマークして答えなさい。

例 アイウ に－83と答えたいとき

ア	☒	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イ	☐	0	1	2	3	4	5	6	7	☒	9
ウ	☐	0	1	2	☒	4	5	6	7	8	9

3. 分数形で解答する場合、分数の符号は分子につけ、分母につけてはいけません。
例えば、 $\frac{\text{エオ}}{\text{カ}}$ に $-\frac{4}{5}$ と答えたいときは、 $\frac{-4}{5}$ として答えなさい。
また、それ以上約分できない形で答えなさい。
例えば、 $\frac{3}{4}$ と答えるところを、 $\frac{6}{8}$ のように答えてはいけません。
4. 小数の形で解答する場合、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えなさい。また、必要に応じて、指定された桁まで④にマークしなさい。
例えば、キ . クケ に2.5と答えたいときは、2.50として答えなさい。
5. 根号を含む形で解答する場合、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。
例えば、コ $\sqrt{\text{サ}}$ に $4\sqrt{2}$ と答えるところを、 $2\sqrt{8}$ のように答えてはいけません。
6. 根号を含む分数形で解答する場合、例えば $\frac{\text{シ} + \text{ス} \sqrt{\text{セ}}}{\text{ソ}}$ に $\frac{3+2\sqrt{2}}{2}$ と答えるところを、 $\frac{6+4\sqrt{2}}{4}$ や $\frac{6+2\sqrt{8}}{4}$ のように答えてはいけません。

※この科目には、全員が解答しなければならない必須問題と、いずれか1問を選択できる選択問題があります。
選択問題については、選択した問題を解答用紙の左下にマークしなさい。

必須問題	第1問～第3問	数学Ⅰ
選択問題	第4問	数学Ⅰ
	第5問	数学A

- 第1問 (図形と計量)
- $AB=3\sqrt{2}$ ， $BC=4$ ， $CA=\sqrt{10}$ である三角形ABCについて、次の各問いに答えよ。
- (1) $\cos\angle ABC=\frac{\sqrt{\text{ア}}}{\text{イ}}$ である。また、三角形ABCの面積は ウ，外接円の半径は $\sqrt{\text{エ}}$ である。
- (2) 三角形ABCの外接円の中心をOとし、Oを通り三角形ABCを含む平面に垂直な直線上に点Pをとる。四面体PABCの体積が $2\sqrt{11}$ であるとき、 $OP=\sqrt{\text{オカ}}$ であり、 $PA+PB+PC=\text{キク}$ である。

第2問 (2次関数)

放物線 $C: y=x^2$ を x 軸方向に 2, y 軸方向に 3 だけ平行移動した放物線を C_1 とし, C_1 を y 軸について対称移動し, さらに y 軸方向に -8 だけ平行移動した放物線を C_2 とする。このとき, 次の各問いに答えよ。

- (1) 放物線 C_1 の方程式は

$$y=x^2-\boxed{\text{ア}}x+\boxed{\text{イ}}$$

であり, 放物線 C_2 の方程式は

$$y=x^2+\boxed{\text{ウ}}x-\boxed{\text{エ}}$$

である。

また, 2 つの放物線 C_1, C_2 の交点の座標は $(\boxed{\text{オ}}, \boxed{\text{カ}})$ である。

- (2) (1)で定めた C_1, C_2 の方程式と $\boxed{\text{オ}}$ の値を用いて, 関数 $f(x)$ を

$$f(x)=\begin{cases} x^2+\boxed{\text{ウ}}x-\boxed{\text{エ}} & (x<\boxed{\text{オ}}) \\ x^2-\boxed{\text{ア}}x+\boxed{\text{イ}} & (x\geq\boxed{\text{オ}}) \end{cases}$$

と定める。 $-4\leq x\leq 5$ において, 関数 $f(x)$ は $x=\boxed{\text{キ}}$ のとき最大値 $\boxed{\text{クケ}}$ をとり, $x=\boxed{\text{コサ}}$ のとき最小値 $\boxed{\text{シス}}$ をとる。

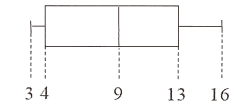
第3問 (データの分析)

右の図は, 異なる 7 個の整数

$a, b, 13, 4, 16, 3, 9$

を変量とするデータの箱ひげ図である。

$a < b$ とするとき, 次の各問いに答えよ。



- (1) このデータの四分位範囲は $\boxed{\text{ア}}$ であり,

a, b のとり得る値の組 (a, b) の個数は $\boxed{\text{イウ}}$ である。

- (2) このデータの平均が 9 であるとき $a+b=\boxed{\text{エオ}}$ であり, このときこのデータの

標準偏差を最大にする a, b の組 (a, b) は $(\boxed{\text{カ}}, \boxed{\text{キク}})$ である。

また, $a=\boxed{\text{カ}}, b=\boxed{\text{キク}}$ のとき, このデータの分散を小数第 1 位を四捨五入して整数で表すと $\boxed{\text{ケコ}}$ となる。

選択問題：第4問と第5問から1問を選択して解答すること

※なお、いずれの問題を選択したかを、解答用紙にマークすること

第4問 (数と式)

$x = \frac{4}{\sqrt{6-\sqrt{32}}}$ とするとき、次の各問いに答えよ。

- (1) $\sqrt{6-\sqrt{32}}$ を二重根号を外して表すと $\boxed{\text{ア}} - \sqrt{\boxed{\text{イ}}}$ となるから、 x を分母を有理化して表すと $\boxed{\text{ウ}} + \boxed{\text{エ}} \sqrt{\boxed{\text{オ}}}$ となる。また、 $n \leq x < n+1$ を満たす自然数 n の値は $\boxed{\text{カ}}$ である。

- (2) $x + \frac{8}{x} = \boxed{\text{キ}}$ であり $x^2 - 8x = \boxed{\text{クケ}}$ である。さらに

$$x^3 - 8x^2 + 9x - 4 = \boxed{\text{コ}} \sqrt{\boxed{\text{サ}}}$$

である。

選択問題：第4問と第5問から1問を選択して解答すること

※なお、いずれの問題を選択したかを、解答用紙にマークすること

第5問 (場合の数と確率)

点 P は、初め数直線上の原点にある。1 枚の硬貨を 1 回投げるたびに、点 P を今ある点から表が出たら +1、裏が出たら -1 だけ数直線上を移動させていく。硬貨を 6 回投げ終わったときの点 P の座標を x とするとき、次の各問いに答えよ。

- (1) 6 回中表が 4 回出たとき $x = \boxed{\text{ア}}$ であり、 $x = \boxed{\text{ア}}$ となる確率は $\frac{\boxed{\text{イウ}}}{\boxed{\text{エオ}}}$ である。

- (2) $x = 0$ となるのは、6 回中表が $\boxed{\text{カ}}$ 回出た場合で、 $x = 0$ となる確率は $\frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{クケ}}}$ である。

- (3) 途中で一度も原点に戻ることなく $x = 0$ となる確率は $\frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サシ}}}$ である。

I. 次の英文を読み、設問に答えなさい。

Every year millions of people leave their countries to live overseas. They might go abroad to attend school, work, or just enjoy life in a different country. Others may have been forced to leave their countries to avoid (1), persecution, or other problems. Whatever the reason, however, all these people need to become used to living in the new place. They need to adjust to the new culture—to new ways of doing things and different ways of thinking. Studies show that in adjusting to a new culture, people typically follow a similar pattern. [A]

At the beginning, when they arrive in a new place, they find it fun and exciting. Imagine taking a (2) in a place you have long dreamed of visiting. This is called the honeymoon period. It is like the time after a wedding when people are happy to be in a new place and enjoy new experiences. This stage of adjustment (ア).

After some time, though, people realize that the new culture is quite different from home. The people in the new place may do some strange things, and for reasons that are not understandable. During this stage, it becomes easy to have negative thoughts and ideas about the new place. [B] People may become lonely or sad, they may miss their home and family and friends there, and they are often (3) with the new culture.

With time, people generally become (4) to the new and different ways of doing things. They have learned how to get around and live in the new place. They have usually made friends in the new culture and have started to fit in better. This period is called the initial adjustment.

At various times, however, people living abroad come to realize that there are deeper differences in the new (5). [C] Different ways of understanding situations; different ideas of what is important in life; different ways of approaching life; these often create the biggest challenges for people in a new culture. This time is called mental isolation. As the differences are understood and accepted, though, people adapt to the new culture. It becomes easier for them to live in and feel a part of it.

Living in a new culture brings exciting experiences but comes with many challenges. Understanding how people adjust to a new culture can make the adjustment easier. [D] As the world becomes a “smaller” place and grows closer together, understanding and being able to interact effectively with people from different cultures will be (6) important.

菊地恵太, Jeffery Durand, ALL-ROUND PRACTICE FOR THE TOEFL TEST, 南雲堂

問 1. 空所 (1) ～ (6) に入れるのに最も適切な語を 1 つずつ選びなさい。

- (1) a. education b. friends c. travel d. war
- (2) a. bath b. holiday c. nap d. ticket
- (3) a. careful b. excited c. frustrated d. satisfied
- (4) a. experienced b. happy c. relaxed d. used
- (5) a. culture b. people c. travel d. understanding
- (6) a. confusingly b. increasingly c. quickly d. secretly

問 2. 空所 (ア) に入れるのに最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- a. usually lasts a couple of weeks
- b. causes many problems
- c. continues for a lifetime
- d. never happens

問 3. 次の文が入る最も適切な箇所を [A] ～ [D] から 1 つ選びなさい。

This stage is called culture shock.

問 4. 本文の内容のタイトルとして最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- a. How to Travel Smart
- b. The Cultural Adjustment Cycle
- c. Typical Problems for Immigrants
- d. Different Cultures Around the World

問 5. 本文の内容と一致するものを a ～ h より 3 つ選びなさい。

- a. Most people travel overseas to go sightseeing.
- b. People who live in a new country usually have a good time at first.
- c. The honeymoon period is the last stage in getting used to a new culture.
- d. After people feel homesick, they usually make friends and feel more comfortable.
- e. Most people notice that cultures around the world are very similar.
- f. Understanding cultural differences leads to an easier life in a new country.
- g. These days, there are fewer challenges for people living in a new culture.
- h. Learning the law in a new country is important for adjusting to life.

II. 次の対話において、(1)～(8)の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

1. A : Have you seen my glasses?

B : [(1)] I saw them on the table.

A : Thanks! I've been looking everywhere.

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| a. I wore them yesterday. | b. I don't like glasses. |
| c. Yes, I have. | d. You should buy contacts. |

2. A : Did you taste the cake I made?

B : Yes, I did. But I thought it was really sweet.

A : [(2)]

- | |
|--------------------------------------|
| a. It's not chocolate flavor. |
| b. You baked it. |
| c. I prefer ice cream. |
| d. I might have used too much sugar. |

3. A : Did you read this book?

B : [(3)]

A : Is it good?

- | |
|--|
| a. I read it last night. |
| b. I don't read much. |
| c. Books are boring. |
| d. I always read books in the morning. |

4. A : I'm going to the graduation party. How about you?

B : [(4)] I have a lot of things to do that day.

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| a. I love parties. | b. I don't think I can. |
| c. Parties are too loud. | d. I went to the party already. |

5. A : Why didn't you answer my text message?

B : My phone battery died.

A : [(5)]

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| a. I lost my charger. | b. You should carry a charger. |
| c. Put it on silent mode. | d. I don't like talking. |

6. A : It sure is cold in this classroom.

B : [(6)]

A : Alright, I'm going to turn on the heater.

- | |
|--------------------------------------|
| a. I feel hot. |
| b. I wear it all the time. |
| c. That's why I am wearing a jacket. |
| d. I will turn it off. |

7. A : Can you help me with this puzzle?

B : Actually, I'm not good at puzzles.

A : [(7)]

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| a. I don't have time. | b. Puzzles are for kids. |
| c. I don't like challenges. | d. We can try together. |

8. A : This spaghetti doesn't taste right to me.

B : [(8)]

A : That might be a good idea.

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| a. I think it's delicious. | b. Add some salt. |
| c. I ate mine already. | d. I brought my lunch today. |

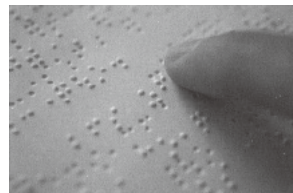
Ⅲ. 次のさまざまな文字についての説明を読み、その内容と合っているものを a～j より 3 つ選びなさい。

1. The Roman Alphabet



The Roman alphabet developed over centuries. At first, ancient Romans used a kind of writing called Old Latin. Around the 3rd century BC, the Romans adapted the Greek alphabet, adding and modifying characters to match the Latin language. The Emperor Claudius made it the standard writing for the Roman Empire. The Roman alphabet gradually became used throughout the Empire. The Roman alphabet influenced many languages, and became the foundation for many modern alphabets, including English.

2. Braille



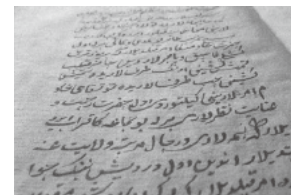
Braille was invented by Louis Braille in the 19th century. It transformed the lives of blind and visually impaired people. Louis Braille was blind himself, and he created a raised dot system by simplifying military code. This breakthrough made it possible to read and write through touch, which gave visually-impaired people independence. The Braille system is used around the world, allowing countless people to access literature, education, and information.

3. Chinese Characters



Chinese characters, known as *Hanzi*, have a long history spanning thousands of years. *Hanzi* originated in ancient China. The written symbols evolved from pictures of things and were first used for communication and record-keeping on bones. Over time, *Hanzi* became more complex and represented not only objects but also ideas and sounds. Chinese characters spread through cultural exchange, influencing neighboring countries like Japan, Korea, and Vietnam. Today, *Hanzi* is a part of many East Asian languages and cultures.

4. Arabic Script



The Arabic script originated in the Arabian region in the 4th century AD. It developed from earlier kinds of writing used in the Middle East. Because the Quran was written in the Arabic script, this kind of writing became important. It influenced other languages, like Persian, Urdu, and Turkish. The Arabic script's elegant calligraphy became an art form. Through trade, the Arabic script reached places like North Africa and Spain and had an important influence on the cultures there.

- The Roman alphabet was invented by the Emperor Claudius.
- The Greek alphabet had no influence on the Roman alphabet.
- Louis Braille could see.
- The Braille system is similar to a code used in the military.
- Chinese characters were first written on paper.
- Hanzi* is only used in China.
- The Quran was written in Arabic.
- The Arabic script is not used in art.
- Braille is the newest of the four writing systems discussed above.
- Each writing system above is only used with one language.

IV. 各文の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

- (1) My grandmother's () has improved, so she can leave the hospital tomorrow.
a. condition b. English c. medicine d. research
- (2) May I have () cup of coffee?
a. another b. more c. other d. others
- (3) Tina wants to move back to her hometown ().
a. gradually b. slow c. someday d. yesterday
- (4) The first novel Bill Anderson () in 2010 was very popular.
a. drew b. employed c. fixed d. published
- (5) Jennifer was very () before her piano concert, but she gave a wonderful performance.
a. happy b. kind c. nervous d. polite
- (6) The fastest way to travel somewhere is going (), with no stops.
a. actually b. directly c. generally d. naturally
- (7) I read the newspaper every morning to keep () with what is happening in the world.
a. in b. on c. out d. up
- (8) I wish I () the answer to the question.
a. knew b. know c. knowing d. will know
- (9) Let's talk about our travel plan when Becky () home.
a. gets b. got c. has got d. to get
- (10) I'm looking forward to () you next summer.
a. have met b. meet c. meeting d. met

V. 次の各文の [] 中の単語を並べ換えて日本語の意味に相当する英文を完成させるとき、[] 内で3番目と5番目にくるものを、それぞれ選びなさい。

- (1) 両親の新しい家は、前の家の2倍の広さがある。
My [a. as b. big c. house d. is e. new
f. parents' g. twice] as their old one.
- (2) 私たちは両親の結婚記念日に花を送る予定だ。
We are planning to send [a. flowers b. on c. our d. parents
e. their f. to g. wedding] anniversary.
- (3) ネコにとって、木に登るのは簡単なことだ。
For cats, [a. a b. climb c. easy d. is e. it
f. to g. up] tree.
- (4) もし私があなただったら、そこには行かないね。
I [a. go b. I c. if d. there e. were
f. wouldn't g. you].
- (5) 昨日、クラスで学園祭に関するいくつかの問題について話し合った。
The class [a. discussed b. festival c. issues d. of
e. several f. school g. the] yesterday.

【問題一】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

一八五三年（嘉永六）と翌五四年（嘉永七）の二度にわたって、開国と通商を求めてアメリカのペリー提督が率いる艦隊が浦賀沖に姿を現した折、黒煙を吐いて自在に走るその巨大な黒い軍艦と、それが撃ち放つ大砲の轟音は人々を不安に陥れた。日米和親条約（神奈川条約）の締結に漕ぎつけた再度の来航の際に、日米双方が明らかに国威顯示の含みをもつて見せたと思われる「ショー」は対照的であった。ペリー側は持参した小型蒸気機関車と有線電信機を実演して見せ、日本人の役人たちを驚嘆させた。これに対して幕府側が彼らに見せたものは、巨漢力士の俵運びと相撲であった。わが国にも、異国人に劣らない怪力の大男がいることを誇示したかったのであろう。この時の模様を、ペリーは後に『日本遠征記』（一八五六）の中で次のように誇らしげに書いている。それ（蒸気機関車と電信機）は日本の役人側の嫌悪すべき見せ物（相撲）に対して、より文明的な見せ物で、愉快な対照をなすものであった。残念な動物力の見せ物の代わりに、それは科学と冒険的事業の勝利を、半開化した国民に高らかに示すものであった。この文面からペリーの、そしておそらくは当時のほとんどの欧米人が抱いていた西洋文明への強い自信と、非西洋文明に対する優越感のほどを読み取ることができる。欧米人が誇るその西洋文明の力の源センは、まさに蒸気や電気に象徴される近代的技術にあった。それは一九世紀からこのかた、ヨーロッパ文明が世界を征服するための重要なファクターとなったのである。

「黒船ショック」は、鎖国の中に生きてきた、ペリーのいう「半開化した」幕末の日本人が、西洋文明に直面して受けた衝撃をシンボリックに表すエピソードであった。近代的技術をそなえた西洋諸国の圧倒的な力の前に、わが国は開国を余⁽²⁾ぎなくされ、急速ヨーロッパの科学・技術、および産業の導入をはかるに至る。隣国、清のイギリスとのアヘン戦争（一八四〇―四二）による一方的な敗北を目の当たりにし、欧米列強の植民地化の脅威にさらされていた日本は、そうせざるをえない状況に追い込まれていた。開国後の明治政府は、殖産興業・富国強兵のスローガンのもとに、国策として西欧の科学・技術を、制度ごと導入した。こうして始まった日本の近代化は、非西欧社会としては世界史的にも類を見ないほど短時間で成しとげられ、日本を大きく変貌させたのである。

ペリーが来航した一九世紀半ばのヨーロッパは、産業革命がまさに進行していた時代であった。ヨーロッパの技術は飛躍的な発展を遂げていた。工場生産は機械化され、鉄道が⁽³⁾フ設され、蒸気船が海を渡り、都市にはガス灯が普及していた。アメリカ人画家・発明家のモリスが発明した電信機が、ワシントン・ボルティモア間で送信実験されたのは一八四四年のことであった。ペリー一行が乗ってきた巨大な蒸気船（ちなみにペリーの旗艦サスケハナは一八五〇年に建造されたばかりの二、四五〇トンの外輪式気走フリゲート艦で当時世界最大、土産として持参した蒸気機関車と電信機は、いずれも当時の先端技術の粋であった（贈物にはそのほかに銀板写真機、柱時計、ライフル銃、ピストル、農具などが含まれていた）。もっとも、電信機などを除き、当時のヨーロッパにおけるもう一つの近代的技術が既成の科学の直接の産物であったとは必ずしもいえない。それらはむしろヨーロッパの職人や技術者たちの経験、創意工夫、^(a)の実験の賜物であった。当時の科学が技術とさまざまな点でかかわりをもつようになっていたことはたしかである。技術を理論的・合理的に研究する学としての工学（engineering）といえるものも芽生えていたし、科学者にも技術的問題に関心をもつ者が少なくなかった。しかし今日のような、科学を基礎として成り立つ技術、自然科学を系統的に応用することによって成立する「科学的技術」（scientific technology）または science-based technology、日本語の「科学技術」という一綴りの漠とした用語も science and technology というより、これに近い意味で使われることが多い（が登場するのはしばらく後のことである。それでも近代技術発展の原動力はひとえに科学の進歩にあるというパブリック・イメージが一九世紀半ばの欧米にすでにできあがっていた。ペリーが近代的技術を「科学」と呼んだのもそのことを象徴している）。

同様に、文明開化の日本人の脳裏に焼きついた西洋科学とは、純粋な自然の探究というよりも、むしろ蒸気や大砲や電信機といった実用技術に近かったようである。伝統的な儒学や和学を受益のない学として批判し、西洋の学問を称賛した開化の啓蒙家^(b)、福沢諭吉も、西洋科学を蒸気や電気に代表される社会に役立つ学問、「実学」と見なしていた。science の訳語「科学」が普及し定着する以前の日本にはそれに対応する語として「理學」があったが、当時のこの語の用法からもその状況を一瞥^(c)することができる。今日とは違って明治期には、理學は自然科学ばかりか技術ないし工学をも包含した学問と解されていた。一八七七年（明治一〇）にわが国最初の総合大学として東京大学が誕生した際、その理學部は数学・物理学及星学（今日の天文学）、生物学、化学、工学、地質学及採鉱学というように、自然科学と実用技術の学科が混在していたし、一八八三年（明治一六）に創設された理學協會の設立趣旨書に定義された理學も同様の扱われ方をしている。たしかに明治の約半世紀にわたる受容作業の間に、ヨーロッパ科学自体はますます技術と強い結びつきを示し、技術を媒体として社会を変える大きな力になっていった。

このように、明治に生まれた日本人の科学観——その余波は多かれ少なかれ今日まで残っている——は、ヨーロッパ科学の数百年の歴史を越えて受容した^(c)、「結果としての西洋科学」の性格を色濃く反映していた。理學に代わって定着した「科学」という日本語の由来にしてもそれがいえる。西欧文明が本格的に入ってくる前のわが国には、「科学」なる日本語すら存在していなかった。この語を science に対する翻訳語として最も早期に使用した人物の一人が、「哲学」「理性」「主観」「客観」「現象」「帰納」「演繹」などの訳語の考案者としても知られる哲学者の西周^(d)であった。一八七四年（明治七）、『明六雑誌』に掲載された彼の論文「知説」の中に早くも、この「科学」の語を見いだすことができる。西があえてこの訳語を選んだのには、それなりのわけがあった。それは当時、文明開化の日本に怒濤のように入ってきた一九世紀後半の西洋のサイエンスの性格をそのまま反映した言葉であった。すでにヨーロッパでは近代科学の基礎が築かれて久しく、物理学・化学・生物学・博物学・地質学（これらも幕末から明治にかけてに登場した訳語である）といったさまざまな分野に専門分化した状態の学問領域となっていた。それゆえこの学問を総称して、さまざまな「科」からなる「学」問というところから「科学」と名づけられたのである（なお今日、中国や南北朝鮮でも同じ漢字を使うが、これはわが国からの輸出語である）。歴史に仮定法は無用であるが、これがたとえは、もし一七世紀の西欧科学であったならばどうだったかと考えてみるのも面白い。たぶん違った訳語が考案されていたであろう。なぜならば、英仏語の

science がラテン語の scientia (「スキエンティア」知ることに由来しているように、ガリレオやデカルトやニュートンが活躍した一時代前のサイエンスは、哲学・思想・宗教を包含した、境界をもたない未分化の幅広い知的活動を意味していたからである。

自然に関する知識の体系とそれをつくり出す営みを広く「科学」と呼ぶならば、それは何もヨーロッパの専売特許ではない。その意味での科学は、古代から近代に至るまで、ギリシア、インド、アラビア、中国、そして日本など、洋の東西にかかわらず存在していた。しかし、通常、今日われわれが科学といえは、その日本語の由来をもち出すまでもなく、ヨーロッパで生まれた近代科学をさす。ここでいう近代科学 (modern science) とは、一六世紀から一七世紀の西欧近代の幕開けに成立した科学の総称である。近代科学は、たとえばかつて中国やインドで生まれたそれとは異なる、独特の自然認識をもった知識体系であるのだが、現代世界においては、あえて「ヨーロッパ」科学と断り書きをつけるまでもないほど国際化している。

その誕生から今日に至るまでの約五世紀の間に、近代科学は大きな成長をとげた。しかしその間に、おそらく概念や理論の内的変化以上に著しい変貌をとげたのは、その社会的側面であろう。科学を行う形態、科学の目的や役割や性格、科学の社会的地位や社会への影響度などにおいて、近代科学の黎明期と現在とは **b** がある。ケプラーやガリレオが生きた一六世紀末から一七世紀初めには、科学という営みはまだ社会で「市民権」すらもっていないかったといっても過言ではない。中世から多数あった学問の府、大学では科学の専門教育は全く行われていなかった。自然の探究はアマチュア愛好家の個人的な知的営み・余技といった方が適切であり、それを行うためには私財を投じるか、君主や貴族などの裕福なパトロンに財政援助を乞うしかなかった。また、科学は職人技術とはほとんど融合していなかった。科学の社会的有用性を主張する概念は生まれていても、あるいは間接的・散発的な形で理論と実践の結びつきは見られたとしても、自然探究の成果は一般に当時の技術や産業と系統的に結びついていなかった。科学は哲学や宗教と区別できない営みであったし、そもそも宇宙の理解、自然の探究は総じて神の計画を理解するという信仰上の動機から行われていた。

現代の科学は単なる愛好家の個人的な知的営みの域を超えて、社会的に大きな意味をもつ営みになっている。社会的に定着した仕組みを「制度」(institution)と呼ぶならば、科学はそれ自体、明らかに一つの制度となっている。科学は職業として確立され、大学は職業科学者を大量生産する教育機関としての役割を果たしている。科学研究を行う場や環境も「制度化」されている。研究所や大学での研究は、多くの場合、個人単位ではなく研究者のチームを編成して遂行され、そのスポンサーとなるのは主に国家 (その財源は国民の税金) や産業界などである。政府は国家運営の柱として科学政策を打ち立てている。哲学や宗教や文化的価値から遊離した知的活動である現代の科学は、その内部でもさまざまな学問分野に分化し、多種多様な専門学会が存在する。そしてそれぞれの領域における高度に専門化した研究は、もはや素人を寄せつけない。科学者は研究成果を論文にまとめ、それぞれの領域を代表する学会誌に発表する。研究競争を鼓舞する褒賞制度や特許制度や職制が確立されている。科学の使命は、神の計画を知るとか、教養のためとか、文化活動とかいうことよりも、ひとえに社会や国家の実益に資することにあると見なされる傾向が強い。科学と産業技術や軍事技術との結びつきは深く、科学者とエンジニアを識別するのは難しい。科学は主としてそれと結びついた技術の諸成果を通して社会に大きなインパクトを与え、現代文明の中核で機能している。

この五〇〇年間に生じた科学の「社会化」(socialization) ともいえる著しい変貌をどう理解したらよいだろうか。それは、単に科学そのものの内的発展、すなわち科学理論の発展の自動的な帰結といえるものなのだろうか。たしかに科学は外界から独立し、それ自体が自律的な成長能力をもつ「生き物」のようにも見える。だが、科学は空虚の中で成長してきたものではない。科学をつくり育んできたのはほかならぬ人間であり、その成長を可能にし、それを方向づけた社会があった。今日の科学の社会的相貌は、ヨーロッパの四世紀の歴史における科学と人間と社会とのダイナミックな相互作用の中から形づくられてきたものであるともいえる。現代科学は、哲学や神学を基礎においたかつての自然哲学とは違って、西欧文明の「ジッポ」^G がとれて世俗化され、いわばマニニアル化されて国際的にも伝達可能な様相を帯びている。そうした科学自体の性格の変化も、ヨーロッパ科学の社会化・制度化の問題と切り離して考えることはできない。一九世紀以降急速に、ヨーロッパの科学文明が世界を席^G ケンするようになったのも、単に理論や概念の優位性の問題というよりも、こうした確たる社会的基盤と意義をそなえた営為に発展していたことによるところが大きい。わが国が一九世紀後半、西洋近代科学を導入した際、それを支える諸制度 (学校教育・学会・試験研究機関・資格試験など) の移植の方が、科学の自身 (理論や思想) の理解・摂取よりもむしろ先行していたのも象徴的である。

今日あるような科学の社会的相貌は、決して **c** 的にできあがったものではない。そこに至る道筋にはさまざまなプロセスが複雑に交錯している。ひとくちに科学の社会化といっても、それぞれの時代により、国により、違う文脈が存在した。科学をつくってきたのが人間であるように、社会化された科学をつくりあげてきたのも結局は人間であることは忘れてはならない。それぞれの時代に、それぞれの場面で、科学者 (自然探究者) は自らの営みを社会的に認知させるための主張をさまざまな形で展開してきた。科学の実践者自身のこうした訴えが、科学の社会化・制度化に果たしてきた役割は大きい。他方において、科学のパトロンやスポンサーとなった側 (知識人・君主・貴族・商人・資本家・産業界・政府など) は、その時代の社会的状況に応じ、彼らなりの意図や問題意識をもって科学活動を支えてきた。一般大衆レベルの科学に対する意識、科学のパブリック・イメージも時代により変化した。これらの要素はどう絡み合い、科学の性格や方途をどう規定したかを考察することは社会的な分析に有用である。過去数百年の間に、「信仰のための科学」「教養・人間形成のための科学」「学問それ自体のための科学」「技術のための科学」「文化運動としての科学」「社会変革のための科学」「体制維持のための科学」「産業のための科学」「国家のための科学」ともいえる、さまざまな科学の理念やイデオロギーが、それぞれの社会でそれぞれの場面において登場した。こうした理念やイデオロギーは、何らかの形でその時代の社会や文化の状況が刻印されたものと見なされるし、現実につくられる教育や研究の制度 (学校・学会・団体・研究機関など) の性格を規定してきた。これらもろもの、科学の理念やイデオロギーは、拮抗し、競争し、浮沈し、あるいは融合したりしながら、その時代の、その社会の科学の制度化に反映された。制度というものは、いったん確立されると、個々の成員の意志から独立して集団の態度や行動を規定し固定化する特徴をもつ。それゆえ、制度が以後の科学の性格や方向に与える影響は大きい。

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) 源セン | ① 染色 | ② 温泉 | ③ 先端 | ④ 寡占 |
| (2) 余ギ | ① 技術 | ② 儀式 | ③ 擬態 | ④ 戯曲 |
| (3) フ設 | ① 天賦 | ② 負債 | ③ 発布 | ④ 敷衍 |
| (4) 鼓ブ | ① 舞踏 | ② 歩合 | ③ 奉行 | ④ 侮蔑 |
| (5) 席ケン | ① 筆硯 | ② 圧巻 | ③ 時間 | ④ 献立 |

問二 傍線部A「ヨーロッパ文明が世界を征服するための重要なファクター」の内容として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| ① ベリーが持参した小型蒸気機関車と有線電信機 | ② 近代的技術 |
| ③ 巨大な黒い軍艦とそれが撃ち放つ大砲の轟音 | ④ 外輪式気走フリゲート艦 |

問三 空欄 a ～ c に当てはまる最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 空欄 a | ① 杓子定規 | ② 博引旁証 | ③ 換骨奪胎 | ④ 試行錯誤 |
| 空欄 b | ① 他山の石 | ② 蛩雪の功 | ③ 隔世の感 | ④ 漁夫の利 |
| 空欄 c | ① 付和雷同 | ② 朝令暮改 | ③ 自家撞着 | ④ 予定調和 |

問四 傍線部B「福沢諭吉」の著作として不適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | |
|------------|-----------|------------|----------|
| ① 『学問のすゝめ』 | ② 『西国立志編』 | ③ 『文明論之概略』 | ④ 『西洋事情』 |
|------------|-----------|------------|----------|

問五 傍線部C「結果としての西洋科学」の性格を色濃く反映していた」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | |
|--|
| ① 当時の科学者たちは科学を基礎として成り立つ技術に対する関心を持つことがほとんどなく、自然科学を科学として探究することを是としたため、同時代の「科学」は、「結果」としての「技術」には関与していなかったし、「科学」の目的ですらなかった、ということ。 |
| ② 当時の「西洋科学」の正体は、科学を基礎として成り立つ「技術」に関心が高く、また近代的技術の原動力こそ「科学」の進歩にあるというパブリック・イメージが成立していたように、「科学」が「技術」をもたらしただけという自負があった、ということ。 |
| ③ 幕末から明治期の日本における「西洋科学」の理解は、自然科学と実用技術が混在するものであったが、それはベリーが近代的技術を「科学」と捉えた理解と同様であり、西洋から与えられた「科学」の「結果」としての理解であった、ということ。 |
| ④ 当時の「西洋科学」とは、近代的な科学の直接的な産物であったとは必ずしもいえず、むしろヨーロッパの職人や技術者たちが築き、それらを受容してきた「結果」としての「近代的技術」の謂いであった、ということ。 |

問六 傍線部D「これがたとえば、もし一七世紀の西欧科学であったならばどうだったかと考えてみるのも面白い」の理由を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | |
|---|
| ① 一七世紀における「サイエンス」はすでにさまざまな分野に専門分化した学問領域となっていたため、「科学」という訳語は当時の「サイエンス」を反映しているといえるが、「一七世紀の「サイエンス」は「未分化」の知的活動を意味していたため、全く異なる訳語になったであろうから。 |
| ② 「歴史に仮定法は無用である」から、実際には存在していない、一七世紀のサイエンスに対して、日本人がどのような「訳語」を作ったか、という問いは意味をなさないといえるが、このような虚構での思考実験は興味深く、また意義深い洞察を与えるものであるといえるから。 |
| ③ 一七世紀の「サイエンス」は文明開化の日本に怒濤のようにもたらされ、社会に大きな影響を与えたために「科学」という訳語を整備してその理解が強く要請されたが、一七世紀の「サイエンス」を一九世紀の視点から考察することには意味があるといえるから。 |
| ④ 物理学・化学・生物学・博物学・地質学といった近代科学の学問領域の訳語は一九世紀の日本人によって整えられたが、このような学問領域が未成立であった一七世紀における「サイエンス」は「理学」という訳語になっていたと考えられるから。 |

問七 傍線部E「独特の自然認識をもった知識体系」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 中世から多数あった学問の府としての「大学」において、専門的な教育が行われていない異端の学問分野であった、ということ。
- ② 自然の探求はアマチュア愛好家の個人的な知的営み・余技とされ、知識として技術や産業に寄与するものであった、ということ。
- ③ 哲学や宗教と区別できない営みであり、自然の探求とは神の計画を理解するという宗教上の動機から行われていたもの、ということ。
- ④ 自然に関する知識は社会に技術として還元されることで意味をもつ知識となると考えられたため、国家の重要な戦略とされた、ということ。

問八 傍線部F「科学は空虚の中で成長してきたものではない」の内容の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 科学はそれ自体が「制度」化し、哲学や宗教や文化的価値から遊離した知的活動へと変貌してしまったが、それ以前の時代の「科学」はそのような「科学」ではなかった、ということ。
- ② 科学の「社会化」ともいえる著しい変貌は、「科学」の内発的發展、自動的な帰結のようにも見えるが、この変貌は人間と社会の相互作用によって形作られたものであった、ということ。
- ③ 西洋の近代科学を導入するためには、それを支えるための諸制度もあわせて移植する必要がある、むしろ科学そのものの理解や摂取よりも先行していたという事実が象徴している、ということ。
- ④ 科学の「社会化」の過程においては、さまざまな理念やイデオロギーが、それぞれの社会でそれぞれの場面においてその時代の社会や文化の状況として存在しており、制度化の重要な要素である、ということ。

問九 傍線部G「西欧文明の「シッポ」」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 自律的な成長能力をもった「生き物」のように発展・変貌を続ける西洋科学
- ② 社会的基盤と結びつけるために排除した西洋科学の理論や概念の優位性
- ③ 西洋科学の知識体系の根底にある哲学や神学を基礎においた自然哲学
- ④ 五〇〇年間にまよってきた西洋科学に対するパブリック・イメージ

問一〇 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

- イ 幕府がペリー側に見せた巨漢力士の俵運びと相撲というショーについて、ペリーは「嫌悪すべき見せ物」「残忍な動物力の見せ物」と評した。
- ロ ペリーは当時の近代的技術を「科学」と呼んでいたが、それは「科学」によってもたらされた「近代的技術」であったという点で正しいといえる。
- ハ 自然に関する知識の体系とそれをつくり出す営みを「科学」と呼ぶならば、古代から近代に至るまで、ギリシア、インド、アラビア、中国、そして日本などにおいておこなわれたそれは「科学」と呼ぶことは難しいといわざるを得ない。
- ニ 一九世紀以降、ヨーロッパの科学文明が世界において支配的となったが、それはヨーロッパの科学文明の理論や概念の優位性という側面よりも、確たる社会的基盤と意義を備えた営為に発展したという側面に負うところが大きいといえる。

【問題二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

二〇一九（令和元）年の末に始まった新型コロナウイルスの世界的流行は、社会や学校教育に大きな影響を及ぼした。休校措置や外出規制によって仲間と切り離された結果、鬱病・鬱状態に苦しむ日本人は二〇一三年の七・九％から二〇二〇年の一七・三％へと二倍以上に増加し、若者の自殺も増えている。インターネット依存症も深⁽¹⁾コク⁽¹⁾だ。コロナ前の二〇一九年二月とコロナ禍の二〇二〇年八月を比べると、ネット依存傾向が一・六倍に増加している。これがさらなる鬱状態を引き起こしている。

コロナ禍で明らかになったことは、教室での人間的な関わり合いと、そこから生まれる心の絆⁽²⁾がいかに大切かである。したがって、ポストコロナ時代の教育で大事なことは、コンピュータによる個別最適学習ではない。人間同士が関わり合う協同学習だ。協同学習とは「少人数集団で自分と仲間の学びを最大限に高め合い、全員の学力と人間関係力を育て合う教育の原理と方法」である。

仲間と協同的に学ぶことで頻⁽²⁾バン⁽²⁾に交わされるコミュニケーションは、言葉、表情、態度、声の調子、場の空気などの総合的で高度な情報認識を必要とする。ペアやグループといった相手がいる学習では、英語を積極的に使う機会も増える。また自分とは異なる意見や発想に接することで、思考と感性が豊かになる。何より、お互いの信頼関係という最高の報酬を受け取り、絆で結ばれていく。そのため、協同学習は学習者を精神的に安定させ、学力を伸ばし、学力格差を是正することが検証されている。

中学生を対象にした村上加奈の研究では、二つの中学校の教員の実践に基づき、協同学習の効果を検証した。両校とも、一斉講義型授業のあとに協同学習による英語の授業を四カ月間行い、成績の変化を調べた。その結果、A中学校では平均点が五四点から六四点にアップし、成績の上位・中位・下位のすべての層が伸び、特に成績下位層の伸びが著しかった。B中学校でも平均点が四八点から五九点へと上昇し、やはり下位層の伸びが顕著だった。

高校二年生を対象にした大西里奈の研究では、コロナ禍で五月二四日の中間考査（三六六人）までは一斉講義型授業だったが、その後は協同学習に切りかえ、七月四日に期末考査（一三七七人）を行った。中間考査の平均点は五二・三点で、二〇点台と四〇点台にピークがあったが、期末考査では平均点が六五・五点（+一三・二点）に上昇し、八〇点台にピークが移った。その結果、「グループワークをやりたい」と回答した生徒は六〇％から八三％に上昇した。

このように、協同学習は学力面、情意面で効果が確認でき、学力格差を縮小することが示⁽³⁾サ⁽³⁾されている。ここに一つの大きな希望を見出したい。

「えっ、君はこんな立派な英語が書けるようになったのか」と驚いた。学生が提出した英文が急に正確になり、読みやすくなったのは二〇一七（平成二九）年頃からだ。それは自動翻訳ソフトがAI（人工知能）を組み込み、性能を飛躍させた時期と一致する。

いまや自動翻訳・通訳の能力は英検一級・TOEIC九〇〇点レベルに達すると言われ、日々進化している。AIは日常会話レベルならば完璧に対応できる。そうすると、小学校で中途半端に英語を教える意義が根底から問い直される。それどころか、中学・高校・大学で無理に英語を教える意義さえ問われている。

だからデジタル・AI時代に入ってしまったいま、「何のために外国語を学ぶのか」という根本問題が突きつけられている。文科省のように「英検三級レベル」といったスキル主義的な狭い目標では、人間よりもAIのほうが格段に優れている。それは教育の目標には絶対になり得ない。そんな目標設定では、子どもたちは最少の努力で最大の成果をあげようとするだけで、学びが瘦せ^B衰え^B、試験後に剥^Bげ落ち、楽しくもならない。

ではどうするか？

言語とそれを生みだした文化とは切り離せないが、AIに可能なのは文化から切り離された「言語」の操作だけだ。したがってAI時代の外国語教育は、母語とは異なる言語を学ぶとともに、その背景にある異文化への探究心を育てることに比重を置くべきである。それは人間にしかできないし、学校で外国語を学ぶ本来の意義である。日本人が外国語を学ぶ意義は、日本語と日本文化によって制約された自分の思考の枠組みを超えて、まったく違う音声、文法、発想法、そして文化に触れ、思考を外の世界へと拡張すること、そのワクワク感と知的な背伸びを体験することだ。それによって自分の母語と日本文化を相対化し、自覚的・批判的に再認識することになる。

そうした学びは、英検やTOEICのスコアを伸ばすことの対極にある。スコアはaではなくbに過ぎない。AI時代における外国語教育の意義を再確認し、具体的な対応を考える必要がある。

児童・生徒に一人一台のコンピュータ端末が支給され、教科書のデジタル化も始まる今日、英語学習においてデジタルやAIとどう付き合っていけばよいのだろうか。

「Google翻訳」は二〇一六年後半にAIを組み込んだ結果、翻訳精度が劇的に向上した。しかも無料で、一〇〇以上の言語に対応している。もちろんc 呑みには^cで^cずす「理由ありバーゲン」を「There is a reason sale」と訳すなどのへまは^cやら^cかす。だから、AIの翻訳が誤りだと気づけるだけの英語力が本来は利用者に必要だ。

だが、日本語では省略しがちな「私は」「あなたの」などの人称代名詞を明示し、日本語独特の慣用表現を避けるなどの工夫をすれば、完成度の高い翻訳を瞬時に提供し、音読もしてくれる。たとえば「この馬の骨かわからない奴に、この仕事は任せられない」だと「I can't leave this job to someone who doesn't know where the horse's bones come from.」（その馬の骨がどこからやって来たのかを知らない人に…）となってしまう。その馬の骨かわからない奴に」を「あなたがどのような経歴かも知らないので」と和文和訳して入力すれば、「I don't know what kind of background you have, so

I can't leave this job to you.”と正確に翻訳してくれる。こうしたコツを満載した坂西優・山田優「自動翻訳大全」(二〇二〇)なども出ている。翻訳ツールのDeepLは、文書ファイルを入れれば、丸ごと翻訳してくれる。AIは学習していくため、利用が増えるほど精度を上げる。

コロナ禍で、対面授業が中心だった英会話学校は受講生が減少した。経済産業省の調査では、コロナ前の二〇一九年末には一三二万人だったが、二〇二二年初頭には一〇五万人で、二割も減った。そのため各社ともオンライン授業に力を入れ、^dの安いフィリピン人などと契約してレッスンをを行う例も増えた。

ところが二〇二二年頃からは^eが進み、講師報酬が経営を圧迫した。切り札となったのがAIを使った会話練習ソフトだ。近年は音声認識や音声合成の技術が飛躍的に向上し、ネイティブに近いレベルになっている。

インターネット上の仮想空間であるメタバースでの会話練習も可能になった。学習者は自宅などでVR(仮想現実)端末を装着して参加する。お店や空港など任意の場面を選び、自分のアバター(デジタル作成の分身)が画面上の相手(実はAI)と英語でやりとりする。相手も架空の存在なので、人間同士の会話よりもキン張らないという。受講料も安い。

学習効果の長期的な定着度に関する調査では、仮想空間での学習では七五%と高かったが、動画による学習では二〇%、講義形式だと五%にとどまったという。大手英会話スクールのイーオンは、二〇二二年八月からメタバース英会話の個人向けコースを本格的に開始した『朝日新聞』二〇二二年九月一日)。

AIを組み込んだ英語学習アプリも、多種多様なものが開発されている。たとえば「スピークバディ」は、スマホの画面に現れるキャラクターに話しかけると、AIが英語力を判定し、レベルに合った学習メニューを自動的に組んでくれる。日常会話からビジネス用まで七〇〇以上のレッスン事例が用意されており、月額二〇〇〇円で、対面式の英会話学校よりも格段に安い。一部は無料で体験できるため、累計ダウンロード数は一八〇万にのぼる(二〇二二年九月時点)。

「スタディサプリ」は高校生の受験対策用として利用者が多いが、社会人向けのビジネス英語コースもある。商談や企画発表会などの場面を設定したドラマ式レッスンで、通勤・帰宅時間などでも学べる。

英文の添削指導では、英国のケンブリッジ大学出版と同大学英語検定機構が共同開発した無料オンラインツールWrite & Improveが優れている。タスクを選択し、英文を書いてアップロードすれば、AIが語彙選択、文法、綴りミスなどの修正すべき点を瞬時にフィードバックしてくれる。得点も表示され、欧州言語共通参照枠(CEFR)に基づく総括的評価も示されるので、ライティング力の向上に役立つ。

オンライン英文添削サービスでは、有料の「アイデイー」も人気がある。これは学校の英作文課題、英語の論文、ビジネスレターなど様々なレベルの英文を、AIではなく人間が添削指導してくれる。その際に、英文のどこがなぜ間違っているのか、どうすればより良い表現ができるかまでアドバイスして

くれる。

こうしたデジタル技術やAIAアプリは、いやが応でも今後の英語学習に入り込んで来るだろう。だが、そこには落とし穴も潜んでいる。

デジタル教材やオンライン学習は画像や音声を含む多様な情報を与えてくれるし、不登校や病気の子どもたちに学びを保障するなどのプラス面がある。他方で、人間関係の希薄化、孤独感と抑鬱状態の増加、学びの質の低下、デジタル格差の拡大などのマイナス面もある。

たとえば、紙の辞書で英語単語を調べると、脳の思考中枢である前頭前野が活性化するため定着しやすく、思考力の形成に寄与する。だが^f辞書だと前頭前野の活動がマイナスになるため、わかった気にはなるが定着しにくい。ディスプレイ上の文字に対する人間の認知能力は、紙に書かれた文字よりもずっと落ちるのである。パソコン上で仕上げた文章をプリントアウトして読み直すと、真つ赤に訂正が入るのはそのためだ。紙の辞書や教材と^gを併用し、声に出し、手で書く^hな活動が大切である。

OECDの調査によれば、デジタル端末は情報収集や知識の浅い理解には有効だが、深い思考や探究的な学びを妨げ、長時間使うほど学力は低下する。そのためコンピュータを教師役にはならず、探究と協同的な学びのための文房具として限定的に使う必要がある。

脳は新奇な情報や刺激を求めるため、ディスプレイ上の画像を切りかえると快楽物質のドーパミンを放出する。新たなページに現れる未知の情報を期待して興奮するのである。そのため画面の内容を読み込んで内容を吟味し、批判的に思考する力が育ちにくい。

「生徒一人一台の端末」を掲げ、二〇一九(令和元)年より開始された「GIGAスクール構想」は、経済産業省がスイ進し、教育政策というよりは経済政策だ。教育効果の検証も教員研修もなく、コロナ禍で前倒し実施された。導入時だけで四六〇〇億円の利権が生まれたと言われ、コンピュータ端末の学校納入をめぐって談合事件も起こった。高価な端末と学習ソフトの販売により公教育の市場化が加速し、学業成績という個人情報民間企業に流出する。中央教育審議会は二〇二二年一月の答申で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を提言した。しかし個別最適な学びとは各自がコンピュータでAIDリルを解くなどの究極の習熟度別授業だ。これを先行実施した諸外国の研究では、教育効果が乏しいことがわかっていて、学習者同士のつながりを断ち切り、孤立させてしまう。脳を最も活性化させ、学びを深めるのは、人間同士の協同的で探究的な活動である。

これらを知った上で、デジタルやAIを外国語学習に慎重かつ限定的に活用する必要がある。

江利川春雄、英語と日本人―挫折と希望の二〇〇年、筑摩書房

問一 傍線部(一)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) 深コク | ① 告白 | ② 時刻 | ③ 克己 | ④ 暗黒 |
| (2) 頻バン | ① 繁茂 | ② 煩雑 | ③ 一般 | ④ 折半 |
| (3) 示サ | ① 教唆 | ② 時差 | ③ 査証 | ④ 詐欺 |
| (4) キン張 | ① 喫緊 | ② 殺菌 | ③ 僅差 | ④ 欽定 |
| (5) スイ進 | ① 垂涎 | ② 未遂 | ③ 炊煙 | ④ 邪推 |

問二 傍線部A「人間同士が関わり合う共同学習」による効果として作者が主張しているものとして**不適切なもの**を次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分とは異なる他者の意見や発想に接することによって、自身の思考と感性をより豊かなものにすることができる。
- ② 他者との接触の必然性のために、人間の言動や場の空気を読むことなど、総合的で高度な情報認識を獲得することができる。
- ③ 仲間との関わりを最優先して孤独を回避する学びであり、コロナ禍などの際に鬱病や、鬱状態に陥ることを回避することができる。
- ④ 信頼関係が構築され、他者と絆で結ばれるため、精神的な安定が得られ、学力が向上し、他者との学力差を是正することができる。

問三 傍線部B「学びが痩せ衰え、試験後に剥げ落ち、楽しくもなんともない」の理由を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① A Iの方が人間よりも優れた能力を発揮できる、スキル主義的な最小限の努力で最大限の成果をあげることが要求されるタイプの暗記型の言語学習においては、異なる言語の背景に潜む異文化への探究心が育たず、子どもたちはワクワク感や知的な背伸びを体験することができないから。
- ② デジタル・A I時代に突入している今日では、子どもたちは自身の能力に頼って学習するということをせず、その代わりにデジタル機器が彼らの学習における目標を達成してくれるため、子どもたちは自身における自己達成感や充実感を抱くことができなくなってしまっているから。
- ③ 新型コロナウイルスの世界的な流行によって、日本国内においてオンラインで外国語を学ぶ機会が整備されてしまったために、子どもたちは無理に海外に留学してまで外国語を学ばうとしなくなり、結果として、海外の文化にすら好奇心を抱かなくなってしまったから。
- ④ 自動翻訳ソフトにA Iを組み込んだ今日では、どんなに努力して英語を覚えたとしても、A Iソフトによる日本語から英語への翻訳の方が、ネイティブの人たちにとってわかりやすいことが証明されており、やるだけ無駄だということを受け入れながら学習を重ねなければならないから。

問四 空欄 a・b に当てはまる組み合わせとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | | |
|--------|---|------|--------|---|------|
| ① a 目標 | — | b 結果 | ② a 結果 | — | b 理想 |
| ③ a 理想 | — | b 目標 | ④ a 結果 | — | b 目標 |

問五 空欄 c・d・e に当てはまる語句として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| c ① 鷲 | ② 鵜 | ③ 鷹 | ④ 猪 |
| d ① 人件費 | ② 輸送費 | ③ 光熱費 | ④ 年会費 |
| e ① 円高 | ② 円安 | ③ 減税 | ④ 借金 |

問六 傍線部C「こうしたコツ」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 日本語から英語に翻訳する場合には、日本語の慣用表現を既に身につけているA Iを用いることによって、英語らしく翻訳すること。
- ② 事前に「Google」の検索システムを用いて、どのA Iによる翻訳精度が最も高いかを確認し、最新の情報を集めながら翻訳すること。
- ③ 日本語では省略しがちな人称代名詞を指摘し、日本語の言葉として特有な慣用表現を避けるなどの工夫を図りながら翻訳すること。
- ④ 翻訳を提供しているそれぞれの企業のサービスの吟味して、コストパフォーマンスの最も良いものを最優先に用いて翻訳すること。

問七 傍線部D「そこには落とし穴も潜んでいる」の理由を説明したものとして**不適切なもの**を次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① デジタル教材やオンライン学習は、そこに関わる人間を必要としない分、人間関係を希薄化させたり、孤独感の抑鬱状態の増加、学びの質の低下、デジタル格差の拡大などのマイナス面を持っている点が見受けられるから。
- ② デジタル教材は、A Iに備えられた機能によって、使用する子どもたちそれぞれの思考や言動を教材を提供する側が望むように誘導していくことができるため、本来の自身の感情を失う危険性を常に内包してしまっているから。
- ③ 電子辞書は一般的な紙の辞書とは反対に、英単語を調べる際、その調べている人間の前頭前野の活動が抑制されるため、わかった気にはなるが、調べたことが学習成果としては定着しにくいという欠点が見られるから。
- ④ デジタル教材やオンライン学習は、ディスプレイの画像を切り替えるときにドーパミンが放出されて学習者に興奮を促すため、画面内の学習内容を吟味したり、物事を批評したりする力が育ちにくいという欠点を持っているから。

問八 傍線部E「内容を読み込んで内容を吟味し、批判的に思考する力が育ちにくい」の理由を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から一つ選び、番号をマークしなさい。

- ① 人間の脳は常に情報を最新のものに更新するためにドーパミンを放出しており、自身についての批判的な過去の問題については忘れてしまったため。
- ② 人間の脳がディスプレイの画面に反応することによって、記憶が脳以外の場所で保存されたと理解してそれまでに覚えたことを忘れてしまったため。
- ③ 人間の脳はドーパミンを放出して未知の情報や刺激を求めるために興奮するので、既知の古い情報や刺激に長く留まっていることが難しいため。
- ④ 人間の脳は自身に都合の悪い情報をドーパミンを放出することによって消し去るので、それまでに得た情報は完全に忘れ去られてしまうため。

問九 空欄 f h の組み合わせとして最も適切なものを次の①～④から一つ選び、番号をマークしなさい。

- ① f デジタル ・ g アナログ ・ h デジタル
- ② f デジタル ・ g デジタル ・ h アナログ
- ③ f デジタル ・ g アナログ ・ h アナログ
- ④ f アナログ ・ g デジタル ・ h アナログ

問一〇 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

イ 二〇一九年の末に始まった新型コロナウイルスの世界的な流行によって、鬱病・鬱状態に苦しむ日本人は、二〇一三年と比べて二倍以上に増加したことに加え、インターネット依存症もコロナ前、コロナ後で比較すると依存傾向が一・六倍に膨れ上がっている。

ロ 二〇一七年頃に、自動翻訳ソフトにAIを組み込むことによって性能を向上させたため、学生たちが提出する英文がそれまでよりも格段に読みやすいものになり、今日のAIに至っては、日常会話程度であれば問題なく人間に対応できるレベルにまで改良されている。

ハ パソコン上で仕上げた文章をプリントアウトしてから紙上で読み直すと、たくさんの間違いや、誤字脱字を見つけることができるのは、ディスプレイ上の文字に対する人間の認知能力が潜在的に想定されておらず、対応することがすぐには困難だからである。

ニ 今後のさらなるAI技術の発展に伴って、人々は自らの力で外国語の翻訳を行わなくても、ディスプレイ上で自動的に極めて正確な翻訳がなされるため、外国の言葉や文化に興味を持っている人以外は、外国語の学習を行わなくなることが予想されている。

I. 次の英文を読み、設問に答えなさい。

The hamburger is one of the most popular foods in America. It is so popular that it could even be the (1) of America. There are many reasons for this. It is easy to make, cheap, delicious, and quick and easy to eat. On average, Americans eat about three hamburgers per person a week.

Where or how did the hamburger begin? No one knows for sure, but the (2) of burger and bun probably started in America. There are many stories. According to one, in 1885 two brothers were selling food at a fair in the city of Hamburg, New York. One day they (ア)ran out of pork, so they decided to use ground beef. They did not like the taste, so they put in coffee and brown sugar to make it taste better. Then they added two pieces of bread so people could carry the food. Someone asked, "What do you call this?" The brothers did not know. One of them (3) up and saw the sign "Hamburg Fair." He decided to call it the "Hamburger Sandwich." In time, hamburgers came with salt, pepper, ketchup, and little pieces of onion.

In the 1920s, hamburgers became even more popular. In 1921 the first restaurant chain to (4) only hamburgers opened. It was called White Castle, and sold hamburgers for five cents each. The first cheeseburger came in the 1930s, and was made by just putting a slice of cheese on top of the meat. Once the cheese melted, the burger had a (5) new taste. Since it was so easy to carry, many people ate their "burgers" while driving. The first restaurant with a drive-through opened in California in 1948.

In the 1960s, (イ) such as tomatoes, lettuce, onions, and pickles, and it became known as the "California Burger." Now, with many more added items such as bacon, avocado, chili, mushrooms, and eggs, the hamburger is more (6) than ever. And yet even after a century, the basic hamburger is still the same.

島岡丘, Jonathan Berman, Life Topics--A Critical Thinking Approach to English Proficiency,
南雲堂

問 1. 空所 (1) ~ (6) に入れるのに最も適切な語を 1 つずつ選びなさい。

- | | | | |
|------------------|----------------|------------------|--------------|
| (1) a. art | b. festival | c. rule | d. symbol |
| (2) a. action | b. combination | c. communication | d. education |
| (3) a. broke | b. grew | c. looked | d. made |
| (4) a. damage | b. eat | c. lock | d. sell |
| (5) a. badly | b. completely | c. quickly | d. sadly |
| (6) a. anxious | b. boring | c. peaceful | d. popular |

問 2. 下線部 (ア) の意味として最も近いものを 1 つ選びなさい。

- a. belonged to
- b. caught up with
- c. took care of
- d. used up

問 3. 空所 (イ) に入るのに最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- a. people in California raised new fruits and vegetables
- b. some convenient products were imported from Japan
- c. many items were added to the hamburger
- d. fresh foods were brought to California

問 4. 本文の内容を最も的確に表しているものを 1 つ選びなさい。

- a. The hamburger was first sold in the city of Hamburg, New York.
- b. Two brothers started selling the hamburger in America.
- c. The hamburger was invented and developed in America.
- d. The hamburger changed American history.

問 5. 本文の内容と一致するものを a ~ h より 3 つ選びなさい。

- a. Americans eat five hamburgers a week.
- b. There are many stories about the origin of the hamburger.
- c. The hamburger is named after a city in California.
- d. Since the two brothers did not like the taste of the beef, they added honey and mustard.
- e. One of the two brothers decided to call the hamburger "White Castle."
- f. People ate the hamburger while driving because it was easy to carry.
- g. The first drive-through restaurant opened in New York in 1948.
- h. The basic hamburger has not greatly changed over the past 100 years.

II. 次の対話において、(1)～(8)の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

1. A : Can you set the table?
B : [(1)]
A : Almost.

a. Is dinner ready?	b. What's for dinner?
c. Where's the table?	d. I am at the table.

2. A : It's your turn to cook.
B : No, it's not. I cooked last night.
A : [(2)] We ordered pizza, remember?

a. That's right.	b. No, you didn't.
c. I think I cooked.	d. It was last night.

3. A : Do you want to go for a walk?
B : [(3)]
A : Get your shoes on and let's go!

a. The weather's nice, isn't it?	b. It's fast, isn't it?
c. We're happy.	d. Don't I have shoes?

4. A : Are you ready for your trip?
B : [(4)]

a. I'm on vacation.	b. My bags are already packed.
c. I tripped over the bags.	d. It's too late.

5. A : Did you call the doctor?
B : No, not yet.
A : You'd better do it soon [(5)]

a. she's a doctor.	b. you're not sick.
c. it's not open now.	d. before it's a serious problem.

6. A : How is your cold?
B : I'm feeling a lot better.
A : [(6)] until you're all better.

a. You are cold	b. Don't go back to school
c. You're not sick.	d. Don't take medicine

7. A : What are you doing this weekend?
B : [(7)]
A : Don't forget your hat and sunglasses.

a. I have to study.	b. It's not this weekend.
c. I think I'll go to the beach.	d. I have no plans.

8. A : Did you get the concert tickets?
B : [(8)]
A : I can't wait!

a. I forgot.	b. They were too expensive.
c. The concert was canceled.	d. Front row seats!

Ⅲ. 次の世界の祭りや行事についての説明を読み、その内容と合っているものを a～j より 3 つ選びなさい。

1. Songkran



Songkran is a water splashing festival held throughout Thailand during the Thai Lunar New Year. Originally, it was a ceremony to purify Buddhist statues and elderly people by splashing water on them. Nowadays, people pour water on anyone who is walking down the street. Be careful not to get your smartphone wet when you are at Songkran, which is held in April. Songkran is a long holiday, so it is a good time of homecoming and family gatherings.

2. La Tomatina



La Tomatina, or the Tomato Festival, started in 1945. People who were in the carnival had a fight and started throwing tomatoes in Bunol, Spain. The festival has become very popular over the years, and thousands of tourists come from all over the world to attend the festival today. It is held on the last Wednesday in August every year. You need to buy a ticket to join the event and throw tomatoes for an hour. Don't forget to bring goggles with you.

3. Namahage



Namahage is a traditional event held on December 31 in Akita Prefecture. Several young men wear masks and straw hats, and visit homes carrying wooden knives, buckets, and other items. Children are frightened by the masks. This warns them not to behave badly. It is also a prayer for good health, the safety of the family, a good harvest, and good fortune. Namahage visit houses to offer blessings and receive food and drink.

4. The Day of the Dead



On the Day of the Dead, people in Mexico welcome back the souls of their family members who have passed away. The holiday is celebrated from October 31 to November 2. According to tradition, the gates of heaven are opened at midnight on October 31. Dolls, sweets, pictures, and other decorations are displayed in homes, schools, workplaces, stores, and many other places. On the Day of the Dead, people dress up as skeletons and parade through the streets.

- a. People throw away tomatoes in water splashing festival in Thailand.
- b. Songkran is a festival to splash water to drive away the evil spirits.
- c. You have to pay money to throw tomatoes at La Tomatina.
- d. Only people from Bunol, Spain can join the Tomato Festival.
- e. Namahage is a summer festival in Tohoku area.
- f. People give money to Namahage when they visit a home.
- g. Mexican people wear skeleton costumes and go to the beach on the Day of the Dead.
- h. The dead sprits are believed to return on the Day of the Dead.
- i. All four events in the passages are celebrated at different times of the year.
- j. All the events introduced above are related to religions.

IV. 各文の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

- (1) Tomoko has been studying English () the age of five.
a. for b. in c. on d. since
- (2) () online has become more common these days.
a. Shop b. Shopped c. Shopping d. Shops
- (3) Maria always () her homework after dinner.
a. do b. does c. doing d. done
- (4) Out of the two jackets, the blue one is () than the red one.
a. expensive b. expensive more
c. more expensive d. most expensive
- (5) The day () I first met my girlfriend is still fresh in my memory.
a. when b. where c. who d. whose
- (6) A new song () by the band next week.
a. has been released b. released
c. will be released d. will release
- (7) Tom found the keys () on the dining table.
a. lay b. lied c. lies d. lying
- (8) I can't () how far she can throw a frisbee.
a. believe b. go c. think d. travel
- (9) It's quite cold outside, so please put () your coat.
a. away b. off c. on d. over
- (10) We () have visited the temple last week, but we went to the museum instead.
a. can b. may c. will d. would

V. 次の各文の [] 中の単語を並べ換えて日本語の意味に相当する英文を完成させるとき、[] 内で3番目と5番目にくるものを、それぞれ選びなさい。

- (1) 私は母に7時に起こしてくれるよう頼んだ。
I asked my [a. at b. me c. mother d. seven e. to
f. up g. wake].
- (2) 隣に住む男性は東京の会社で働いている。
The man who lives next [a. a b. company c. door d. for
e. in f. Tokyo g. works].
- (3) この新しいコンピュータは、あのコンピュータの3倍のメモリーがある。
This [a. as b. computer c. has d. much e. new
f. three g. times] memory as that one.
- (4) 来週、台風が関東を直撃する予想です。
A [a. expected b. hit c. is d. Kanto e. next
f. to g. typhoon] week.
- (5) この緑のセーターは、あなたにとってもよく似合うだろう。
This [a. good b. green c. look d. on e. sweater
f. very g. will] you.

【問題一】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「これは真実だと主張するのが、いまや、あらゆる架空の物語の慣例である。しかしながら、わたしの話は、本当に本当なのである。」(ボルヘス『砂の本』)

ボルヘスはこう言つて、無限のページをもつありえない本の話を語り出す。彼一流のとはけた書き出しだが、そこに、ある皮肉な真理を読み取ることも不可能ではない。つまり、架空の話をするときこそ、人はそれがいかに本当であるかを強調するのが常なのである。

これは意外にも、われわれ自身がよく知っている日常の真理かもしれない。「確実に金儲けができます!」「絶対に確実に幸せになれます!」こうしたキャッチフレーズほど、疑わしさを醸し出すものはあるまい。ここで「確実」という言葉は、むしろ「胡散臭さ」の決定的な印となっている。つまり、「確実」という言葉のこうした使い方は、それを使う人が意図しているのとはまったく逆の効果を及ぼしている。

^Aこれはとても興味深いことである。「確実」という言葉をわれわれが使う用法を調べてみると、そのほとんどが、「(完全には) 確実でないこと」について用いられているのではないかと思われるほどである。

何かが本当に疑いようがないと思っており、それが周知のことだと確信しているとき、わざわざその確実さを強調するだろうか。たとえば、快晴の日に空が青く見え、他人にもそのように見えていることが、どんなに確かだと思われても、ふつうわれわれは、青空を指さしながら、「空は確かに青いのだ、これはまったく確かなことだ!」などと叫ぶことはしない。もししたとしても、何か新手のパフォーマンスだろうと思われるだけで、「確かさ」の真剣な主張であるとは思われないだろう。

「確かさ」を懸命になって主張するとき、われわれは自分の確信することが他人に共有されていないことを知っており、だからこそ「確かさ」を主張する意味を見出している。他人もまた自明に認めているにちがいないことを、わざわざ「確か」であると強調する必要はない。「雨が降っている」と言われたら、「ああそうか」と思うだけであろうが、「絶対に雨が降っている、このことだけは絶対に確かだという自信がある」とまで言われたら、思わず確かめなくなるだろう。

とすると、こんなことが言えないだろうか。他人も同じことを確信しているという自信がないときこそ、人は「確かさ」を強調するのではないだろうか。「確かさ」を声高に主張するときこそ、われわれの心は不安に満ちており、その不安を掻き消そうとするかのように、われわれはますます声を張り上げるのではないか。

逆に、^B何の疑いもなく「確かだ」と思っていることは、それが「確かだ」ということすら通常は意識されていないのではないか。だからわれわれは、本当に確かなことは、わざわざ確かだと強調したりはしない。確かであるかどうか不安が生じたとき、はじめて「確かさ」を意識的に追求する動きが生じるのである。

こうして一つの考えが浮かび上がってくる。本当に何の疑いもなく「確か」だと思われていることは、かえってことさらに「確か」だと言われることなく、あまりにも確かなことは、語られることさえなく、沈黙のうちに沈んでいるのではないか、というのがその考えである。そのように沈黙のうちに沈んでいる広大な世界を探究しようとするのが、「現象学」と呼ばれる学問である。

「確かだ」とことさらに意識されていないような「確かさ」の^C様タイを、(ここでは「自明性」と呼ぶ。「自明性」とは、ドイツ語の Selbstverständlichkeit に対応する語であり、現象学用語としても用いられる。このドイツ語は、「おのずから、それ自体だけで」(selbst-)「理解される」(verständlich) という意味である。自然に理解されていること、ことさらに意識することはないが、それでも「おのずから」わかっていることが、「自明」と呼ばれる事柄である。

このような「自明」なもの、あまりにも「あたりまえ」であるがゆえに、ふだんわれわれが問おうともしないものこそ、エドムント・フッサール(Edmund Husserl 一八五九—一九三八)によって創始された「現象学」と呼ばれる学問があえて問おうとするものである。それゆえフッサールは、現象学を「自明なものの学」と呼ぶ。ある入門講義のなかで、彼はみずからの考える哲学を次のように特徴づけている。

「『哲学は』もっぱら自明なことを問題にするという奇妙な性格をもっている。そして実際、次のように言っても決して言いすぎではないのである。すなわち、自然的な人間にとって(また自然的な態度にとどまる学者にとっても) 自明であるような一切のことが、最も深い謎に纏^Dい付かれていることが反省のなかで明らかになる。そして、哲学をはかなぬ自明なものの学と呼ぶとき、それは逆説的ではあるが、真なのである。」(XXXV, §「哲学前門」講義、一九三二/三三年)

つまり現象学は、「あたりまえのこと」をあたりまえに前提した上で、「あたりまえでないこと」、驚くような新奇な知見を求めるのではない。この点で現象学は、科学と異なる性格をもつ(ただし、現象学は決して反科学的ではない)。

^D科学的知見は、何らかの程度において、これまで知られていなかった新しい内容を含んでいる。リングが木から落ちるのは「あたりまえ」である。そんなことは誰でも知っている。だが、この「あたりまえ」の事実を「重力」という力によって説明するということは、決して自明ではない。生物が成長するのは「あたりまえ」だが、それがイ^E伝子によってセイ御^Fされていることは、「あたりまえ」ではない。科学は、自明なことには手をつけない。それを事実として前提した上で、そこに潜んでいる驚くべき新たな事柄を明るみに出す。

これに対し現象学は、むしろ「あたりまえ」ゆえに通常は素通りされてしまっているもの、それゆえ何かをテーマとして追究するような思考にとっては、ほとんど意識に上らないような次元を問題にする。だが、このことによって、われわれの経験や生は、言葉を失うほどの「謎」として立ち現われてくる。リングが木から落ちるのは「あたりまえ」である。なぜ「あたりまえ」と思えるのか。何についても「なぜ?」と尋ねる子供が、「なぜあたりまえなの?」

と尋ねたら、どう答えるか。こう言ってみる。「それは重さがあるからだろう」。子供に石を持たせる。「これは重さがあるだろう？　手を離してごらん。重いものは下に落ちるだろう？」そこで子供は、さらにだめ押しの問いを発する。「重いってどういうこと？」ここまで来ると、少なからぬ大人が困惑したり苛立つたりしはじめる。石を持たせながら、「ほら、これが重いついていうことだよ。わかるだろう？　簡単なことだよ」と言う。だが、この教え方は、「石って何？」という問いにも適用できる。石を手持たせて、「ほら、これが石というものだよ。わかるだろう？」と言うのである。同じ教え方で、違うものを教えられる子供は、結局自分で答えを見つけ出すしかない。

これと同じ方式で、あれこれの問いを突きつけられたら、どうであろうか。「見る」とはどういうことか、「もの」を見ることと、「絵」を見ることはどのように違うか、「外の世界を経験する」ことと、「心のなかで空想する」ことはどのように異なるか、「過去」と「現在」はどう違うか、「経験する」とはどういうことか、「心」とは何か、「私の身体」は「物体」とどう異なるか、「私」とは何を意味するか、「他人」と「私」はどのように同じで、どのように異なるのか、「他人の心」についてどうやって知ることができるのか、等々。

あまりにも「あたりまえ」のことについて問われると、われわれは苛立つたり、途方に暮れたりする。そのような次元は、いつもすでに経験され、生きられていて、気づけばいつもそこにあるのだが、あらためて語ろうとすると、言いよどみ言葉を失ってしまう。よく馴染んでいて、自分自身の生と一つになっているがゆえに、それについて語ることはかえって難しい。それについて語る言葉がない。「あたりまえのこと」は、通常、語らなくてもわかっているからである。

だが、この「語らなくてもわかっている」ということは、現実を言葉で切り取って整理しようとする思考にとつては、曲者である。わかっているがゆえに、簡単に語れそうに思える。そして、実際に語ってしまふ。それで十分であるかのように思ってしまう。わかっている人間同士のあいだでは、それで通じたかのようにも思われる。だが、そこで語られようとしていたものが決定的に変質してしまっていることに、われわれはしばしば気づかないのである。たとえば「重さ」を「重力」によって説明しても、「重いつてどういうこと？」という子供の問いに答えたことにはならないだろう。重力にもついで言うなら、羽も石も等しく「重さをもつ」。しかし、重力による説明は、「羽の軽さ」に対する「石の重さ」を説明してくれるわけではない。そして、このような「重さ」こそ、日常の生にとつてはより基本的で「あたりまえ」の次元に属する。

ところで、「重いつとはどういうことか」についての子供の問いに、「重力」による科学的説明で答える、といったたぐはぐさは、実は現代のわれわれにとつて、それほど笑えないことなのではないか。科学によって、専門知によって、日常の生への問いに答える、ということとは、現代ではさほど不思議なこととは思われない。「確かさ」を求めようとするなら、専門家に説明してもらった方が、「安心する」のである。このことにはもちろん、元々は正当な理由がある。だが、そこでわれわれが手に入れている「確かさ」は、どのような種類のものか？「安心」と結びついているなら、それは純粋に科学的な「正確さ」のようなものではないであろう。そもそも「科学的な正確さ」がなぜわれわれを安心させる「確かさ」として働くことができるのか、ということはま

たしても科学的な正確さによって答えることができない問いである。

そのような問いは、現代人の生のなかで、どこどこに覆いようもなく噴出する。だがわれわれは、しばしばそのような問いをまさしく「問い」として立てる術をもたないし、もし問いを立てることができたとしても、その問いの前で呆然と佇むことしかできない。「自分」とは何かがわからなくなったとき、「他人」とは何かがわからなくなったとき、「世界」とは何かがわからなくなったとき、「生」がなぜ営まれているのか、「死」が何を意味するのか、わからなくなったとき、これらの問いに對して、手取り早く答えてくれるものを見つけられる人は稀であろう。多くの人は、多くの場合、問いに蓋をすることしかできない。

問いに蓋するのは、怖いからである。不安だからである。それでは、その不安に、aに立ち向かうことが求められるのだろうか？

現象学は、一見こういった問いとは無縁であるように見える。実際、フッサールは、こういった（かつて「実存的」とも呼ばれた）問いにb正面から答えようとはしない。

それにもかかわらず、フッサールの創始した現象学は、先に述べた一連の問いにも、どこかで通じているように思われる。噴出しようとする問いに蓋をして無視するのではなく、不安と派手に一戦交えるのでもなく――不安に呑み込まれずに、冷静にこの問いへと「一歩一歩、徒歩で」近づいてゆく道を、現象学は指し示しているように思われるのである（高額紙幣ではなく小銭で払え、というのが、フッサールが常々語っていた現象学のcであった）。

「自明性」へと問いを差し向けることは、結局のところ、われわれの経験と生がどのようにに成り立ち、営まれているのかを問うことにはかならない。

「現象学」と呼ばれる哲学的な試みは、長くそのような問いに携わってきた。それは幾つかの「ブーム」と凋落を経験し、多くの批判にも晒されてきたが、それにもかかわらず、いまだにそれに関心をもち、そこに可能性を見出す人々を惹きつけ続けている。哲学や思想を流行でしか見ない人にとつては、「現象学」など過去のものにすぎないかもしれないが、それは依然として世界の各所で議論され、共同的な思考のネットワークを生み出し続けている。たとえば認知科学、神経科学、ロボット工学などの分野で、現象学は新たに注目を集めているし、「心の哲学」において展開されてきたさまざまな議論と、現象学における議論との類似性や関連が関心を呼ぶようになってきている。また、看護や介護など、「ケア」という言葉で包括されるような人間への関わりを考えるために、現象学を援用しようとする動きもある。これらの動きの背景にあるのは、何らかの「現実性の地盤」、自明と見なされるような前提に立脚して、「確実な」客観的成果を積み上げるといったタイプの研究ではもはや対応できないような問題に、諸科学や社会的活動の各所で人間がぶつかっているようになってきたということがあるのではないか。

田口茂、現象学という思考（自明なもの）の知へ、筑摩書房

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) 意図 | ① 使途 | ② 企図 | ③ 徒然 | ④ 都会 |
| (2) 様タイ | ① 絶対 | ② 肢体 | ③ 泰然 | ④ 態度 |
| (3) イ伝 | ① 意思 | ② 医師 | ③ 遺書 | ④ 維新 |
| (4) セイ御 | ① 整列 | ② 政治 | ③ 請求 | ④ 制令 |
| (5) 純スイ | ① 睡蓮 | ② 未遂 | ③ 推奨 | ④ 無粹 |

問二 傍線部A「これはとても興味深いことである」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① ボルヘスという作家が、架空の物語をあえて真実だと主張し小説を刊行し続けたことで、人々が彼の作品に対して興味を持ち、世界的な作家として大成するに至る結果になったこと。
- ② われわれ自身がよく知っている日常の真理は、確実であることを疑わしいもの、胡散臭いものとして潜在的にとらえるため、われわれの知覚では真実にたどり着くことができないこと。
- ③ 「確実に金儲けができます!」「絶対確実に幸せになれます!」といった言葉は相手をだますための常套句であり、これらの言葉に従って、金持ちになったり、幸せになったりした人はいないこと。
- ④ あることが確実な真実であると主張されればされるほど、それを受け取る人々は、その主張が疑わしいもの、胡散臭いものとして、逆の意味に受け止める傾向が私たちにはあること。

5

問三 傍線部B「何の疑いもなく「確かだ」と思っていることは、それが「確かだ」ということすら通常は意識されていない」の事例として不適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① われわれの自治体の祭りは二〇〇年続けて開催されており、今年も八月に例年通り開催される予定だ。
- ② 月曜日の次には火曜日、火曜日の次には水曜日、一月の次には二月、二月の次には三月が来ることになっている。
- ③ この演劇の座席はランダムで選択されることになっており、抽選に外れて観劇できない場合もある。
- ④ 地球が太陽の周りを回っているように、水星や火星などの他の惑星も太陽の周りを回っている。

問四 傍線部C「自明性」の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① それを特に意識することによって、とりわけ自分でも自然にそれをわかっているような状態。
- ② それを意識することによって、特に自分が自然にそれをわかっていることを理解するような状態。
- ③ それを特に意識することはないが、それでも自然にそれを自分でわかっているような状態。
- ④ それを意識することはないが、自分がそれについて特にわかっているような状態。

問五 傍線部D「科学的知見は、何らかの程度において、これまで知られていなかった新しい内容を含んでいる」の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① あたりまえのことを既成事実として考えることによって、人間の能力をこれまでにない未知の段階へと高めていくことが科学の役割であること。
- ② あたりまえのことを実験によって発見することによって、人々には未知とされている事柄を次第に減少させていくことが科学の役割であること。
- ③ あたりまえのことを無かったこととして否定した上で、新たな実験によって新発見したような驚きを人々に与えることが科学の役割であること。
- ④ あたりまえのことを既成事実と前提にした上で、人々には知られていないそこに潜んでいる事柄を明らかにすることが科学の役割であること。

問六 傍線部E「結局自分で答えを見つけ出すしかない」の理由を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 大人が感じる重さと子供が感じる重さの間にはかなりの差が存在しており、大人の言葉による説明では、子供は子供としての正しい重さの感覚をつかむことができず、自分なりに調整して大人にとつての重さの基準を判断するしかないということ。
- ② 大人がリングの重さについて子供に説明しても、その重さは子供にとっては大人と同じ感覚の重さとはならないため、子供は自分が納得いくまでリングを手にとって、自分に適した重さの感覚を学ぶ必要があるということ。
- ③ 子供が石の種類による重さの違いについての感覚を得ようとする時、大人からいろいろな説明を受けても、実際に子供が石に触って、それなりの経験を積む必要があり、この過程は他の人間には頼ることができないということ。
- ④ 重力や重さについて、子供にとつて重いという感覚があまりにも漠然としすぎていて、その感覚を正しく理解することができないため、結局、自分なりに納得する方法でしか子供はその感覚を体得することはできないということ。

6

問七 傍線部F「曲者」の意味について最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 悪者によって意図的に間違いが仕組まれていること。
- ② その裏に何かが隠れていそうで油断ができないこと。
- ③ 結論が出るまでに時間がかかることが見込まれること。
- ④ 内容が頻繁に変わって判断を下すことができないこと。

問八 傍線部G「そのような問い」の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 科学的な正確さは、人間をはじめとした生物や世界、宇宙の謎をこことく解き明かしてきたが、この世に存在するすべての生物が死からは逃れられていないという問い。
- ② 科学的な正確さによっては解答することのできない、科学的な正確さがなぜわれわれをアブリアリに安心させる「確かさ」として働くことができるのかという問い。
- ③ 宗教的な正確さを排除する理由にはならず、科学を妄信することが社会の秩序を乱すことになるのではないかと、科学的な正確さが証明されたとしても残る問い。
- ④ 科学的な正確さは、専門家でなければ理解することができないものであって、それ以外の人々が主張する「確かさ」においても、それなりの配慮を払う必要があるのではないかと問い。

問九 空欄 a 〃 c にあてはまる言葉として最も適切なものをそれぞれ①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|------|----------|----------|----------|----------|
| 空欄 a | ① パセティック | ② アイロニック | ③ ヒロイック | ④ ポエティック |
| 空欄 b | ① 仰々しく | ② 華々しく | ③ 由々しく | ④ 荒々しく |
| 空欄 c | ① スローガン | ② サボタージュ | ③ メランコリー | ④ カタストロフ |

問一〇 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

- イ 空の色をわれわれが「青色」であると確信しているのは、科学的な知識によってその色を青と認識するように仕向けられているからであって、別の科学的な知識によってその色が赤だと証明されれば、われわれは空の色についての認識を更新する性格を持った生き物なのである。
- ロ フッサールにとつての現象学とは、「あたりまえのこと」をあたりまえと前提した上で、「あたりまえでないこと」や驚くような新奇な知見を求めるものではない点においては、常に「確かさ」を求める科学とは異なる性質を持ったものだといえることができる。
- ハ 「重力」によって「重さ」を説明しようとしても、羽も石も等しく重さを持つていることが、日常生活においてはより基本的で「あたりまえ」の次元に属しているために、「羽の軽さ」に対する「石の重さ」の違いについて人々を納得させるような解答を準備することは難しい。
- ニ フッサールによって創始された現象学は、長年にわたつて人間の経験や人間の生のある程度の包括的な見通しをもって論じるプラットフォームを人々に提供してきたが、関係する研究者の意見の相違がこの学問の継続を極めて困難なものにしつづけると言われている。

【問題二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

モチベーションという用語は、20世紀初頭、人をコントロールすることに對する社会的な関心の高まりに伴って普及していった。特に、人を操作したり、誘導したりするニーズの高い、経済、教育、犯罪、広告といった分野でその傾向が顕著だった。たとえば、犯罪分野の専門家たちは罪人を矯正する必要に迫られていたり、広告業界では特定の物品を買わせるにはどうすればよいかと頭を悩ませていたりしたわけである。

今日、モチベーション研究が最も盛んな二大領域として「教育」と「経営（マネジメント）」が挙げられる。教育心理学では「学習意欲」が、産業・組織心理学では「ワーク・モチベーション」がそれぞれ代表的な研究分野としてすでに確立している。その理由も以上のことから明らかだ。今も昔も、教師にとっては勉強させること、経営者にとっては動かせることが職務上の切実な課題だからである。このように、モチベーション研究の隆盛を支えてきたのは、人をコントロールすることに対する関心やニーズだったのだ。

有効性や有用性を求める世間とモチベーションを研究する学界が、ともに着目したキーワードが「達成」である。ここでいう達成とは「業績」や「成果」、そして「それらを生み出す行為」（パフォーマンス）を指す。

たとえば、企業は業績を高めるような仕事を労働者に要求するだろうし、学校は子どもたちに対して学業成績の向上を目指して勉強するように仕向ける。このように社会の側は個人に対して「達成」を強く求める。

一方、モチベーションの研究者は、どのような「動き」を研究対象とするかを決めなければならなかった。そこで彼らの多くは、意味のある動きやその結果の指標として達成に着目し、それをテーマとして取り上げることにする。その結果、モチベーションは達成に関連する行動やその成果を説明する学問分野へと発展していったというわけだ。心理学者と人のコントロールを求める社会の側は、「達成」というキーワードを媒介として利害が一致したのである。

象徴的なのが、次の有名な「公式」だろう。

^B 達成（パフォーマンス）＝能力×モチベーション

この式は、達成が「能力」と「モチベーション」の積であることを示している。つまり、①達成は当人の能力とモチベーションに規定されること、②能力が高いほど、あるいはモチベーションが強いほど、達成も大きくなること、③たとえ能力があっても、モチベーションがゼロであれば成果が出ないこと、④いくらモチベーションがあっても能力がゼロであれば成果が出ないことを意味している。

たとえば、「Aさんは、能力はあるのにやる気がないから業績がバツとしない」、「Bさんはいつもやる気満々だけど、能力が今ひとつだから業績が伸びない」、「Cさんが業績優秀なのは能力もやる気もトップレベルだからだ」といった説明がこの式によって可能になる。

かくして、モチベーションは確固たる学術用語として認められ、「モチベーションが達成を左右する」という発想が「価値ある図式」として確立したのである。

^C ここで発想を転換してみよう。翻って考えてみれば、達成とはわれわれの生活に埋め込まれた日常的な活動でもある。

たとえば、資格試験の合格を目指している人がいる。その人にとっての達成は「合格」であり、そのために毎日、何時間も勉強しているとすれば、それはまさしく達成に向けたモチベーションの事例だといえる。

達成というと「全国大会での優勝」といった特別な成功を思い浮かべるかもしれないが、^③イ業を成し遂げることはかりが達成ではない。たとえば、ボランティア活動に応募する、海外旅行の計画を立てる、今日からダイエットを始める、電車で席を譲るといった身近な日常的行為も、ささやかな達成である。このように考えると、達成とは日常のひとつとコマであり、われわれはその一つひとつの達成体験に大小の喜びを感じながら生活していることがわかる。

ただ、そこには個人差があり、「何を達成とするか」、「どの程度で達成とみなすか」は人によって異なっている。「マイホーム」の購入を達成だと思ふ人もいれば、思わない人もいる。なかには「一等地に建つ豪華なマイホーム」でないと達成とみなさないという人もいよう。その一方で、どここの場所であらうと、どんな小さな家であらうと「マイホーム」であれば達成だと思ふ人もいるのである。

つまり、達成とは、当人にとって、価値ある行為をすること、あるいは価値を生み出す行為をすること、特に、それをやり遂げることを指す。他者や社会が求める業績や成果ばかりが、達成ではないのだ。

どんな種類の達成でもよい。達成が一切ない生活や人生を想像してみてもよい。生きる意味を感じることができたらどうか。

実際、達成感（「やろうとしていることがやり遂げられた」という感覚）は幸福感と関連しているという。また、達成はウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好な状態）の構成要素のひとつとしても位置づけられている。達成はわれわれの日常生活に喜びや充実感をもたらし、心身の健康をも促すのだ。そしてこの達成を支える心理的な要因が、まさにやる気や意欲なのである。

名探偵エルキュール・ポアロが、スペンス警視に問いかける。

「よろしいですか、どんな殺人事件にもかならず動機があるものです。とすると、マギンティ夫人事件にはどんなものが動機になりますか？ 嫉妬、復讐、ねたみ、恐怖、金？」

このように殺人ミステリーでは、犯行の動機が必ず問題になる。遺産のような金銭が目的の場合もあれば、嫉妬、復讐、ねたみ、恐怖といった心理的な理由という場合もある。殺人のモチベーションは動機によって説明されるわけである。

ミステリーの世界だけではない。就職の志望動機、手紙を書く動機、タバコをやめた動機というように、われわれは日常生活でのモチベーションを説明したり理解したりするために動機という言葉を使っている。その人なりの理由が特定の行為を生じさせると考え、それを動機と呼んでいるわけだ。

確かにこの説明はわかりやすい。しかし、これではあまりにも単純すぎるのではなからうか。たとえある人が特定のの人にねたみを感じていたり、その人の死によって金銭的な利益が得られるとしても、殺人事件にまで発展することは稀であろう。動機があっても必ず行為が起ることとは限らないのだ。また、特定の動機がどのような行為を生じさせるかについても予測できない。相手を刺殺するか、毒殺するかという行為の違いは、嫉妬という動機だけではわからないのである。

今、あなたがしている「読書」を例に考えてみよう。あなたは本を手にとって読む気になり、実際に読み進めている。これこそがモチベーションと呼ばれる心理現象の具体例である。そこでは、本を開く、ページをめくるといった行動（身体的な動き）と同時に、読解（文章の意味を理解する）という身体内（頭や心）での「動き」が進行している。しかも、その一連の行動（読書）という行為）はいずれ終わるはずだ。

心理学の一般的な定義によれば、モチベーションとは「特定の行為が始発し、持続し、方向づけられ、最終するというプロセス」とされる。読書の例でいえば、あなたが本を読みはじめる。ゆっくり丁寧に読む、あるいは読み飛ばすなど、自分なりの読み方で読み進めていく。そして、終わるまで読み終えるか、途中で読むのをやめる。このひと続きの現象が読書のモチベーションなのである。

モチベーション研究では、行為（一連の行動）のプロセスに対応して、以下の3つの問いが主に検討されてきた。

まず「その行為が起ころのはなぜか」というテーマ（行為始発の問い）である。通常、その答えとして「理由」が挙げられることが多い。これは、日常語としての動機にはば該当する。

たとえば、あなたはなぜ本を手にとって読みはじめたのだろうか。人によってその理由は様々だろう。仕事で報告書の提出が求められており、参考書として本を手にとったという人もいるだろう。友人に勧められたので、次に会ったときの話題にしようと思って読みはじめた人もいるかもしれない。このように同じ行為であっても、行為始発の理由は様々である。

ただ、このような理由が行為の本当の原因だと断定はできない。たとえば「仕事のため」という理由の背後に、「上司にはめられたいから」といった半ば無意識な原因が潜んでいる場合がある。当人が答える理由は意識にのぼった説明（しばしば解釈）にすぎず、必ずしもその理由に即して行動が生じているとは限らないのである。

以上のことから、モチベーションの心理学では理由の認識だけではなく、非意識過程を含め、より広範な行為の原因について検討している。

では、その読書活動はどの程度続くだろうか。最後まで一気に読了する人もいるかもしれないが、「目が疲れてきた」、「飽きてきた」、「しなければならぬ別の予定がある」といった理由によって読書を中断する場合も多いだろう。このように「なぜその行為が続くのか／続かないのか」（行為持続の問い）がモチベーション研究の第二の問いである。持続しないということは当該行為の終了を意味することから、それは「なぜその行為が終わるのか」（行為終結の問い）をも含んでいる。

一般に、ひとつの行為に取り組んでいる時間が長ければ長いほどやる気があり、すぐにやめてしまう場合、やる気がないと思われる。ただ、ここでの重要な論点は、なぜその行為が持続するのか、なぜその行為が終わってしまうのかである。読書に没頭して時を忘れて読み進める人がいる一方、記述が難解で読むのが嫌になって途中で放棄してしまう人もいるかもしれない。内容がつまらないと感じていても、期限までに報告書を書くために何とかシッポして読了する人もいるだろう。このように行為が持続したり、終わったりする理由も様々であり、その点を探ることでモチベーションの実相に迫ることができるのである。

第三の問いは、「その行為がどのようにコントロールされ、変化したり、進展したりしていくか」（方向づけの問い）である。

たとえば、読書の始発や持続の理由によって「読み方」は違ってくる。自らの興味や関心から読書をする場合、自ずと熱心に読み進めていくだろう。同じ箇所を読み返したり、部分的にゆっくり目を通すなど、文章の意味をじっくりと理解しようとするに違いない。

一方、仕事の 일환として報告書の作成のために読む場合、メモを取ったり、マーカーで線を引いたりしながら読み進めるかもしれない。説明が求められた場合に備えてわからない語句を事典で調べることもあるだろう。同じように仕事が目的であっても、人によっては報告書に使えるような部分だけさっと斜め読みをするだけの不熱心な人もいるに違いない。友人に勧められ、話題作りのために読んでいる場合には、その友人の関心事や話が盛り上がりそうな内容を予想して、関連する箇所だけピックアップし、他を読み飛ばすかもしれない。

以上のように、モチベーションのプロセスにおいては、読み方を柔軟に変えるなど、行為が調整されたり、メモする、線を引く、事典を参照するなど、発展的な行為が新たに生じたりする。モチベーション研究では、このような現在進行形の行為の展開にも着目する。

なお、モチベーションというと、活動的なイメージがあるが、われわれの行為は心身が一体化した活動であり、外面的にみえてとれる行動のみならず、そこには読解といった認知プロセスや、「ワクワクする」「退屈だ」といった情動プロセスなど、身体内の活動もその対象に含まれているという点に留意したい。身振り手振りが決して派手ではなく、身体はほとんど動くことはなくても、熱心に気持ちを集中させて読書をしている姿にわれわれは意欲を感じてに違いない。モチベーションを検討する上では、内面的行為にも着目すべきなのである。

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) フ及 | ① 負債 | ② 普請 | ③ 還付 | ④ 分布 |
| (2) ケン著 | ① 検定 | ② 喧伝 | ③ 文献 | ④ 露顕 |
| (3) イ業 | ① 変異 | ② 偉人 | ③ 威圧 | ④ 遺跡 |
| (4) 豪力 | ① 華道 | ② 寡黙 | ③ 佳人 | ④ 過剰 |
| (5) シン抱 | ① 慎重 | ② 水深 | ③ 辛酸 | ④ 真理 |

問二 傍線部A「達成」というキーワードを媒介として利害が一致した」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① モチベーション研究の二大領域である「教育」と「経営」において、前者では教育心理学における「勉強させる」こと、後者では産業・組織心理学における「働かせる」こと、を研究する上で、それぞれの「達成」を判定の基準とすることが非常に有効であった、ということ。
- ② 社会においては「達成」、すなわち「業績」や「成果」そして「それを生み出す行為」(パフォーマンス)が極めて重要であるから、働く側と働かせる側の双方において、「達成」というキーワードを自覚することが両者にとってウィンウィンの関係となる、ということ。
- ③ 人をコントロールすることへの関心およびニーズからモチベーションの研究が盛んになったが、経済、教育、犯罪、広告といった異なる分野におけるモチベーションの研究は「達成」という観点を得てようやく学問的な探求が可能となった、ということ。
- ④ モチベーションの研究は意味のある動きやその結果の指標としての「達成」を説明する学問分野へと発展したが、これは個人に対して有効性や有用性などの「達成」を強く求める社会の側と、双方にとって好都合なことであった、ということ。

問三 傍線部B「達成(パフォーマンス)＝能力×モチベーション」の内容を説明したものとして不適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① この公式は、「達成(パフォーマンス)」が「能力」と「モチベーション」の積であることを示している。
- ② この公式から、能力が高いほど、あるいはモチベーションが高いほど、「達成(パフォーマンス)」も大きくなるといえる。
- ③ この公式では、「達成(パフォーマンス)」を「能力」と「モチベーション」の要素に捨象している点が最大の課題といえる。
- ④ この公式が「価値ある図式」として確立したのは、「モチベーションが達成を左右する」という発想を含意しているからである。

問四 傍線部C「ここで発想を転換してみよう」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「達成」を「能力」と「モチベーション」の積という「公式」で示したが、この「公式」を展開させて、「モチベーション」を求める公式に立て直すと、全く異なる視点から「モチベーション」が定義できる、ということ。
- ② モチベーションが「達成」を左右するという発想から、「達成」を生活に埋め込まれた日常的な活動であると理解し、これらの活動を「達成に向けたモチベーション」という発想に転換してみよう、ということ。
- ③ 「達成」には様々なレベルや種類があり、それらの「達成」は先の「公式」によって「能力」と「モチベーション」の積で求められるが、この「モチベーション」と「達成」とを逆転させてとらえよう、ということ。
- ④ 「達成」というと特別な成功をイメージしてしまいがちであるが、「達成」とは見なされない多くの日常的行為を「達成体験」とすることで、「達成」の多様性を認めてみよう、ということ。

問五 傍線部D「この達成を支える心理的な要因が、まさにやる気や意欲なのである」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「やる気」や「意欲」は、たとえば教育分野では「学習意欲」ということになり、「学習意欲」が「達成」によって支えられることは容易に理解できるが、実はその「達成」のためには「学習意欲」と「能力」との相関性が重要である、ということ。
- ② 「やる気」は、「達成」を表現する例の「公式」では「モチベーション」という項目に相当するが、どの程度をもって「達成」とするのか、という判断については、「当人にとっての価値」を「達成」の心理的要因とする理解が不可欠である、ということ。
- ③ 他者や社会が求める業績や成果ばかりではなく、当人にとって価値のある行為によって得られた「達成」が心理的な喜びや充実感をもたらし、その「達成」を支える要因ともなる「モチベーション」を構成しているという構造になっている、ということ。
- ④ 「達成感」は「生きる意味」と関連しているため、日常における「達成」はわれわれの日常生活に喜びや充実感をもたらし、心身の健康をも促すことになるが、その「生きる意味」の探求こそが全ての行動につながる「モチベーション」の正体である、ということ。

問六 傍線部E「これではあまりにも単純すぎるのではなからうか」の理由を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 殺人ミステリーなどでは犯行の「動機」が必ず問題になるが、犯行と「動機」を結びつけたミステリーでは娯楽性が損なわれるから。
- ② われわれは日常生活での全ての「モチベーション」を「動機」によって説明しているが、それでは各人の個別の事情しか理解できないから。
- ③ 「モチベーション」を「動機」によって説明するが、「動機」が行為の必然とは限らず、特定の「動機」がもたらす行動も予測できないから。
- ④ 「モチベーション」を理解するためにすでに「達成」という視点の有効性が認められており、改めて「動機」という変数の導入は不要だから。

問七 傍線部F「ひと続きの現象」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 特定の行為について、始発・持続・方向づけ・終結という一続きの現象におけるモチベーションとらえる、ということ。
- ② どのような行動であれ、必ず「モチベーション」と連動することになるが、「読書」などはその好例である、ということ。
- ③ 「読書」における「モチベーション」とは、本を手に取り、実際に読み始めるまでの一連の行動のことをいう、ということ。
- ④ 「読書」では、ページをめくるといふ身体的な動きと同時に読解するといふ身体的な動きが一続きの現象となる、ということ。

問八 傍線部G「モチベーション研究の第二の問い」の内容の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「モチベーション」研究において、「行為」を起こすことになるその「始発」に対する問いは、その行為の「理由」を解明することになるが、その「理由」とは日常語としての「動機」とほぼ同義と見なすことができるのではないかと問い、ということ。
- ② 読書という行動の「理由」を例に挙げても、その「理由」は様々であって、行為の本当の原因としての「理由」を特定することは困難であるため、心理学の分野で行われる、無意識の過程を含む広範な原因の分析と考察を行うための問い、ということ。
- ③ 一連の行動も、様々な理由によって人ごとにその持続の形態に違いが発生するが、その持続の形態について、当人が自覚している「理由」のみならず、外的な要因についても同様に「行動」に違いを生じさせるか否かを問い直す、ということ。
- ④ 「モチベーション」のプロセスの一つである「持続」に対する「行為持続」の問いであり、「なぜその行為が続くのか/続かないのか」という問いであるため、当該行為の終了に関する「行為終結」も含まれる問い、ということ。

問九 傍線部H「モチベーションを検討する上では、内面的行為にも着目すべきなのである」の理由を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① ひとつの行為であっても、その行為のありようは様々に異なる姿で発現し、それは「現在進行形の行為」として理解されるが、その「現在」の行為に密接に関わるのが当事者の内面であるので、「現在進行形の行為」は当事者の内面的行為であるとみなすべきであるから。
- ② ひとつの「モチベーション」によって行為が誘発されるが、その行為は「モチベーション」のプロセスによって行為が調整されることで、さまざまな発展的な行為を生じることがあるので、これらの展開の根拠となる「動機」に常に注意を払う必要があるから。
- ③ 「モチベーション」というと、活動的なイメージと相まって外面的に見てとれる行動に注目しがちであるが、その行動は心身が一体化した活動であるので、認知プロセスや情動プロセスといった「内面的行為」もまた注目しなければならないから。
- ④ たとえば「読書」では外面的には派手な行為として現れることはなく、むしろ読解という行為に集中しており、そこに意欲を理解するのが一般的であるように、あらゆる行為を内面的行為としてとらえ直す必要があるから。

問一〇 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

- イ 社会は個人に対して「達成」を強く求めるため、「達成」を確実にするために「モチベーション」研究が悪用されることがあった。
- ロ 人をコントロールすることに対する関心やニーズによって、「モチベーション」研究の隆盛は支えられてきた。
- ハ 「モチベーション」は「動機」によって説明され、理解されるのが一般的であるが、それは「動機」こそが当該人物の特定の理由が特定の行為を生じさせる原因であるという理解によっている。
- ニ 「モチベーション」の実相に迫る上で、一つの行為に取り組んでいる状況に対して、その行為がどのように持続したり、終わったりするのか、その理由を探るといふ方法では困難があるといえる。

I. 次の英文を読み、設問に答えなさい。

The concept of culture is difficult to define. Yet, if we wish to deepen our understanding of intercultural communication, thinking about the concept of culture is (1). The English word “culture” stems from the Latin word *cultura*. This word originally meant “to cultivate the (2).” This meaning can be seen in the word *agriculture*. Culture was basically seen as a process of maturation or development. Around the 19th century, cultural critics in England developed a view of culture as the most outstanding forms of human (3) achievement, such as great literature, art, opera, and classical music. They referred to such highly developed cultural products and activities as high culture. In general, (ア) required time and money and was therefore mainly enjoyed by the elite in society. On the other hand, low culture was seen as activities enjoyed by the uneducated “masses.” This might include things such as simple board games, folk dance, and other activities which can easily be appreciated by a large section of the population. [A] The terms, mass culture or popular culture, are often used instead of low culture these days.

Around the end of the 19th century, a separate concept of culture emerged due to the birth of the field of cultural anthropology. Cultural anthropologists saw culture as a system including behaviors, norms, values, symbols, beliefs, and products shared by a community. They aimed to describe and explain the diversity of human cultures around the world. By doing so, they hoped to (4) the universal aspects of human culture. In other words, they studied diversity in order to gradually understand universality. Researchers often travelled to remote places to live with locals and observe their (5) patterns. They wanted to describe the actions, relationships, and events that they saw, in order to understand local peoples’ ways of thinking and communicating. [B] They focused on cultural behaviors such as customs for eating, sleeping, dressing, communicating, as well as birth and death rituals, festivals, and other traditions shared by a group. It was clear to them that members of a culture have (6) ideas about what is “normal” or appropriate behavior for a particular situation. These ideas are called norms.

[C] However, the recent trend in cultural anthropology has been to emphasize diversity within cultures. For instance, while cultures are based on broadly shared norms and values, that doesn’t mean that norms are exactly the same for everyone. Norms can depend on whether you are male or female, young or old, rich or poor, or your status within the cultural community. [D]

Troy McConachy, 古家聡, 櫻井千佳子, Intercultural Communication for English Language Learners in Japan, 南雲堂

問 1. 空所 (1) ～ (6) に入れるのに最も適切な語を 1 つずつ選びなさい。

- (1) a . boring b . easy c . unnecessary d . vital
- (2) a . air b . ground c . sea d . tree
- (3) a . emotional b . financial c . intellectual d . physical
- (4) a . avoid b . discover c . forget d . hide
- (5) a . design b . farming c . lifestyle d . meal
- (6) a . broad b . different c . fixed d . similar

問 2. 空所 (ア) に入れるのに最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- a . to attend the opera
- b . to write classical literature
- c . to understand high culture
- d . to participate in mass culture

問 3. 次の文が入る最も適切な箇所を [A] ～ [D] から 1 つ選びなさい。

When most people hear the word “culture,” they tend to think of national culture.

問 4. 本文の内容を最も的確に表しているものを 1 つ選びなさい。

- a . The distinction between high and low culture.
- b . The development and understanding of the concept of culture.
- c . The history of cultural anthropology in the 20th century.
- d . The description of customs and traditions in various cultures.

問 5. 本文の内容と一致するものを a ～ h より 3 つ選びなさい。

- a . The word “culture” in English comes from a word in another language that means “to grow.”
- b . “High culture” is mostly about popular songs and new kinds of modern art.
- c . In the 19th century, “low culture” activities were mainly enjoyed by the elite in society.
- d . Folk dance is considered a part of low culture.
- e . People nowadays use “mass culture” or “popular culture” instead of “low culture.”
- f . A different concept of culture emerged thanks to advancement in technology in the 20th century.
- g . Cultural anthropologists wanted to teach local people their own ways of thinking.
- h . The current trend in cultural anthropology is to recognize that age or gender can influence the norms of culture.

II. 次の対話において、(1) ~ (8) の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

1. A : Why aren't you playing basketball?

B : [(1)]

A : I see. You should go see the school nurse.

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| a. I hurt my arm. | b. The game is boring. |
| c. I need to tie my shoelace. | d. I will play the next match. |

2. A : This is a fun party, isn't it?

B : [(2)] I'm having a great time.

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| a. Absolutely! | b. It was easy. |
| c. We did well. | d. Time for a lunch break. |

3. A : You've been in the library for hours. How's your studying going?

B : My laptop stopped working with all my notes on it.

A : [(3)]

- | |
|--|
| a. Maybe you should take more breaks. |
| b. Is it chapter 5? |
| c. Did you call the campus tech support? |
| d. That's a nice laptop brand. |

4. A : Hey, I haven't seen you at this gym before. [(4)]

B : Yeah, I just joined. I'm not sure where to start.

A : You should try the class for beginners.

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| a. You are early. | b. First time? |
| c. How much is the membership? | d. You can stay. |

5. A : Wow, there are so many shops! [(5)]

B : I think it's on the other side, near the big tent.

A : Let's go together and find it.

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| a. I once lost my wallet here. | b. Festivals are too loud for me. |
| c. Where is the food section? | d. Do they grow fruits? |

6. A : The train is late again, isn't it?

B : It seems so. It's been 20 minutes already.

A : [(6)]

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| a. This bus is usually punctual. | b. I love waiting. |
| c. I am early this time. | d. Let's take a taxi. |

7. A : Why do you look so frustrated?

B : I spilled water on my painting, [(7)]

A : Maybe you can fix it.

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| a. so I like art. | b. and it's really good. |
| c. but I'm pleased. | d. and now it's ruined. |

8. (Two staff in a cafe)

A : That customer wants a latte.

B : I haven't learned how to make it yet.

A : [(8)]

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| a. I can show you. | b. Why so many flavors? |
| c. Customers can be demanding. | d. I prefer iced coffee. |

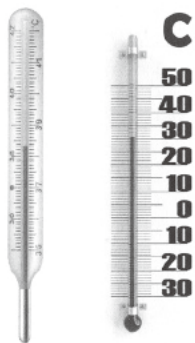
Ⅲ. 次の温度計についての説明を読み、その内容と合っているものを a ~ j より 3 つ選びなさい。

1. Infrared Thermometers



Infrared thermometers measure body and surface temperature using infrared light sensors. They are usually held in the hand and do not need to touch something to measure its temperature. Infrared thermometers work very quickly, so they are useful for measuring the body temperature of small children. However, they can be easily affected by the heat of other things, such as the temperature of the air, sunlight, and thick clothing, so they are not very accurate.

2. Glass Thermometers



Glass thermometers are traditionally a glass tube filled with a metal called mercury. Mercury becomes thicker or thinner as the temperature changes and moves up and down in the tube. The line at the top of the mercury in the glass tube shows the temperature. These thermometers can measure air temperature, or body temperature if they are inside the body or under the arm. Glass thermometers are accurate, but the dangerous mercury has been replaced with alcohol in recent thermometers.

3. Galileo Thermometer



The Galileo thermometer is named after the great scientist Galileo, but he did not invent it. This thermometer is a glass tube filled with clear alcohol. There are several glass balls filled with special liquids floating in the alcohol. As the air temperature changes, each glass ball floats up and down in the tube. To measure the temperature, look at the lowest ball floating in the tube. This kind of thermometer is not very accurate.

4. Thermocouple Thermometer



A thermocouple thermometer measures temperature using two different metal wires. Both wires must touch a surface to measure its temperature. This thermometer finds temperature by measuring the flow of electricity between the wires and is extremely accurate. Some are used to measure body temperature, while others are used for measuring the temperature of liquids and food. There are also thermocouple thermometers that can measure over 1,000 degrees, so they are commonly used in factories.

- Infrared thermometers measure temperature by making physical contact.
- The body temperature of a child is easy to measure with an infrared thermometer.
- Most glass thermometers used today have mercury in them.
- A glass thermometer can measure body temperature by placing it on your forehead.
- The Galileo thermometer was first made by the scientist Galileo.
- Balls floating in water move up and down in a Galileo thermometer.
- Thermocouple thermometers are the most accurate of the four.
- The temperature of a sandwich can be measured by a thermocouple thermometer.
- All four thermometers can be used to measure someone's body temperature.
- Only one of the thermometers can measure temperature by touching something.

IV. 各文の空所に入れるのに最も適切なものを1つずつ選びなさい。

- (1) If you want () information on writing your report, you should get some books from the library.
a. additional b. harmful c. smooth d. wrong
- (2) James () enough money for his trip to New Zealand.
a. fixed b. learned c. picked d. saved
- (3) Susie did a lot of souvenir shopping in Thailand because the prices were so ().
a. expensive b. low c. rich d. strong
- (4) Alice speaks not only English () also German.
a. and b. but c. or d. so
- (5) Cathy's cafe is very popular because she always hosts her customers ().
a. cheerfully b. hopefully c. impolitely d. nearly
- (6) David regrets he () harder for tomorrow's test after playing video games all day.
a. didn't study b. should study c. studied d. studies
- (7) Do you mind () I turn down the volume on the TV?
a. after b. and c. if d. that
- (8) French () at our high school for over 20 years.
a. has been taught b. is taught c. is teaching d. teaches
- (9) I couldn't find my pen I lost yesterday, so I gave up () for it.
a. look b. looked c. looking d. to look
- (10) I can't put () with the noise from my neighbors.
a. above b. over c. under d. up

V. 次の各文の [] 中の単語を並べ換えて日本語の意味に相当する英文を完成させるとき、[] 内で3番目と5番目にくるものを、それぞれ選びなさい。

- (1) 多くの人々がそのレストランの前にいる。
There [a. are b. front c. in d. many e. of
f. people g. the] restaurant.
- (2) テストの成績が悪くて私はがっかりしている。
I [a. am b. at c. bad d. disappointed e. grade
f. my g. on] the test.
- (3) フランスに住んでいる友人はいますか。
Do [a. any b. friends c. have d. in e. live
f. who g. you] France?
- (4) 彼女はヨーロッパの歴史を勉強するためにスペインを訪れた。
She [a. history b. of c. Spain d. study e. the
f. to g. visited] Europe.
- (5) 明日晴れたら、私たちはキャンプに行くつもりだ。
We [a. camping b. go c. if d. is e. it f. sunny
g. will] tomorrow.

【問題一】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

人類にとって、感染症との戦いは長い歴史である。古代エジプト王朝のラムセス五世のミイラには、天然痘由来のかさぶたの痕⁽¹⁾セキがあるという。黒死病と呼ばれたペストは中世ヨーロッパで猛威を振るい、人口の三分の一から二分の一が失われた。比較的最近でも、一〇〇年前にはスペイン風邪が世界的に流行した。一九一八年から一九二一年にかけ、第一次世界大戦と相まって世界中に広まったスペイン風邪は、世界中で数千万人、日本でも四〇万人という死者を出したとされる。しかもその後もボク減⁽²⁾されたわけではなく、香港型やソ連型に変異し、今日も続くインフルエンザに姿を変えているという。

こうした過去の感染症の歴史を踏まえつつ、経済や経営の未来を考えることには意味がある。例えば、経営学者たちが集まった書籍では、天然痘を例にしながら、ワクチンができれば終息に向かうとしながらも、それまでは混乱が続くとして経営の未来を考察している。同様に、経営学者の清水剛は、スペイン風邪とコロナ禍を比較しながら、死の影が存在していた時代と弱まった時代において、経営や消費行動がどのように変わってきたのかを検討し、コロナ後の世界を見据えようとする。さらに会計学者の國部克彦⁽³⁾たちは、ペストの時代の国家像を紹介しつつ、コロナ禍の中でちょうど始まった神戸大学バリュースクールの経験を踏まえ新しい価値の創造方法を模索する。

ここでは、この消費社会について、統治性という概念から検討するとともに、マーケティングとの接続についても確認していくことにしたい。

A M・フーコーは、これまでの西欧社会における三つの感染症の流行を取り上げ、時代ごとに管理の様式が異なってきたと指摘する。統治性という概念は、こうした感染症に対する社会の対応の仕方と関係している。

一つ目は、中世末までのハンセン病患者の排除である。この排除は、法や統制といった法的総体と儀礼的・宗教的総体によってなされ、ハンセン病にかかっているものとつかっていないものの間に線を引く二項区分的な分割をもたらした。ハンセン病自体は、今日では感染力も低いことがわかっているが、中世においては非常に恐れられた。当時考えられた管理の様式は、「社会の外への投棄、追放⁽⁴⁾封じ込め」である。ハンセン病患者を街から排除し、存在しないものとして扱うこと、そうすることで社会そのものが維持されてきた。

二つ目は、ペストである。ペストは典型的な感染症であり、特に中世から一七世紀にかけて統制されてきた。しかし、その管理の様式はハンセン病の時とは異なっている。ペストでは、発生している地域や都市を文字通り基盤制にし、人々に対して統制を課す。その基盤目から、いつ、どのように、何時に出てよいか、自宅では何をしなければならぬか、どのような食物を摂らなければならぬかが細かく指示される。人々は全員毎日のように視察官の前に姿を見せ、自宅も視察官にみせることが強制される。「外出が禁じられ、違反すれば死刑」「住民は真実を言うべし、違反すれば死刑」である。この管理の様式は規律的であり、人々を訓練する。

そして三つ目は天然痘であり、一八世紀からの接種実践が取り上げられる。天然痘もまた感染症であり、ペストと同様に規律も課されるが、先の二つと

は異なりワクチンがすでに存在し、対応に大きな変化がみられる。重要なことは、何人が天然痘に罹⁽⁵⁾っているか、その人々は何歳か、どのような影響が出ているか、死亡率はどの程度か、病変や後遺症はどの程度か、接種を受けた場合のリスクはどの程度か、接種を受けたのに天然痘に罹ってしまう蓋然性はどのくらいかといった、人口一般における統計上の傾向と成果である。このとき、ハンセン病のような排除や、ペストのような防疫隔離の問題でもなく、感染症や風土病を食い止める医学キャンペーンが問題となるとされる。

今回のコロナ禍の場合はどうだったであろう。もちろんいずれの特徴もみられたが、その中でも特に、天然痘にみる管理の様式がより徹底され、ワクチンが開発される前からさまざまな医学キャンペーンが展開されてきた。日々報道されていたように、最も重要なのは地域ごと、国ごとの患者数の増減であり、PCR検査の陽性者数や死亡者数、さらには過去と比べて超過死亡率が日々モニタリングされている。患者が増えれば緊急事態宣言となるが、この宣言はハンセン病やペストの時代とは異なり、人々を強制的に排除・隔離するわけではない。店舗への要請も命令も、従うかどうかは店舗の自由である。患者ですら、収容されたホテルを勝手に抜け出て歩き回ることができてしまう。人々の動きを止めるために、国を挙げた医学キャンペーンが展開されるとも、給付金や補償金が不可欠となり、大規模な財政出動や金ユウ⁽⁶⁾緩和が行われる。

さらに、経済的な配慮は、市場原理がもはや特定の主体による管理の様式を超え、社会の隅々にまで浸透していることと無関係ではない。市場原理は経済の再開を強く切望し、緊急事態宣言や人々の移動制限を難しくする。人の命は、今日では経済の重要性と相克し、人の命と自由も天秤にかけられる。直接的に命が大事だというだけでなく、自由が制限され経済が止まることで人の命が損なわれる可能性までを含め議論の対象となる。

最後の三つ目の管理の様式は、統治性や生権力、あるいは生政治とよばれる。統治性では、誰かが強権を振るうというわけではない。人々は自由に振る舞うことができるが、その具体的な道具立てとして市場や市場原理が重要になる。すなわち、統治性では市場や市場原理を通じて人々が自由に振る舞うことを奨励し、支援する。そしてその自由を通じて、権力は人々に作用するのである。

統治性とは、人々の振る舞いを導く(the conduct of conduct) 今日的な権力の形である。日常的な用語としての権力は、人々の意に反した強制力を指すのに対し、パノプティコン・モデルとしてよく知られるように、フーコーは人々の主体性そのものを作り出している権力に注目し、これを規律訓練型の権力として捉えようとしてきた。規律訓練型の権力では、権力の志向性が人々に内面化される。主体として自由に振る舞うことができるのは、そもそも権力によってそう振る舞うように訓練されてきたからである。先にみた感染症への対応は、それぞれ一般的な意味での権力と規律訓練型の権力に対応している。ハンセン病では、患者の意に関わらず排除が前提となる。ペストでは厳しい罰則は伴うものの基本的には監視されているだけであり、人々は訓練されて自律的にペストに備えるようになる。

規律訓練型の権力を踏まえつつ、統治性では別の形の権力が提示される。規律訓練型の権力は、規律や訓練という言葉が示すように、もともと闘争や戦争といった戦いの世界観のもとで考案されてきた。また、個人の主体化が重要な問題とされ、具体的な国家や組織における権力についてはあまり議論され

てこなかった。これに対して、今日の先進国の多くの国家や政府の諸政策は、戦争のメタファーではなく、むしろ逆に平和のメタファーによって捉えることができる。死を伴う権力ではなく、人々の安全に注目し人々を生かそうとする権力こそが、今日の具体的な国家や政府を捉えるには有用であり、従ってそれは生権力とも表現される。規律訓練と統治性は決して排他的ではないが、異なる側面も有し、規律型社会に変わる管理型社会を提示している。医療社会学者の美馬達哉は、コロナ禍を想定しながら、パノプティコン監視とモニタリング監視を分けて論じている。このとき、モニタリング監視では人々はモニタリングされることを承認し、自ら望んでいる点に一つの特徴がある。

統治性^Dのもとでは、権力の形は司牧的であるともされる。司牧的な権力は、根本的に善行を旨とする権力である。司牧は、羊の群れを導く。しかし、司牧は羊たちを強く追い立てるわけでないし、その内面に関与するわけでもない。羊たちは自由に振る舞う。司牧にとって、重要なのは羊一頭一頭ではなく、群れである。国家においては、個人一人一人が問題ではなく、統計技術によって集計される人口が重要な管理の対象となる。

統治性は、その権力の行使にあたり様々な道具を用いる。その一つだと考えられてきたのが、私たちがこれまで注目してきた市場や市場原理である。市場原理は、人々が市場において自由に振る舞うことを奨励する。そして自由な競争を通じて、より良い社会が形成されると考える。フーコーの思想の中に統治なる概念が存在し、特に新自由主義と結びつけて論じられていることが広く知られるようになったのは一九九〇年代に入ってからだという。

市場や市場原理の導入では、国家や政府は人々に対して直接何かを強制するわけではない。さらに、市場に参加することについて、訓練を施すわけではない。逆に、市場原理の導入は、自然と人々の振る舞いを導くようにみえる。そこに利己的であれ利他的であれ利害を見出した人々が参加すれば、市場は活性化し、拡大していく。政府はできるだけ関与せず、統計情報を管理することによって間接的に市場の方向性を定める。この点では、いわゆる小さな政府を目指すという新自由主義の一つの形をみることができる。

ただし、大きな問題が生じた時には政府は直接的に強く介入もできるし、法的根拠が曖昧な部分にまで入り込んでくる場合がある。公益性という曖昧な部分は、今や国家の侵犯が常態化した。したがって、市場原理は人々の振る舞いを導く権力作用であり、それ自体に良いも悪いもないが、市場原理に無条件に賛同することは、当の作用が権力的で暴力的でもあることを見落とすことになる。権力である以上、そこには人々の意に反する強制力や、あるいはその権力によってふり落とされる人々の問題が生じるのである。

最初に紹介した國部たちは、カミュの『ペスト』を紹介しながら、「混乱の時期に、政府や企業あるいは学校のような組織に依存することは非常に危険であることに、気づくこと」が重要であると述べる。それは統治性の影響が強まった今日にあっても変わらない。

マーケティング研究では、マーケティングが交換を主題として拡張を始めて以降、当の交換を批判的に捉える視点は限られてきた。その一方で、とりわけマーケティングを制度として捉えるマクロ・マーケティング研究においては、規律訓練型の権力も含め統治性に関する研究がさまざまに行われてきた。例えば、インドのMBA教育システムの普及プロセスでは、西洋から導入された市場原理がMBA教育を通じて人々に内面化されていく過程が捉えられる。

さらに、やはりインドでは電子システムがBOP (Bottom of Pyramid) 市場に導入された結果、急激な市場化が生じた一方で二次的な貧困もまた作り出すことになったとされる。市場の形成は主体にも影響を与え、規律訓練とも相まって健康を意識し自らを管理する主体を生み出すとともに、消費行動について責任ある消費者を作り出す。その他、統治性は市場原理の導入という形でソーシャル・マーケティングや公共・非営利組織のマーケティングを後押しし、近年注目されてきた企業と顧客が一緒に活動するという共創の促進に対しても、消費者が新たな労働力として生産過程に巻き込まれている可能性を示す。マーケティング管理としても、統治性は従業員に影響を与えている。失敗に伴う罰の存在はいまでもなく、上司と部下との定期的なフィードバック面談などでは、規律を内面化させる「告白」の仕組みが駆使されていることが示される。

R・レイトンは、マーケティングをより広くマーケティングシステムとして捉え、持続的で経済的な交換の体系であり、人々やさまざまな実体が結びついたネットワークとして定義している。こうした交換の下では、人々は経済的な利益を最大化しようと自発的に行動する一方で、それはかならずしも最適な結果につながるとは限らず、特にマクロレベルでの社会的幸福を損なうリスクがある。先に述べたインドでの電子システムの導入は、一部の貧しい人々の市場参加を助けた一方で、そもそも電子システムにアクセスできない人々を除外して市場の中でみえないようにすることで、システムに参加できる人々の間の格差だけではなく、その外部により大きな格差を作り出すことになった。

マクロ・マーケティングにおける統治性に関する研究は、こうしたマーケティングシステムの主にネガティブな側面を明らかにしている。しかし、繰り返し述べてきたように、市場原理に良いも悪いもない。マクロ・マーケティング研究では、伝統的に、市場メカニズムは疎外を作り出すとみなされてきたとともに（批判的マーケティング学派とも呼ばれる）、一方で、社会開発のツールとしてもみなされてきた。統治性もまた、それが破壊をもたらすだけでなくあるという考えに基づいて批判の対象とすべきではないといわれる。そのマイナズ面とプラス面の両方を考慮する必要がある。

マーケティングシステムは、企業の「社会的利益のための活動」を促進し、経済的利益と社会的利益が両立する新しい道徳を生み出すともされる。統治性は、企業や人々に自由な選択を与えることでうまく機能するが、同時に自由な選択には行動の責任が伴う。このため、一度社会問題が重視されるようになると、企業は自らを守る手段として社会問題に対応するように促され、自然と方向付けられるようになるのである。

もちろん、このような企業の対応は必ずしも本格的なものではなく、自己正当化のための「不純」な側面を持つ。すなわち経済的利益と社会的利益が両立する新しい道徳とは、「本来的な」道徳とは異なった新しい道徳である。この傾向は、企業だけではなく消費者においても同じようにみることができる。環境や社会問題に責任を持つことを求める消費者は、同様のプロセスを通じて形成される。

水越康介、応援消費―社会を動かす力、岩波書店

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) 痕セキ | ① 分析 | ② 積年 | ③ 化石 | ④ 奇跡 |
| (2) ボク減 | ① 打撲 | ② 牧草 | ③ 和睦 | ④ 遺墨 |
| (3) 金ユウ | ① 勧誘 | ② 郵政 | ③ 所有 | ④ 融点 |
| (4) 奨レイ | ① 礼儀 | ② 激励 | ③ 零細 | ④ 加齢 |
| (5) コ客 | ① 誇示 | ② 故事 | ③ 顧問 | ④ 個展 |

問二 傍線部A「M・フーコーは、これまでの西欧社会における三つの感染症の流行を取り上げ、時代ごとに管理の様式が異なってきたと指摘する」の内容を説明したものと**不適切なもの**を次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 中世末までのハンセン病患者に対しては、かかっているものとかかかっていないものを二項対立的に分別し、かかっているものは社会の内部に留まることが許されたが、かかっているものは、社会の維持のために帰属していた社会外への追放や特定の場所への隔離等の措置がなされた。
- ② 中世から十七世紀にかけて、ベストが流行した際には、病気が発生している地域や都市を基盤制りにして、外出の制限や自宅滞在時の約束事、摂取できる食べ物について等、子細な指示が出され、そのことについて、住民たちは頻繁に視察官からチェックを強制的に受けさせられた。
- ③ 十八世紀からの天然痘の場合は、すでに抗体ワクチンが存在していたため、罹患者の人数、年齢層、その影響や死亡率、病変や後遺症の程度、ワクチン接種に伴うリスク、接種後に天然痘にかかる蓋然性等、医学的な視点からの統計上の傾向と成果を収集することに重点が置かれた。
- ④ 今回のコロナ禍の場合には、ワクチンが開発される前から様々な医学的なキャンペーンが展開され、国ごと、地域ごとの患者数の増減、PCR検査後の陽性者数や死亡者数、過去と比較した超過死亡率等がモニタリングされ、それらの報道をもとに人々は自分たちの行動を判断した。

問三 傍線部B「バノブティコン・モデル」の説明として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① いつも誰かに監視されているかもしれないという意識を、潜在的に対象者が持たされる監視システム。
- ② 権力者によっていつも監視されていることによって、自然災害等から効率的に身を守る監視システム。
- ③ 権力者から命令を受けた人間が、定期的に監視対象者の行動を確認するために見巡りに来る監視システム。
- ④ 権力者が監視していない体を装いながら、部下等から提供される情報によって対象者を監視するシステム。

問四 傍線部C「メタファー」とあるが、修辞技法における「メタファー」の文章として適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 彼女の父は北海道出身だ。
- ② この犬は熊のようだ。
- ③ 人生とは一つのドラマだ。
- ④ 生卵は最低三個必要だ。

問五 傍線部D「権力の形は司牧的であるともされる」の説明として最も適切なものを次の①～④から選択し、番号をマークしなさい。

- ① 個人一人一人の嗜好や要望等に常に注意が払われているため、統計的な手法によって収集された人々全体の傾向や特質性等は無視してよいこと。
- ② 統計的な手法によって収集された人々全体の傾向や特質性等には例外が多いため、個人一人一人の嗜好や要望等について常に注意を払うこと。
- ③ 統計的な手法によって収集された人々全体の傾向や特質性等よりも、個人一人一人の嗜好や要望等が社会を統治するためには重要視されること。
- ④ 個人一人一人の嗜好や要望等よりも、統計的な手法によって収集された人々全体の傾向や特質性等が社会を統治するためには重要視されること。

問六 傍線部E「小さな政府」の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 政府や行政の民間への介入をできるだけ少なくしようとする政府。
- ② 政府や行政の一般予算の支出をできるだけ少なくしようとする政府。
- ③ 民間による支援や援助だけで政府や行政を運営しようとする政府。
- ④ できるだけ少ない人数の大臣で政府や行政を運営しようとする政府。

問七 傍線部F「カミュの『ペスト』とあるが、フランスのノーベル賞作家・アルベール・カミュの小説『ペスト』と並ぶカミュの代表作の日本語の書名として適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 『異端者』
- ② 『異邦人』
- ③ 『訪問者』
- ④ 『異郷人』

問八 傍線部(あ)～(う)の語の日本語の意味として最も適切なものをそれぞれ①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|
| (あ) フィードバック | ① 圧迫 | ② 個人 | ③ 事後 | ④ 評価 |
| (い) アクセス | ① 近似 | ② 接近 | ③ 僅差 | ④ 近接 |
| (う) プロセス | ① 過程 | ② 結果 | ③ 熟成 | ④ 原因 |

問九 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

イ 第一次世界大戦期に広まったスペイン風邪は、世界中で数千万人という大きな数の死者を出す大惨事を招いたが、今日に至っても一部では勢力を維持しており、香港やロシアなどの局地においては、インフルエンザに変異してその季節になると猛威を振るい続けている。

ロ コロナ禍における緊急事態宣言の発令や人々の移動制限が難しかったのは、今日の社会では特定の主体による管理の様式を超えてしまっており、市場経済の原理が社会の隅々まで行きわたってしまっているため、経済活動の再開が強く望まれたからである。

ハ M・フーコーは、人々の主体性を作り出している権力に注目し、主体として自由に振る舞うことが可能であるのは、権力の志向性が主体の中に内面化されることによってそのように振る舞うように訓練されてきた、いわゆる規律訓練型の権力によるものであると分析した。

ニ R・レイトン^ニは、マーケティングをより広範なマーケティングシステムの失敗として批判的に捉え、持続的で経済的な交換の破綻した体系であり、人々やさまざまな実態が結びつかない、実社会においては普及の難しい見せかけのネットワークとして定義している。

【問題二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

^A 今あらためて、^B「自然」が問われている。

二一世紀に入つてのわれわれをとりまく思想状況は、前世紀初頭の思想の極北が見ていたものが「神の死」ということであるとすれば、今世紀のそれは、「人間の死」「人類の死」ということであるともいわれる。何かしら人間にまつわるもの、あるいは人間そのものの死が、終わりが予感されているということである。

こうした物言いはそれだけを安易にふりまわすならばそれこそ「思想の死」にはかならないが、その予感が、われわれの住むこの地球という天体がほんのちっぽけな有限でしかなかったこと、またその地球の環境破壊が今やとりかえしのつかないところまで来ているということの否応ない認識からきていることは事実である。

そしてその予感は、それがあればすべてが根拠づけうるというような絶対の根拠の不在の感知として、きわめて相対主義的な思想状況となって現れてきている。今、自然が問われ直されているのも、これまで人間の理性によつて有意味的に秩序づけられてきた「コスモスとしての自然」の解体が、精神的・物理的なさまざまなレベルで、きわめて危機的に進行しているという認識においてであろう。その意味で、今あらためて自然が問われているのである。ところで、こうした議論の前提としてまず確認しておかねばならないことは、自然とは、それがいかなる自然であれ、われわれによつて語られる自然は(むろん「コスモスとしての自然」もふくめて)、それぞれの自然観・自然認識において捉えられ語られた自然であるということである。自然という何ものかを、人間の側がそこで生きるべく、どう把握し、どう彩色したかという、何ほどかは比喩化・仮構化し、物語化して語っているということである。当たり前といえば当たり前のことであるが、そのことはくりかえし確認しておかねばならない。自然それ自体は(ましてやその総体などは)、われわれにはついに見知らぬ向こう側としてあるという、知の限界、無知の知が、まずもつての前提である。

しかし「真理とは、ある種の動物、生きものがそれなしには生きていけないかもしれない誤謬^{ゴ・ガ}のことだ」(ニーチエ)とすれば、われわれに課せられていることは、それが「誤謬」であるかもしれないということをつねに留保しながら、そこにあって「みずから」が生きうるような「真理」(「誤謬」)を見だし、見あらためそこに生きるということであろう。自然とは、つねにそうした近^Bづき方しかできない何ものである。

むろんそれは、日本人にとつての「自然」においても同様である。

自然に「おのずから」とルビを振つたのは、周知のように、名詞「自然」は *nature* の明治翻訳語であり、それまで日本語(中国語でもあるが)では、「自然」は「偶然」や「突然」と同じ副詞として「おのずから」と同義に使われていたという事情に基づいている。

そこにすでに、自然という向こう側をとりだすときのこちら側の捉え方の問題がふくまれているのであるが、いずれにしても当面ここでは、そうした日

本語の古今の用法にしたがつて、「自然」を、副詞としての「おのずから」という、ある働きの形容と、その働きによってのみ成ったものとしての「自然」、名詞「自然」とを特に分けずに考えておくことにしよう。

つとに西田幾多郎は、こうした日本的「自然」について、日本文化の特色として次のように指摘している。

私は日本文化の特色と云ふのは、主体から環境へと云ふ方向に於て何処までも自己自身を否定して物となる、物となつて見、物となつて行ふにあるのではないかと思ふ。己を空うして物を見る、自己が物の中に没する、無心とか自然法爾とか云ふことが、我々日本人の強い憧憬の境地であると思ふ。

（『日本文化の問題』）

あるいは九鬼周造は、日本人の道德の特色として次のように指摘している。

日本の道德の理想にはおのづから自然といふことが大きい意味を有つてゐる。殊更らしいことを嫌つておのづからなところを尊ぶのである。自然などところまで行かなければ道德が完成したとは見られない。その点が西洋とはかなり違つてゐる。いつたい西洋の觀念形態では自然と自由とはしばしば対立して考えられている。それに反して日本の実践体験では自然と自由とが融合相即して会得される傾向がある。自然におのづから進み出るものが自由である。自由とはキユウ屈なさかしの結果として生ずるものではない。天地の心のままにおのづから出て来たものが自由である。自由の「自」は自然の「自」と同じ「目」である。みづからの「身」も「おのづから」の「己」もともに自己としての自然である。自由と自然とが峻別されず、道德の領野が生地の地平と理念的に同一視されるのが日本の道德の特色である。

（『日本的性格』）

近代日本を代表する二人の思想家の以上の言葉に明らかなように、ここには日本人の思想文化一般の基本発想ともいふべきものが、「自然」ということにおいて要約されて語られている。「自然法爾」あるいは「おのずから」を理想に、それへの「融合相即」を自己否定的に求めるという——「西洋の觀念形態」とは明らかに異なる——こうした基本発想のなかで日本人は独自の思想文化を営んできたのである。

こうした基本発想の枠組みのなかで、一方では寛ろやかでゆたかな独自の思想文化を育ててきたのであるが、しかし同時にそれは、曖昧で雑然とした思想文化でもあるという批判を生みだしている。

今、日本的「自然」について考えるということは、こうしたプラス・マイナス両様にわたるわれわれの思想文化の伝統をどう受けとめるべきかを考えるということでもある。

さきに一般的に述べたように、こうした日本的「自然」もまた、ひとつの自然認識、自然観のそれであることはいうまでもない。それが共同体の閉塞した見えない制度として働いているとするならば、それはそれとして厳しく診断する必要がある。それはあらゆる自然認識に適用されなければならないことであらう。

ただその診断・処方、別の自然認識（たとえば九鬼のいわゆる「西洋の觀念形態」のそれ）の借用においてのみなされたり、あるいはそれらとの安易

な折チユウ・混淆においてなされたりするかぎり、すなわち、異質なそれらとの本質的な出会い・対質を介して内から賦活・改革されないかぎり、その批判されるべき事態はしばしの模様替えに留まるにすぎない。それは近代日本がくりかえし実験してきたところである。

そのためにもまず求められることは、日本的「自然」なるものがいかなるものであつたのかを、できるところまで厳密に見定めることである。今それを自明として生きているあり方からはそのことはチユウ出できない。柳田国男の言葉をかりれば、「何が、我々のおのづからであつたかということは、やはり辛苦して是から搜し出すの外はない」といった、それ自体逆説的な営みがそこには要請されている。

ここで問題のシヨウ点を、前節で見た西田・九鬼のいうところの、自己と物、自由と自然、一般的に「みずから」と「おのずから」の「相即」という思想構造に置いてみよう。

西田は、「日本仏教に於ては、親鸞聖人の義なきを義とすとか、自然法爾とか云ふ所に、日本精神的に現実即絶対として、絶対の否定即肯定なるものがあると思ふ」（『場所的論理と宗教的世界観』、傍点引用者）とも述べているが、つまりその問題は、こうした本来、対立すべきもの（自己と物、現実と絶対、さらには此岸と彼岸、内在と超越、等々）を「即」「不二」「如」というかたちで結びつけて捉えようとする、（かならずしも仏教のそれとは同じではない）ある基本的な考え方への問いでもある。

日本語では、「おのずから」と「みずから」が、ともに「自（か）ら」と表記されてきている。「……することになりました」という、ごくふつうにいう言い方には、「みずから」決断し努力したことでも「おのずから」の成り行きでそう成つたのだという受けとめ方が潜んでいるのである。

それはまさに、九鬼のいうごとく「西洋とはかなり違つてゐる」受けとめ方であるが、そもそもが、このような一般の傾向のあるところで、その「相即」はどう説かれるのだろうか。

まずは手近な具体例から見よう。われわれに親しい小説の方法に私小説というスタイルがある。それは、いわゆる自然主義を名のつた文学者たちが始めたスタイルであるが、その基本的な考え方は、その代表的な作家であつた田山花袋の言葉をかりればおよそ次のような発想に基づいている。

自己を残る処なくさらけ出されて来ると——弱点でも何でも忌憚なく暴露して来ると、それが一種の客観性を帯びて来る。主観を押しつけて行くとき客観になり、客観を押しつけて行くとき主観になるといふような心理作用があると見える。

（『客観といふこと』『卓上語』）

私小説とは、こうした、「主観」と「客観」との「相即」すべき地点において語られている。そしてこの両者を繋ぐ項が、自然主義といわれる、その自然なのである。自己の内に自然があり、それは他者の自然、ひいては形而上的な大きな自然につながっているという確信がそこにある。

「みずから」の身辺に起きたことの日記あるいは雑記のときもの（主観）が「残る処なくさらけ出」されると、それが「おのずから」小説（客観）たりうるとする私小説の「方法」がそこに成り立っている。しかしその媒介項である自然は、いかにその背景に形而上的な拡がりが見込まれているようにとも、それが有効であるのは、基本的に、いわば閉じられた共同体のことである。いつてみればそれは、書き手と読み手との仲間うちでの隠語の文学であり、

その世界を共有しないものには通じないからである。

話がだんだんと文壇ギルドの内輪話とならざるをえなかったゆえんであり、そこではいかに現状破壊・現状暴露が叫ばれようとも、それらがやがてその閉じられた自然・共同体のなかに呑み込まれていかざるをえなかったゆえんでもある。

「真実なれ、自然なれ」とのモットーにおいて彼らが「さらけ出」そうとしたのは、たとえば象徴的に花袋の出世作「蒲団」の例でいえば、師であり妻帯者であった主人公の女弟子に対する愛欲、またその無様なまでの未レン⁽⁵⁾といったたぐいのことであった。そしてそうしたことを「さらけ出」すことよってなされた総括は、「矛盾でも何でも為方がない。その矛盾、その無節操、これが事実だから為方がない。事実、事実！」(「蒲団」)、「人間の浅ましき、……けれどこれが人間である。これが自然である。」(「生」といった聞き直りの容認であった。

多少意地悪にいえば、そこにはその具体的状況を担う自己もなければそうした自己と緊張すべき自然もない。あるのはただ自己と無媒介に癒着した「事実」であり「自然」である。そこではその自然主義とは、自己弃護ないし現実の無条件容認主義に墮しているのである。自己と自然の「相即」の悪しき例がここに見られる。

むしろ、近代日本のある種の「誠実」の表現でもあった自然主義文学をこうした側面だけで断罪することはフェアではない(そこにはそこでのみ可能であった思想意義も十分にあった)し、またそれは自然主義文学だけが負うべき責めではないだろう。

彼らの陰惨な自然概念を真つ向から批判した「白樺派」にしても、その高邁・向日的な姿勢を支えていたものが、自己と自然とのあっけらかんとした連続性であるかぎり、(また事実そうであったがゆえに結果的には自然主義文学とは同様の事態に陥らざるをえなかったのであるが、その意味では)同罪というべきであろう。

そしてまた何よりそれは、そもそもそうした文学を享受し共感してきたわれわれ自身の内なる問題でもある。「……することになりました」という言い方が、「みずから」の決断や努力もすべて飲み込むように、「おのずから」の成り行きでそう成ったのだとだけ受けとめ語られるときには、その当人は決してその結婚や就職には責任はとれないからである。

そこには、「みずから」と「おのずから」、自己と自然、またひいては自己と他者との暗黙のうちでの同一性・連続性が前提されているのであって、そうしたあり方が、甘えとも無限抱擁^{ほうよう}とも、また「無責任の体系」とも惰性化として働く「見えない制度」とも批判されてきたところのものである。

以上のようなあり方は、「みずから」のあり方を「おのずから」へ解体・解消し、しかも「おのずから」を「みずから」の属する共同体にとりこみそれを閉じたかたちで固定化した、いわば硬直した物語・制度としてのそれである。

竹内整一、「おのずから」と「みずから」 日本思想の基層、筑摩書房

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|----------|------|------|------|------|
| (1) キュウ屈 | ① 無窮 | ② 究極 | ③ 配給 | ④ 旧態 |
| (2) 折チユウ | ① 円柱 | ② 誅殺 | ③ 衷心 | ④ 仲裁 |
| (3) チュウ出 | ① 忠臣 | ② 抽象 | ③ 宇宙 | ④ 铸造 |
| (4) ショウ点 | ① 省略 | ② 掌中 | ③ 抄出 | ④ 焦眉 |
| (5) 未レン | ① 煉獄 | ② 鍊磨 | ③ 練習 | ④ 連絡 |

問二 傍線部A「今あらためて、『自然』が問われている」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 前世紀初頭の思想の重要な課題であった「神の死」から、二一世紀におけるそれは「人間の死」「人類の死」という課題に取り組むことになったといえるが、その過程で「自然の死」が必然の課題となり、「自然」に対する問い直しが求められている、ということ。
- ② 人間の理性によつて有意味的に秩序づけられてきた「コスモスとしての自然」の解体が危機的に進行しているという認識のもと、絶対的な根拠として前提されていた「自然」の不在が感知されており、その「自然」が問い直しされている、ということ。
- ③ 「コスモスとしての自然」という従来の自然観・自然認識において捉えられてきた「自然」は、「人間」とのある種の一体感の中で理解されており、「人間の死」といった終わりへの「予感」が、この自然観の変更を求めている、ということ。
- ④ 二一世紀に入つて地球規模の環境破壊がとにかえしのつかないところまで来ているという否応ない認識に立って、この地球の有限性を事実として受け入れ、「思想の死」という課題を「自然」において問い直す必要がある、ということ。

問三 傍線部B「そうした近づき方」の内容を説明したものととして不適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 自然それ自体は、われわれにはついに見知らぬ向こう側としてあるという、知の限界、無知の知を前提としてもって向き合うという方法。
- ② 人間の理解する自然とは、それぞれの自然観・自然認識において捉えられ語られた自然であつて、自然の全てではないと思考する方法。
- ③ ニーチェの響^{きこ}みに倣えば、常にそれが「誤謬」であるかもしれないと留保しながら「真理」(「誤謬」)を見いだすという方法。
- ④ 名詞「自然」は、「偶然」や「突然」と同じ副詞として、「おのずから」と同義に使われていた前提を踏まえて理解する方法。

問四 傍線部C「日本人の思想文化一般の基本発想」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 主体と自然という構造においては自己自身を肯定しつつも、「おのずから」など、どこに道徳が成立する日本人の自然観をいう。
- ② 自然と自由とを「対立」の構造という文脈で理解し、「おのずから」な自然に大きな意味を見出すという思想文化の考え方をいう。
- ③ 自然と自由とを峻別し、自然と人事を明確にすることで「おのずから」と「みずから」を区別する日本人の基本的な自然観をいう。
- ④ 「自然法爾」あるいは「おのずから」を理想とし、それへの「融合相即」を自己自身の否定を通して会得するという考え方をいう。

問五 傍線部D「それ自体逆説的な営みがそこには要請されている」の内容を説明したものとして適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 日本的な「自然」もまたひとつの自然認識、自然観であるが、これを理解するためには、別の自然認識、例えば九鬼周造の「西洋の観念形態」を借用して厳しく診断しなければ相対的な理解にいたることができない構造があり、それへの省察が求められている、ということ。
- ② 日本的な「自然」とは本質的に異なる自然認識と出会い、相互の自然認識についての了解を経ても、その新しい知見をもって活力を与えることができるのであれば日本的な「自然」は消滅してしまう危険性があるが、時代がその消滅を求めている、ということ。
- ③ ひとつの自然認識、自然観のその表れである日本的な「自然」を自明として生きているありかたにおいては見出し得ない、何がわれわれの「おのずから」であったかを探し出さねばならない、という省察が求められている、ということ。
- ④ 日本的な「自然」に対する考察は近代以降くりかえしなされておき、厳密に見定められた結果、このような自然認識、自然観は共同体の閉塞した見えない制度として働いていた事実を認めさせようとしている、ということ。

問六 傍線部(a)「自然主義」・(b)「白樺派」について、それぞれについて以下の各問いに答えなさい。

設問一 それぞれの代表的作家として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 夏目漱石
- ② 島崎藤村
- ③ 川端康成
- ④ 有島武郎

設問二 設問一で選んだ作家の代表作品として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「家」
- ② 「或る女」
- ③ 「雪国」
- ④ 「それから」

問七 傍線部E「自己と自然の「相即」の悲しき例」の内容の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 自然主義の小説の方法としての「私小説」というスタイルが、書き手と読み手との仲間うちでの隠語の文学へと変貌したことで、その世界を共有しないものには通じない閉塞した共同体の制度と同等のものになってしまった残念な実例となった、ということ。
- ② 自己と自然の「相即」とは親鸞聖人の義なきを義とすとか、自然法爾という、現実を絶対とし、かつその絶対の否定をただちに肯定するという結びつきをいうが、自然主義における「自然」と「現実」との間にこのような結びつきが理解されなかった、ということ。
- ③ 日本語では「おのずから」と「みずから」がともに「自(か)ら」という同一の表記がされてしまうことで、「おのずから」と「みずから」の区別が曖昧となり、「おのずから」なる自然と「みずから」なる自己との境界が曖昧となる機縁となってしまう、ということ。
- ④ 自然主義の「真実なれ、自然なれ」とのモットーも、田山花袋の「蒲団」が象徴するように、作中で「さらけ出」されたのは、自己と無媒介に癒着した「事実」であり「自然」であるという、現実を自然として無条件に容認する「開き直り」に堕してしまっている、ということ。

問八 傍線部F「情性化として働く「見えない制度」とも批判されてきた」の理由を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「みずから」と「おのずから」について暗黙のうちに前提として同一性・連続性を認め、自己の責任を問えない仕組みになっているから。
- ② 自然主義に対する現状破壊・現状暴露がなされてきたが、それらの批判は文壇ギルドの内輪話として吸収され消滅してしまったから。
- ③ 自然主義の陥った自己と無媒介に癒着する自然という関係性は、白樺派もまた継承している点で自然主義のみの欠点ではないから。
- ④ 「みずから」のあり方を「おのずから」へ解体・解消することで、共同体における「みずから」が物語化してしまったから。

問九 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

- イ 地球の環境破壊がとりかえしのつかないところまできているという否定的な認識が、終わりへの「予感」をもたらしているという側面がある。
- ロ 西洋の観念形態では自然と人間とは対立するものであり、両者の「融合相即」を前提とする日本人の思想文化を理解することは不可能である。
- ハ 田山花袋は私小説について、自己を忌憚なく暴露していくと一種の客観性を帯びてくること、主観をおしつめると客観に、客観をおしつめると主観に、と主観と客観との「相即」において捉えたが、この両者を繋ぐ項が自然主義といわれる自然であった。

ニ 白樺派は自然主義における自己と自然との無責任な癒着を批判し、陰惨な自然概念を真っ向から批判したが、その白樺派にあっても、自己と自然との同一性・連続性という前提を問い直すには至らなかったため、日本の文学は「無責任の体系」と評価されることになった。

公募制推薦入学試験 小論文 講評

【出題のねらい】

今回の小論文では、【要約と論理的な文章】が、書く上での重要なポイントでした。したがって、初見のテーマ・内容を正確に把握し、自分の言葉で著者の主張をまとめられているか（要約）、その要約をふまえ、自分の経験などを取り入れながらも、客観的に考えや意見を述べられているか（論理的な文章）が大切です。また、現代社会や将来においても課題となるテーマ（仮想現実）や受験生にとっても身近なテーマ（リモート授業）を理解し、いかに自分の考えを他者へ説得力をもって伝えられるかも出題のねらいでした。

【受験生へのアドバイス】

小論文対策として、大切なことを3点挙げます。1点目は、＜設問をよく読むこと＞です。実際に設問を理解していないと思われる小論文をみかけます。字数を満たしていても、内容に欠ける・問題の趣旨に沿わない小論文とならないよう、充分注意しましょう。2点目は、＜要約の際は、著者の視点に立つこと＞です。著者の視点に立って何が重要であるかを考えると、文章の中から大切な部分を見つけやすくなります。3点目は、＜繰り返し書くことと必ず他者に添削をしてもらうこと＞です。そうすることで、良い結果に繋がります。

一般入学試験 英語(A～D日程) 講評

【出題のねらい】

すべての日程において、出題は5つの大問から構成され、問題の種類や難易度はほぼ同じです。Ⅰは400～500語程度の長文読解の総合問題です。Ⅱはよく使われる日常会話での最適な応答を選ぶ問題です。Ⅲはテーマに沿った4つの項目の説明を読み、それに関する正誤文を選択する問題で、説明文に写真やイラストが添えられています。Ⅳは基本的な語法や慣用表現の穴埋め問題、Ⅴは7つの単語を並べ替える整序英作文です。全体を通して、一般的なコミュニケーションで使われる英語力を総合的に判定できるよう配慮した問題になっています。

【解答状況および解説】

A日程／Ⅰはケンタッキーフライドチキンの創業者ハーランド・サンダーズについて書かれた問題でした。全体的に正答率は高かったのですが、空所に最適な語を入れる問1で正答率が低い問題が見られました。(1)では建設される高速道路がハーランドの働いているレストランを通ることになったという文章で、run through (通り抜ける) という語句を選択する問題でした。(6)の動詞を選択する問題では、get out of water (川から出てくる) という表現を文脈から捉える力が問われました。Ⅱは口語的な会話表現を問う問題で、全体的に正答率が高かったのですが、(3)では「雨が降っているのを傘を忘れずにね」という発話に対して、「忘れそうでした」I almost forgot. と答えるやり取りでした。選択肢のI will. の回答が57%でしたが、Don't forget your umbrella. というアドバイスへの受け答えでは、I will forget my umbrella. となってしまう。Ⅲは幸運のお守りについての説明を読む問題で、概ね高い正答率でした。Ⅳの穴埋め問題も全体的に正答率が高かったのですが、(2)の「～に対する意見」で使われる前置詞 on を選択できない受験生が多かったです。Ⅴの整序問題は5問とも正答率が高く、英文を組み立てる力が付いていることが評価できます。

B日程／Ⅰは海外での生活を通して体験する文化適応のサイクルを説明する文章の読解でした。空欄に適切な語句を入れる問1では(4)の正答率が低かったです。前後の文から内容を読み取れていれば、get used to (～に慣れる) という慣用句が入ることに気付けたでしょう。Ⅱの会話の流れを把握する問題は概ね正答率が高く、英語での口語的なやり取りの表現に慣れている受験生が多いことがわかりました。Ⅲはさまざまな文字についての説明文でした。内容と合っている文を3つ選ぶ問題でしたが、正答率は高かったです。Ⅳの穴埋め問題では、正答率が低かった(7)のkeep up with (～に遅れずについていく)、(10) look forward to ~ing (～するのを楽しみにする) などの慣用句を確認しておきましょう。Look forward to の後は名詞が動名詞になります。会話表現でも、I'm looking forward to talking with you. (お話するのを楽しみにしています) などよく使われますので、動名詞を使うことに慣れておきたい表現です。整序問題では、5問とも正答率が高かったです。文法や慣用句など基本的なものを復習しておきましょう。B日程入試の平均点は68.3点で、全体的に受験生の英語運用力の高さが見られる問題でした。

C日程／Ⅰはハンバーガーがアメリカでどのように生まれ、広がっていったかについて解説した長文問題でした。問1の(4)はthe first restaurant chain to sell only hamburgers (ハンバーガーだけ売る最初のチェーン店) という文章の動詞を選択する問題でしたが、選択肢eatの回答率が83%でした。前後の文脈をよく読み、最も適切な動詞を選ぶことが求められる問題でした。Ⅱの会話問題は全体的にわかりやすいやり取りでしたが、正答率が低い問題もありました。(1)はCan you set the table? (テーブルの準備をしてちょうだい) に対してIs dinner ready? (晩ご飯はできたの?) と聞き返すやり取りでした。日常的な会話では、依頼に対してすぐに「はい」と答えられない場面もあります。Almost. (晩ご飯はもう少しでできるわよ) と答えている場面設定を考えながら、会話の流れをつかみましょう。Ⅲは世界の祭りや行事についての説明文の読解問題でしたが、正解の3問とも正答率は33%でした。それぞれの説明に対して選択肢が2問ずつ順に出題されているので、本文と選択肢をよく読み比べて、間違った記述文を消去していくといいでしょう。Ⅳの穴埋め問題では(7)の正答率が低かったのですが、the key lying on the table (テーブルに置かれているカギ) という現在分詞を選択する問題でした。Ⅴの整序問題では全体的に正答率が低かったです。英文の意味をよく考えて、並び替えた文を読み直し、構文として正しいかを丁寧に確認しましょう。

D日程／Ⅰは文化の概念がどのように進化してきたかを解説する長文でした。問1の(1)は「文化という概念について考えることが不可欠である」という文でvital を選択する問題でしたが、正答率が低かったです。Ⅱの会話問題は、全体的には正答率が高く、受験生が英語での会話表現に慣れていることがわかりました。Ⅲは温度計についての説明文でした。受験生にとってあまり英語で読むことがない分野だったかもしれませんが、さまざまな温度計の写真をヒントに英文を読んでいくといいでしょう。Ⅳの穴埋め問題では、(5) host cheerfully (明るく接客する) や(7) Do you mind if ~? (～してもいいですか) の正答率が低かったです。Ⅴの整序問題では、(2)の正答率が低く、それほど複雑な文でない場合も前置詞や所有格の配置で迷った受験生が多かったようです。英語で文を書いてみて、自然な並び替えになっているか再確認しましょう。英作文では語彙、語法や文法の総合的な力が求められます。日頃から英語で表現する習慣をつけましょう。

【受験生へのアドバイス】

英検準2級から2級レベルの語彙や慣用句、さらに会話でよく使われる英語表現を勉強するとよいでしょう。長文読解は、文章全体の流れを理解したうえで解答する問題が多いので、400～500語の英語論文を読むことに慣れておくことが重要です。会話文も同様に、さまざまな場面における会話表現だけでなく、会話の流れを把握する力が必要になります。穴埋め問題、整序英作問題の対策としては、英検準2級で出題されるような短文の語句空所補充問題、ライティング問題などを解き、間違った事項をノートにまとめて覚える習慣をつけるとよいでしょう。

一般入学試験 国語総合(A～D日程) 講評

【出題のねらい】

国語総合の出題は、高等学校までの学習を踏まえ、基礎的な学習事項を十分に身につけているか、筆者の主張を正しく読み取る力を十分に養っているか、の2点の到達度をはかることを目的とし、併せて高等学校の学習を起点としながら、自主的な学習の成果が反映するような出題を心掛けています。問題は大幅2題構成で、入試問題としてはやや長文となる問題文を掲げ、小問はそれぞれ10問前後となっています。漢字や語句に関わる出題の他、各大問の最後には問題文の内容の正誤を問う小問を設けています。この正誤問題は問題文全体の筆者の主張を正確に理解・把握することができているかを端的に確認するための出題であります。全ての設問が問題文に展開される筆者の主張を正しく理解しているかをさまざまな観点から問う内容になっています。個々の設問を正しく回答することがまた問題文の主張を正しく理解する方向に導かれていくというフィードバックを得られる構成になっています。問題文のジャンルは「説明文」を中心に扱いますが、出題される文章には一部に擬古文・漢文訓読文が含まれることがあります。

【解答状況および解説】

A日程／【問題一】は生明俊雄氏『シャンソンと日本人』より、日本におけるシャンソンの流行とその衰退の現状を記した文章からの出題です。昭和初期に日本にもたらされたシャンソンが、バブル期には衰退し、シャンソンの担い手の不在という現状に対する考察が展開されています。受験生にとってシャンソンそしてその代表的な歌手についても初見のテーマであったかもしれません。【問題一】の各設問の正答率は安定的に高く、平均点を押し上げる結果となりました。一方で漢字問題において、回答が割れた設問がありました。同音異義の熟語を文脈によって正しく判定する(2)の正答率が低かったといえます。実力が伯仲している試験ではこのような小問の当否が可否に直接反映してしまうこととなります。

【問題二】は木村敏氏『異常の構造』より、現代の社会における「異常」をめぐる問題を扱った文章からの出題です。現代の社会は「異常」なものごとに対して強い関心を示す、まさに「異常」な現象というに値すると述べる一方で、この「異常」なものごとに対する関心の背後にある「不安」を考察したものであります。この「不安」が引き起こされるのは、「正常性」を支えている規則性と合理性とは相容れない「非合理」の姿で現れる場合であると述べ、「自然」こそこの「非合理」がその本性であると指摘しています。【問題二】についても、正答率が高く、丁寧に本文を理解していることがうかがわれます。「問六」の正答率が低い結果となりました。「問六」は「アプリオリ」の意味を問う問題ですが、このような問題は記憶のみに頼らず、本文の文脈を正しく理解することで、初見の表現であっても正解を得ることが極めて高い出題ですので、諦めずに丁寧に正解を探してほしいと

思います。

B日程／【問題一】は古川安氏『科学の社会史 ルネサンスから20世紀まで』からの出題です。ペリーの来航という「黒船ショック」を、「科学史」の視点から丁寧に説明し、ペリーがもたらした西洋の「近代的技術」の正体と、日本の「近代化」における「科学技術」に対する認識についての考察がなされています。日本史で習うペリーの来航を、「近代的技術」との出会いという科学史の視点から考察している点で、興味深く読み進めることができたと思います。「問五」は解答が分かれた設問でありました。これは「結果としての西洋科学」という本文中の表現にある「結果として」という部分を正しく読み取るという設問です。当時の「西洋科学」は必ずしも近代の「科学」の産物であった訳ではなく、ヨーロッパの職人や技術者たちが培ってきた「技術」の謂いであったという本文の指摘を読み取ることで正解となります。

【問題二】は江利川春雄氏『英語と日本人—挫折と希望の二〇〇年』からの出題です。日本における英語教育について、現在進行形の課題についてレポートされています。本文で扱っているテーマは、AI(人工知能)時代における「何のために外国語を学ぶのか」という根本的な問題とAI技術を活用したさまざまな学習ツールの利用とその落とし穴、批判的に思考する力の育成の課題など、受験生にとって身近なテーマであったかと思います。本文の内容との正誤判定を問う「問一〇」の「ハ」は、一読すると本文の内容と合致するようにも思えますが、本文の該当箇所を確認すると、「ディスプレイ上の文字」に対する人間の認知能力が紙に書かれた文字よりもずっと落ちる、とは記されていますが、問題文のように、「潜在的に想定されていない」ということではありません。よって「合致しない」という解答になります。本文に記された内容の中には、一読して「納得」できる内容もありますが、そのような場合であっても、本文の文脈に従った「納得」であることを確認する必要があります。これが本文を「丁寧に読む」ということにつながります。

C日程／【問題一】は田口茂氏『現象学という思考 〈自明なもの〉への知へ』より、「あたりまえである」「確かである」という「自明」なことについて、あらためてその「自明性」を問うという「現象学」という学問について紹介した文章になります。一般的に学問的な探求は、これまで知られていなかった新しいことを明らかにすることであると捉えると、この「現象学」という学問はとても捉え難い学問分野になります。「現象学」が「自明性」に問いを立てることが何を意味するのかを解説しています。本文は抽象的な説明と具体的な解説を織り交ぜた構成になっています。読解に当たっては抽象論で理解の及ばなかった箇所を具体例の中で改めて理解する、という作業を繰り返すことを心掛け、理解不足のままに読み飛ばすことのないようにすることが重要です。「問七」の「曲者」の本文中における意味を問う出題ですが、「文脈」に沿った解釈を求めたものになります。

【問題二】は鹿毛雅治氏『モチベーションの心理学』からの出題です。私たちは日頃から「モチベー

ション」という言葉をよく使いますが、この「モチベーション」という用語について、心理学の側面から丁寧に解説されています。誰もが知っているようで実はよく知っていない「モチベーション」という概念について、筆者の解説を正しく読み進めることができているかを問う出題をしています。「C日程」は受験生の数が少なかったため、正答率についてはあまり参考にならない面がありますが、「問二」の問題文にある「利害が一致した」という部分を丁寧に説明している④が正解となりますが、本学の出題ではこの設問のように、選択肢の文章が比較的「長文」で示されるものがあります。このような「長文」の選択肢の判定は、その文章をいくつかの部分に分け、それぞれの部分について本文との整合性をチェックして最後に集約する、という検討を行うと良いでしょう。「長文」の選択肢をその「長文」のままに本文と比較するという方法では細部の相違点を見逃してしまう可能性があります。部分に分割して検討する方法は是非、練習しておくとう良いでしょう。

D日程／【問題一】は水越康介氏『応援消費―社会を動かす力』からの出題です。人類がこれまで経験してきた「感染症」とそれへの対応の歴史的考察を行い、感染症に対する社会の対応の仕方を「統治性」という概念で考察しています。本文中で取り上げている感染症は、時代順に「ハンセン病」「ペスト」「天然痘」になりますが、「コロナ禍」ではまさに「天然痘」にみる管理の様式が徹底されたという分析がなされています。本文では以下、この統治の在り方とマーケティング管理との関係性を明らかにしています。やはり初見となる用語の内容を問う「問三」、「パノプティコン・モデル」の内容については、実は本文中に丁寧に説明している箇所はありません。但し、前後の文脈を追うことで、人々を監視するためのシステムであることを理解することで正解となります。また、文学史の出題となる「問七」の正答率が低かったといえます。

【問題二】は竹内整一氏『「おのずから」と「みずから」 日本思想の基層』からの出題です。「おのずから」と「みずから」との区別を丁寧に読み分けて読解をする必要があります。全体として平均点が低くなりました。殊に「問六」の文学史からの出題の正答率が低く、これは最近10年ほどの傾向といえます。

【受験生へのアドバイス】

聖学院大学の国語総合の入試問題の対策は、説明文や論説文など筆者の主張を論理的にたどるような形式の文章に慣れておくことです。分野も歴史・文化・思想・経済・科学など多岐に渡りますので、さまざまな分野のトピックに関心を持つことがとても大切です。高等学校の授業で学んだ教材を起点として、関連する分野へと学びを深めていくと良いでしょう。文学史に関する細やかな知識も日頃の蓄積がとても大切になります。受験シーズン直前に「詰め込む」という方法は役に立ちません。さまざまな分野のさまざまな文章に触れ、読書を通して語彙を増やすことにも心掛けて下さい。他大学の出題と比較すると本学はより「長文」の出題になりますので、ある程度の「速度」が求められます。日頃の読書経験が最大の「武器」になりますし、また大学進学後にも有効な「技術」となります。ある程度まとまった分量の文章から筆者の主張と自分自身の意見をはっきりと区別しながら読み取る訓練を継続して下さい。

一般入学試験 日本史B（A日程） 講評

【出題のねらい】

問題は、大問数が3問、小問数が35問で、出題した時代区分は、古代史・中世史・近世史・近代史で、原始と現代史（戦後史）は出題していません。出題分野は政治史・外交史を中心に、社会経済史・文化史まで幅広く出題しました。教科書で説明されている歴史的な出来事を、幅広く理解できていたかどうか、重要でした。

I

小問数は12問で、古代・中世の歴史書を題材とした問題を出題しました。空欄補充問題や用語を選択する問題に対して、正文・誤文選択問題に苦戦した生徒が多かったようです。特に地頭請がみられた時期に関する問題の正答率が低い結果になりました。正文・誤文選択問題に解答する際は、その文に誤りがあるかどうかのみを確認するのではなく、その文が示す内容の時期が正しいのかも意識するようにしましょう。

II

小問数は11問で、江戸幕府の初代将軍から7代将軍までの時期を対象とした政治史をテーマとした問題を出題しました。1615年に発された法令（一国一城令）についての問題は正答率が80%を超えており、よく学習できていました。逆に、この大問で最も正答率が低かった問題は、江戸時代の儒学や儒学者に関する問題でした。文化史は受験生にとって後回しにしがちな分野となります。しかし文化史は、他の分野とも密接なつながりを持っており、後回しにするよりも、他の分野と同時に学習した方が、時代の中のつながりを効率よく理解することができます。通史の学習を行いつつも、随時、その時代の文化史について確認する癖をつけるとよいでしょう。

III

小問数は12問で、明治・大正・昭和戦前期の貨幣・金融史を出題しました。近代史かつ経済史が中心となっていたため、全体の正答率は他大問と比較して低かったといえます。特に、1920年代の恐慌についての正文・誤文選択問題は正答率が11.29%と非常に低くなりました。また、空欄補充問題では、松方正義の出身藩を問う問題の正答率が27.42%と、空欄補充問題の中では低い結果となりました。明治期は多くの重要な人物が登場するため、彼らの出身藩を意識するのは難しいかもしれませんが、それぞれの藩の特徴を理解しながら、学習を進めていくことが、近代史の理解につながります。近代史は特に苦手とする受験生が多いようですので、早めに取り組む姿勢を持つようにしましょう。本番の日から逆算して計画的に学習を進めていくことが大切です。

【解答状況および解説】

全体の平均の正答率は約50%でした。大問ごとでは、大問Ⅰが49%、大問Ⅱが53%、大問Ⅲが43%と、大問Ⅲの正答率がやや低くなる結果となりました。空欄に正しい語句を選択する空欄補充問題では、正答率が約57%であるのに対して、正文・誤文選択問題は約35%と低い結果になりました。これは時期を問う問題や社会経済史・文化史の正文・誤文選択問題が多かったことが、正答率を下げる要因になったと考えられます。

また、空欄補充を含めた用語を選択する問題のうち、正答率が50%を下回った問題が7問ありました。そのうち、5問が社会経済史または文化史からの出題となっています。もちろん、政治史や外交史を理解していないと歴史の大枠はつかむことはできませんが、入試問題では政治史や外交史に加えて、社会経済史や文化史も総合的に出題されます。本年の問題も、社会経済史や文化史の問題が特に難解なことを問うていたというわけではなく、該当分野を苦手とする受験生が多かったということが考えられます。

【受験生へのアドバイス】

まずは、教科書の内容を深く理解することを心がけましょう。基本的な知識が身についていれば、対応できるものが問題の大部分を占めています。そのため、教科書に太字で記載されている用語を確実に理解し、頭に入れることが重要となります。ここを疎かにしてしまうと、類似の用語の判断で誤ってしまう可能性がありますので、しっかりと整理することが必要でしょう。また、問題自体も、用語を定着させることで、空欄補充問題と正文・誤文選択問題にしっかり対応できるよう構成になっています。些末な知識が必要となる問題への対応より、基礎的な知識の定着を意識しましょう。

また、教科書学習においては、目的意識を持ち、取り組みましょう。用語の暗記についても、出来事の時代背景や、社会に与えた影響などの因果関係を意識して学習することで、理解力が深まり、確実な知識として定着します。結果として、誤肢に惑わされることがなくなるはずです。

問題演習で、さらに効率の良い学習を進めることが可能になります。基礎を定着させたうえで、繰り返し過去問題に取り組むことで、頻出分野やその問われ方の傾向を掴むことができます。正文・誤文選択問題において、注意すべき点を正しく分析できれば、学習の指針にもなるはずです。

忘れてはならないのが、網羅的に学習を進めるということです。本年でも近代史（特に経済史）の正答率の低さが目立ちました。原始から近現代史まで幅広く対応できるように、学習の計画を立て、まずは基礎の定着を目指しましょう。基礎定着が「合格」への近道となるはずです。

一般入学試験 世界史B（A日程） 講評

【出題のねらい】

I

イギリスとロシアの対立を中心に、19世紀のヨーロッパにおける国際関係の変遷を出題しました。19世紀という時代は、産業革命以降、圧倒的な国力を誇り世界の中心となったイギリスに対し、アメリカや他のヨーロッパ諸国が台頭し、イギリスの地位が揺らいでいく時代ともいえます。また、ロシアの対外政策やドイツの統一がその後の第一次世界大戦の遠因となる一方、アメリカやドイツで起きた第二次産業革命の結果、アメリカが世界一の工業大国となり、現在のアメリカを中心とした世界が形成される端緒となるなど、19世紀という時代は、現在の国際情勢にもつながる重要な時代です。この時代の各国の対外政策や内政を理解することはもちろん大事ですが、19世紀という時代全体を俯瞰して理解できていることも重要です。この俯瞰の可否を問うことを意識して出題しました。

II

地中海世界を俯瞰できているかどうかを問うために出題しました。古代から中世にかけ、地中海周辺に成立した勢力は、地中海を舞台に対立や交易を繰り返しました。地中海世界の歴史を俯瞰することで、それらの勢力の交流など、歴史における横の流れを理解することが可能です。

本試験では地中海世界について、ギリシア人やフェニキア人の交易、アケメネス朝やローマ帝国といった大国が、交易の主導権を求め繰り返した戦争にかかわる古代史を出題しました。地中海を巡るポエニ戦争がローマに変化をもたらし、結果として「内乱の1世紀」を生じさせたり、ローマが実施した四帝分治制（テトラキア）が一因となり地中海の経済的価値が低下したりするなど、地中海と各国の内政が密接な関係にあることが理解できるかと思います。

また、地中海を巡る動きは、後の世に影響を与えることもありました。中世の地中海世界は、カトリックを中心とした西ヨーロッパ世界、ギリシア正教を中心とした東ヨーロッパ世界、イスラーム世界の三つの勢力に分割されていきます。この分割により、東ヨーロッパのギリシア文化がイスラーム世界を経由して西ヨーロッパ世界に伝播し、ルネサンスの一因になりました。また、大問Ⅰのイギリスとロシアの対立も、地中海を巡る対立が一因とされています。このように、地中海の歴史を理解し、それが後の世にどのような影響を与えたのかを学習することも重要なのです。

III

インダス文明からイギリスによる植民地化までのインドの歴史を出題しました。

インドは古代から中世にかけて、東西の文化交流の場となりました。その歴史における横の流れをつかむためにも、どの時代に、どのような王朝がインドに栄えたのかを出題しました。マウリヤ朝とクシャーナ朝は、二つの王朝を比較すると同時に、同時代のヨーロッパ世界の情勢をおさえることが重要です。それぞれの王朝の建国の年代などが問題文に記載されていますが、そこを足掛かりとして解答を導き出すことが可能です。また、グプタ朝やヴァルダナ朝の時代は、中国との交流が活発化しました。そこで、どの王朝を、どの中国僧が訪問したのかについての理解の有無も問いました。後にイギリスにより植民地化され、イギリス経済を支える原料供給地兼市場とされるインドですが、それ

以前は東西交流の盛んな地域であったことを理解することが大切です。

【解答状況および解説】

全体的に基本的な問題が多かったこともあり、正答率が80%を超える問題が多い結果となりました。しかし、大問Ⅰの空欄Hでは、「ヴィルヘルム1世」と「ヴィルヘルム2世」を間違えた受験生が26.2%おり、正答率は57.1%でした。また、サラミスの海戦のアテネ軍指揮官を答えさせる大問Ⅱの空欄Cでも、正答率は52.4%であり、明らかな誤りである「ポンペイウス」を選んだ受験生が21.4%いました。正答率が50%を下回った問題は35問中5問で、そのうち、空欄補充問題は2問でした。またその2問のうち、ウィーン会議に出席したロシア皇帝を問うた大問Ⅰの空欄Bの正答率が45.2%で、ヴァルナ制度における各身分の職業を問うた大問Ⅲの空欄Bの正答率が47.6%でした。どちらの問題も基本的な知識を問うており、全体的な正答率の高さから考えると、知識に偏りがある受験生が多いことが考えられます。暗記を含めて学習の際には、範囲の偏りをなくすように心がけてみましょう。

【受験生へのアドバイス】

政治史だけでなく、経済史にも着目してみましょう。各時代の貿易の当事国や、扱われていた商品、そしてその結果を、まとめておくとい良いでしょう。

近年、世界情勢の不安定化に伴い、世界の分断が危惧されています。裏を返せば、これまでの世界では、異なる地域間の連携など、世界の一体化が進展していたということです。世界史を学ぶうえで、世界の一体化、いわゆる横の動きというテーマは、近年の国際情勢を理解するためにも欠かすことはできません。こうした横の動きを理解するためにも、政治史だけでなく、経済史への着目は必須となります。例えば、今回出題したフェニキア人やアケメネス朝の地中海交易は、ペルシア戦争を引き起こし、その後のヘレニズム世界形成につながりました。大航海時代に起因する大西洋三角貿易は、その後の黒人差別問題や、南米諸国のモノカルチャー経済化による南北問題の原因となります。経済史を学ぶことが、現代の諸問題の理解にもつながるのです。

一般入学試験 数Ⅰ／数Ⅰ・数A（A日程） 講評

【出題のねらい】

出題範囲は「数学Ⅰ」または「数学Ⅰ・数学A」です。大問数は5問で、第1問～第3問は「数学Ⅰ」からの出題で必須問題、第4問と第5問が選択問題になっています。第4問は「数学Ⅰ」、第5問は「数学A」からの出題で、いずれか1問を試験会場で選択解答し計4問を解答します。試験時間は60分、解答方式はすべてマークシート方式です。

第1問は「図形と計量」、第2問は「2次関数」、第3問は「データの分析」、第4問は「数と式」、第5問は「場合の数と確率」からの出題でした。全体としての難易度は例年と同様で易～標準、高等学校の教科書の基本的な内容の理解と簡単な計算力を試すことがねらいの出題です。

【解答状況および解説】

第1問の(1)は、3辺の長さが与えられた三角形に関する問題です。まずは、 $\cos \angle ABC$ の値、続いて三角形ABCの面積、三角形ABCの外接円の半径を求める問題ですが、余弦定理、面積の公式、正弦定理を正しく使えるかどうかをみる基本問題です。入試の頻出問題ですが、教科書の基本問題でもあるので是非とも正解してほしいところです。

(2)は、立体図形への応用問題です。前半は、四面体のPABCの頂点Pから底面に下した垂線OPの長さを求めるのですが、体積が与えられていて底面の面積は(1)で求めているので、体積の公式を用いれば四面体の高さであるOPの長さは簡単に求めることができます。後半は、四面体の3辺PA、PB、PCの長さの和を求めるのですが、Oは三角形ABCの外接円の中心ですから、三角形PAO、三角形PBO、三角形PCOはすべて合同な直角三角形になるので、 $PA = PB = PC$ であり、三平方の定理を用いればこれらの和を求めることは難しくないでしょう。第1問は(1)、(2)ともに7割以上の正答率でした。

第2問は、数学Ⅰの「放物線の方程式」、「2次関数の最大・最小」に関する問題です。

(1)は、放物線 $C: y = x^2$ を平行移動した放物線、さらにこれをy軸について対称移動してからx軸、y軸方向に平行移動した2つの放物線の方程式を求め、最後はこれらの交点の座標を求める問題です。このタイプの問題は、グラフを作図して確認することがポイントです。

(2)は、2つの2次関数を定義域に分けて定めた関数の最大・最小に関する問題です。

やはり、グラフを正確に描くことがポイントです。(2)の正答率は、(1)に比べるとやや低いですが、半数以上の受験生が完答できたようでした。

第3問は、箱ひげ図に関する問題です。(1)の四分位範囲は全く問題なかったようですが、後半のa、bのとり得る値の組数を求める問題は、ややてこずった受験生が多かったようです。

(2)は、標準偏差の意味、分散に関する問題です。標準偏差はデータの散らばりの度合いを示す数ですから、標準偏差を最大にするa、bの組は明らかです。しかし、データの分析は不慣れな受験生が多いようで、第3問は全体的に正答率が低かったです。

第4問は、無理数に関する問題です。(1)は、二重根号を外し分母を有理化する問題で、こちらは大半の受験生が正答できていました。最後の $n \leq x < n+1$ の意味がやや難しかったようですが、 n は x の整数部分のことで、入試でもよく目にする式なので確認しておいてほしいところです。

(2)は、 $x + \frac{8}{x} = 8$ が計算できたら、この式の両辺に x をかけると $x^2 + 8 = 8x$ となり、 $x^2 - 8x = -8$ を簡単に求めることができますが、 $x + \frac{8}{x} = 4 + 2\sqrt{2} + \frac{8}{4 + 2\sqrt{2}}$ をそのまま計算してもそれほど手間はかかりません。しかし、最後の3次式の値は $x^2 - 8x = -8$ あるいは $x^2 - 8x + 8 = 0$ を利用して、例えば $x^3 - 8x^2 + 9x - 4 = x(x^2 - 8x + 9) - 4 = x(-8 + 9) - 4$ として、次数を落とすなどの工夫をした方がよいのですが、正答率は高かったです。

第5問は、硬貨を投げて数直線上で点を動かしていく問題です。このタイプの問題は、6回硬貨を投げたとき表の出た回数を r 、移動した点の座標を x として、 $x = r - (6 - r)$ すなわち $x = 2r - 6$ のように、表の出た回数と点Pの座標の関係式をつくっておくと考えやすくなります。(1)は $r = 4$ として x の値を求める、(2)は $x = 0$ として r の値を求めるのですが、いずれも反復試行の確率の問題になるので「一般に、確率 p のことが n 回中 r 回起きる反復試行の確率： ${}_nC_rp^n(1-p)^{n-r}$ 」の公式を用いて簡単に解答することができます。

(3)は、最後に原点に戻るのには6回中表が3回、裏が3回出ればよいのですが、「途中1度も原点に戻ることなく」とあるので、表表表裏裏裏、表表裏表裏裏、……のように具体的に表裏の出る順番を考えなくてはなりません。やや手間がかかり、場合分けを正確に行えるかどうかのポイントです。

【受験生へのアドバイス】

まずは、教科書レベルの問題を正確に解けるようにすることが肝心です。「公式をかけ」という問題はあまり目にしません。公式は、覚えるのではなく見なくても使えるようにするものですから、初めは公式を見ながら、しだいに見なくても問題が解けるようにすれば、公式が使えるようになります。今回の試験問題は、教科書の公式が使えると大半の問題は得点することができます。日頃から、教科書準拠（傍用）の問題集で演習を重ねるとよいと思います。

数学の問題を解くことは、練習を必要とするもの、例えば楽器の演奏技術やスポーツの技術などとよく似ています。しかし、1回のテストの出題は複数題出題させるので、多少失敗しても十分に合格点をとることができます。

自分のできる問題を確実に解くことができるように問題演習を重ね、良い結果が出せることをお祈りしております。

2024年度 一般入学試験 正答・配点

一般入学試験 A日程

英語 /平均点：62.4 点

	I												II								III		
	問1						問2	問3	問4	問5			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(ア)	(イ)	(ウ)														
正答	a	c	c	c	b	b	b	d	b	b	d	h	d	c	a	b	d	b	a	c	c	f	j
配点	2	2	2	2	2	2	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

	IV										V									
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
											3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目
正答	c	c	b	c	a	d	d	d	c	b	e	f	a	f	e	g	g	f	f	e
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3		3		3		3		3	

国語総合 /平均点：75.2 点

	問題一																問題二																				
	問一					問二	問三	問四	問五			問六	問七	問八	問九				問一	問二	問三	問四		問五	問六	問七	問八	問九	問十								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)				a	b	c				イ	ロ	ハ	ニ				(1)	(2)						(3)	(4)	(5)	a	b	イ	ロ	ハ	ニ
	正答	4	1	2	1	4	2	4	1	1	2	4	4	2	3	2	1	2	1	4	1	3	2	1	3	4	1	4	3	2	2	4	1	2	1	1	2
配点	2	2	2	2	2	4	4	4	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	4	2	4	4	4	4	3	3	3	3

日本史 B（選択科目） /平均点：48.8 点

	I												II											III													
	問1					問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問1					問2	問3	問4	問5	問6	問7			
	1A	2B	3C	4D	5E	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24A	25B	26C	27D	28E	29F	30	31	32	33	34	35		
正答	3	1	3	4	2	2	3	1	2	1	3	4	3	4	2	1	3	1	4	2	3	1	1	3	1	4	2	3	1	3	4	1	1	4	3		
配点	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		

世界史 B（選択科目）／平均点：68.0 点

	Ⅰ												Ⅱ												Ⅲ											
	問1								問2	問3	問4	問5	問1								問2	問3	問4	問5	問1								問2	問3	問4	問5
	1A	2B	3C	4D	5E	6F	7G	8H	9	10	11	12	13A	14B	15C	16D	17E	18F	19G	20H	21	22	23	24	25A	26B	27C	28D	29E	30F	31G	32	33	34	35	
正答	1	3	2	2	1	2	3	3	9	10	11	12	13A	14B	15C	16D	17E	18F	19G	20H	21	22	23	24	25A	26B	27C	28D	29E	30F	31G	32	33	34	35	
配点	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	

数 I ／数 I ・数 A（選択科目）／平均点：50.8 点

	第1問								第2問												第3問										
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
正答	2	2	6	5	1	1	1	2	4	7	4	1	1	4	5	1	2	-	2	-	5	9	1	2	1	8	6	1	2	2	1
配点	5		5	5	5		5		5		5		5		2	3		2		3		5	5		5		5		5		

	第4問											第5問											
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
正答	2	2	4	2	2	6	8	－	8	2	2	2	1	5	6	4	3	5	1	6	1	1	6
配点	4		2			4	5	5		5		5	5			5	5			5			

(注)第1問、第2問、第3問は必答。第4問・第5問のうちから1問選択。計4問を解答。

一般入学試験 B日程

英語 /平均点：68.3 点

	I												II								III		
	問1						問2	問3	問4	問5			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(ア)																
正答	d	b	c	d	a	b	a	b	b	b	d	f	c	d	a	b	b	c	d	b	d	g	i
配点	2	2	2	2	2	2	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

	IV										V									
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
											3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目
正答	a	a	c	d	c	b	d	a	a	c	c	g	c	b	c	b	d	b	c	g
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3		3		3		3		3	

国語総合 /平均点：76.9 点

	問題一																		
	問一					問二	問三			問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		a	b	c							イ	ロ	ハ	ニ
正答	2	2	4	1	2	2	4	3	4	2	4	1	3	2	3	1	2	2	1
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	3	4	3	3	3	3	3

	問題二																		
	問一					問二	問三	問四	問五			問六	問七	問八	問九	問十			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)				c	d	e					イ	ロ	ハ	ニ
正答	2	1	1	1	4	3	1	1	2	1	2	3	2	3	2	1	1	2	2
配点	2	2	2	2	2	3	4	2	2	2	2	3	4	4	2	3	3	3	3

一般入学試験 C日程

英語 /平均点：38.7 点

	I												II								III		
	問1						問2	問3	問4	問5			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(ア)	(イ)					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)			
正答	d	b	c	d	b	d	d	c	c	b	f	h	a	b	a	b	d	b	c	d	c	h	i
配点	2	2	2	2	2	2	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

	IV										V									
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
											3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目
正答	d	c	b	c	a	c	d	a	c	d	g	f	d	b	c	g	a	b	g	f
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3		3		3		3		3	

国語総合 /平均点：67.8 点

	問題一																		
	問一					問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九			問十			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)								a	b	c	イ	ロ	ハ	ニ
正答	2	4	3	4	4	4	3	3	4	4	2	2	3	2	1	2	1	1	2
配点	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	3	3	2	2	2	3	3	3	3

	問題二																
	問一					問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)									イ	ロ	ハ	ニ
正答	2	4	2	1	3	4	3	2	3	3	1	4	3	2	1	2	2
配点	2	2	2	2	2	4	3	4	4	3	3	3	4	3	3	3	3

一般入学試験 D 日程

英語 / 平均点 : 53.2 点

	I												II								Ⅲ		
	問1						問2	問3	問4	問5			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(ア)																
正答	d	b	c	b	c	d	c	c	b	d	e	h	a	a	c	b	c	d	d	a	b	g	h
配点	2	2	2	2	2	2	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

	IV										V									
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
											3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目	3番目	5番目
正答	a	d	b	b	a	a	c	a	c	d	f	b	b	c	a	f	f	e	a	e
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3		3		3		3		3	

国語総合 / 平均点 : 59.7 点

	問題一																	
	問一					問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八			問九			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)							(あ)	(い)	(う)	イ	ロ	ハ	ニ
正答	4	1	4	2	3	4	1	3	4	1	2	4	2	1	2	1	1	2
配点	2	2	2	2	2	4	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3

	問題二																		
	問一					問二	問三	問四	問五	問六				問七	問八	問九			
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)					a		b				イ	ロ	ハ	ニ
										設問一	設問二	設問一	設問二						
正答	1	3	2	4	3	2	4	4	3	2	1	4	2	4	1	1	2	1	2
配点	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3

2024年度 入学試験結果

全入学試験結果

※特別入試（社会人・帰国生・留学生）を含み、編入学は含まない。

学部	学科	募集定員	志願者	合格者
政治経済	政治経済	160	381	306
人文	欧米文化	80	183	159
	日本文化	80	280	221
	子ども教育	100	193	158
心理福祉	心理福祉	120	335	311
計		540	1372	1155

総合型選抜【講義方式入試】【英語特別入試】【アンバサダー入試】【課題方式自己表現入試】

学部	学科	募集定員	志願者	合格者
政治経済	政治経済	15	22	20
人文	欧米文化	15	16	15
	日本文化	15	24	21
	子ども教育	30	23	18
心理福祉	心理福祉	30	43	42
計		105	128	116

学校推薦型選抜【指定校制推薦入試】【公募制推薦入試】

学部	学科	募集定員	志願者	合格者
政治経済	政治経済	40	35	35
人文	欧米文化	20	15	14
	日本文化	25	28	28
	子ども教育	22	24	24
心理福祉	心理福祉	32	52	52
計		139	154	153

スポーツ推薦入試・クリスチャン推薦入試

学部	学科	募集定員	志願者	合格者
政治経済	政治経済	40	1	1
人文	欧米文化	20	0	0
	日本文化	25	0	0
	子ども教育	22	1	1
心理福祉	心理福祉	32	0	0
計		139	2	2

一般選抜入学試験結果

※合格最低点は素点による点数を表記。可否判定には各科目の得点を偏差値換算した数値を用いています。

A 日程『3 科目型判定』と『ベスト 2 科目（高得点上位 2 科目）型判定』を採用しています。

学部	学科	募集定員	志願者	合格者	合格最低点	
					3科目 (300点満点)	ベスト2 (200点満点)
政治経済	政治経済	25	141	120	143	134
人文	欧米文化	15	102	94	151	105
	日本文化	15	138	122	140	111
	子ども教育	20	100	87	148	110
心理福祉	心理福祉	25	131	127	91	82
計		100	612	550	—	—

B 日程

学部	学科	募集定員	志願者	合格者	合格最低点(200点満点)
政治経済	政治経済	20	19	15	84
人文	欧米文化	5	8	4	84
	日本文化	5	13	9	158
	子ども教育	8	10	6	101
心理福祉	心理福祉	10	24	16	86
計		48	74	50	—

C 日程

学部	学科	募集定員	志願者	合格者	合格最低点	
					2科目 (200点満点)	高得点1科目型 (100点満点)
政治経済	政治経済	10	5	4	104	51
人文	欧米文化	5	1	0	—	—
	日本文化	5	3	1	144	57
	子ども教育	8	2	2	92	64
心理福祉	心理福祉	8	4	3	104	51
計		36	15	10	—	—

D 日程

学部	学科	募集定員	志願者	合格者	合格最低点	
					2科目 (200点満点)	高得点1科目型 (100点満点)
政治経済	政治経済	5	7	5	106	60
人文	欧米文化	若干名	6	6	119	49
	日本文化	若干名	5	4	121	53
	子ども教育	3	3	1	118	68
心理福祉	心理福祉	2	4	3	119	49
計		10	25	19	—	—



聖学院大学

〒362-8585

埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL **048-725-6191** (アドミッションセンター)
<https://www.seigakuin.jp>

